

# 現代社会への想い

## 001) 序

フランスのルネッサンス期の役人であり哲学者であるミシェル・モンテーニュの「エッセー」に魅了されて、50年あまりになります。彼の寛大な心、発想のユニークさに魅了され、その後の人生で、機会があるたびに彼の本を手にとって読み返しました。その意味では彼も私が人生を共に過ごしてきた一人であるのでしょう。

高校時代からある程度の節制は守ってきましたが、それは当時亀井勝一郎さんの、おそらく「青春論」のまたは「人生論」の影響を受けたからであり、今でも彼の人間の在り方に対する態度、例えば「他者の陰口は決して言うてはいけない」といういくつかの教えは守っているような気がします。しかし私の性格や行動パターンはとても斬新で、他者に合わせるようなところはあまりなく、他の普通の人たちから見れば、私はとてもわがままで、無責任な頓珍漢（とんちんかん）な性格と思われているでしょう。実はこの性格にとっても影響を与えたのがまさしくモンテーニュであらうと思っています。

学校で枕草子や方丈記や徒然草などを学んだものの、小納言の時代背景や仏教的な無常観などに興味を感じたり感動することはほとんどなく、もっぱらルネッサンス期の人間性の開放の時代に書かれた、モンテーニュの著作ばりの感受性と人としてのいい加減さ（＝寛大さを）ないし人間らしさを維持してきた私にとっては、まさに人生の師である一人でした。

若い時にモンテーニュに出会ったのですが、（確信は持てませんが）彼のエッセーの中に、「若い時には随筆など書くべきではないが、老齢になったらエッセイ（＝随筆）を書いても差しつかえない」と書いてあったように記憶をしています。そのこともあって、もう十分に生きてきて余命もあまりないことで、いろいろ批判されても別に悔やむこともないだろうし、傷つくような感受性も薄れているのではないかと思い、ホームページのこの項に、いろいろなことを書き綴って、兼好法師の「徒然草」の序段のような気持ちで、「随筆」を書く人生を楽しみたいと思っています。

このような私的なことをホームページに載せる理由は、私が出会った素晴らしい先人に、多くの若い世代が接してくれることを願っているからです。そして「随筆」とは、そもそも私的な文学ジャンルであるから、許してもらえるであらうという考えもあります。

## 002) 恋

恋とか男女関係につきましても私はとても寛大です。2020年の今も、WOWWOWで最新のニューヨークの白人たちの現実的な男女関係を描いた連続テレビドラマを毎週のように楽しんでいます。欧米のカトリックの厳しい「性」への掟や、現在の日々における日本での芸能人や政治家への「恋」に関わる自由な行動に対する批判などに対しても、私はとても批判的な立場をとっています。というのも、恋や愛は極めて人間的なことであり、これを批判することは、人間の本性ないし人間性そのものへの批判になると考えているからです。このことを教えてくれたうちの一人が、九州大学の教養部の時の英文学の先生であり、先生が教材に使ったのが、「性の開放」を主張するノーマン・メイラーの作品だからでした。その後「裸者と死者」をはじめとして、映画化された「タフガイは踊らない」などのメイラーの作品は全部読みました。メイラーの発想は、50年前の日本ではとってとても斬新なものであり、そのことから、おそらくカトリックの倫理観が支配するアメリカでも斬新な文学者であったらうと思います。おそらく彼は、失敗をやらかしたクリントン元大統領にも大きく影響を与えただろうし、村上春樹さんや村上龍さんたちにもかなりの影響を与えているのではないだろうか勝手に推測しています。ちなみに、当時の九州大学は、今とは全く異なった男ばかりの世界であり、経済学部200名の中で、女性は一人でした。ですから、当時の九州大学の英語教材では、アメリカの当時は進歩的だと言われている男性月刊雑誌「プレーボーイ」の英語版を使用されてい

た先生もいました。ちなみに、モハメッド・アリのアフリカでのフレイジャーとの闘いの様子を、ノーマン・メラーがプレーボーイに寄稿していました。

### 003) 自由奔放

1960年の末から1970年頃の日本は、文学や芸術や政治経済などいろいろな面で、自由奔放な時代であり、漫画家では手塚治虫さんや赤塚不二夫さん等を筆頭に、今でも天才であると評されている、心豊かな時代でした。現在の子供たちや若い世代に、あの当時ののびのびとした雰囲気を経験してもらいたいと願うのは、私たちの世代の共通の気持ちなのかもしれませんね。ちなみに志成館は学習塾ですが、「ブラックジャック」は、中沢啓治さんの「はだしのゲン」などと共に、塾の本立てに並んでいます。「天才バカボン」や山上たつひこさんの「がきデカ」はさすがに自宅に置いていますが（笑）。

いつも願うのは、つまらないゲームや、ネットでの低レベルの会話やインスタ映えなどではしゃぐネット世代の、狭い世界で生きる人たちが、文学の大きな世界を理解し、自分の心の中に受け入れて生きていってくれることです。J・K・ローリングの「ハリー・ポッター」やJ・R・R・トールキンの「ロード・オヴ・ザ・リングズ」などもやはり立派な文学に入るので、書籍も映画も塾に置いてあります。

### 004) 優雅

私のベッドというかソファというか、眠る場所というか書斎というか、なんと言ってもよいかわからない部屋では、すぐに手が届くところにたくさん、自分と同じような人たち、同じような感性を持った人たちの本が何十冊も並んでいます。これからもこの「随想」の場所に徐々に追加されるであろう人たち、ノーム・チョムスキー氏、ジャック・アタリ氏、ナオミ・クライン氏、マイケル・ムーア氏、オリバー・ストーン氏、広瀬隆氏、佐高真氏、ユルゲン・ハーバーマス氏、マイケル・サンデル氏、水田洋氏などの書籍がたくさんあります。井上ひさしさんや阪口安吾さんたちの本も。その日の気分に応じて、いろいろな本を、勝手気ままに取り出しては、いつも布団の上に置いたまま眠っています。「これほどの恵まれた時間はない」といつも満足して眠っています。気持ちがわかっていただけるでしょうか？ また、何人もの方が、ここに列挙している人物名を見ただけで、私の人格がある程度はばれてしまうことも認識しています（笑）。

ちょうど子供たちがあこがれのスポーツ選手や、あこがれのスターのグッズを身近に置いて、そのヒーローやヒロインたちと気持ちを一緒にして心地よく眠っているのと同じ状態なのです。長い年月をかけて知り合った素晴らしい人たちと語らいながら眠りに落ちているのです。もちろん主に書籍で出会った人たちであり、現実の問題としましても私の様な凡人が現実にもその人たちと会うことはほとんどありえません。書籍を通じて知る方が却って親しくなれるという感覚でもあります。特に私は、言葉を通じて、自分の考えや感謝の気持ちを正確に伝えることは上手ではありませんから、それで十分に満足しています。

皆さん、私が如何に幸せに眠っているかわかっていただけますか。わかってくださいね。

### 005) ラーメン

私は糖尿病と診断されて長いです。いつ合併症が起こってもおかしくないと言われ、これまでもいくつもの合併症が出ております。薬は毎日大量に飲み続けています。とりあえずは死にそうな目には合っていないませんが、糖尿病は、基本的には血管の病気であるために、体の隅々が破壊されていることは日々感じています。つまり指先や足先、皮膚そして目などの毛細血管が多いところが破壊されているということです。それなりに節制をしているのですが、気楽な性格なのでそれなりにでしかないのです。いつも妻に怒られています。

それではなぜ糖尿病になったのかと申しますと、私が食べることに意地汚い伽羅、よく言えば美食家であるから

だと思えます。美食家であるといっても、高級なものや珍しいものを食べるわけではありません。そもそも福岡県は、海も山も近く、坂野は新鮮で自分で釣ってくることもありますし、野菜や果物は豊富で、ミカンはまだ自分の畑に10種類ほど栽培し、一部を販売しているくらいですから。タバコはこれまでに吸ったことは一度もありませんし、アルコールを寄ってしまうまで飲んだこともほとんどありません。

実は単にラーメンの食べ過ぎが原因なのです。高校生時代にラーメンを食べて以来、これまでに30000食のラーメンを食べてきたからです。インスタントラーメンを除外しての話です。自宅に母が食事の準備をしていようと、地域の名士たちと10000円以上するフグやクエの料理を食べていても帰りには必ずラーメンを食べるので。日によっては4回ほど食べることもありました。おかげで20代では腎臓を痛めて入院をしたこともあります。そもそも九州大学に入学したときに、農学部の教授から、箱崎にある「赤のれん」(今はありません)のラーメンを食べなかったら九州大学に合格した意味がないと言われましたし、近くには宇宙飛行士の若田さんが通ったという「だるまラーメン」もありましたから、毎日2回以上食べたというのも嘘ではないということがわかると思います。ちなみに、とんこつラーメンの発祥の地は久留米なのですが、50~60年前の博多にはいくつかの美味しいラーメン屋さんがありましたが、その当時の日本には東京を含めて美味しいラーメン屋さんはどこにもありませんでした。ですから実際に日本中に広めたのは福岡市東区箱崎地区であると今でも思っています。一風堂も一蘭も、ルーツは箱崎にあると考えているのです。

日本中のすべて都道府県を車で走ってきたのも、風景や文化や産業の確認だけではなく、ラーメンを食べるためであると言っても過言ではないでしょう。

結論は何かというと、世界中にはおいしい食べ物が山のようにありますし、人生ではそれらを食べ歩くには、人生は短すぎるでしょう。しかし、私なりにおいしい食べ物を食べ歩いた結果として、糖尿病になるほどに日本中の多種多様なラーメンそして地元のおいしい色々な店のラーメンを食べることができた人生は最高のものであったということです。

今や日本中のどこのラーメン屋さんもととてもおいしいので、30年前のように、あちらこちらおいしい店を探し求める必要もないくらいです。

さあみなさん、糖尿病になるまでラーメンを食べて、人生を楽しみましょう。

## 006) 心の諸相

「歓喜」「憤怒」「悲哀」「快樂」「憂慮」「嗟嘆」「恋慕」「恐怖」「浮躁」「放縱」「率直」「虚榮」

この12個の言葉で、あなた自身の心の奥底を覗いてみませんか。

(出典は中国の諸子百家の一人である「莊子」に関する著作からです)

## 007) 監視社会

「現代は監視社会でプライバシーがあまり保護されていません。こっそりと悪戯していてもばれてしまうのです。一昨日12月25日にはネットいじめでも犯罪になることが新聞に載っていました。つまりあなたたちがもしネットを利用して犯罪行為をしたり、いじめをしたり、犯罪行為の教唆の書き込みをすればそれは一生残るということです!!そして裁判の証拠になり犯罪者となり、損害賠償がさせられるということです。中学高校時代の「前科?」も一生残ります。あなた達が使用したスマートフォンもメールもすべてグーグルセンターなどの大情報保存センターに保管されているのです。時代はそこまで進んでいるのです。」

・・・以上の記事は2017年春の志成館のASSETSの記事です。

しかし、2020年6月の今日のテレビで、自民党の夫婦の国会議員である河井夫妻が公職選挙法違反(買収容疑)で逮捕されたというニュースが流れていました。この夫婦は「ネットでやり取りした票の買収行為、犯罪が発覚しないように、刑事の調査が始まる前に、コンピューターから消去した」そうだから、証拠は見つ

からないと思っていたそうです。恐ろしく無知な国会議員もいたものですよね。しかも法務大臣だったのだから、この国の政治家の知的レベルのひどさひいては日本の危機がわかっていただけだと思います。「いったんネットを利用した記事や情報は、永遠にグーグルのセンターなど民間のコンピューターに保管されている」と私は子供たちにいつも教えています。検察官はネット会社に依頼して、過去の情報を入手して、夫婦が「消し去った」思っていた過去のメールを、裁判所の許可を得て、復元させて、裁判の証拠資料として使うのです。

わかりましたか？あなたたちがネットを使って交換した情報は、永遠に消えないのです。いじめも嫌がらせもそして愛ある行為や親切な行為も、決して消えないのが現代社会なのです。

因みに欧米ではあなた達の個人情報民間会社が握っていますが、中国では、国家が国民のすべての情報を握っています。後者の方が恐ろしいと考えがちですが、そうとも限りません。習近平さんは将来、中国のすべての国民の経済状態を把握したうえで、貧しい人が出ないように格差が生じないようにという、「共産主義の理想を実現する」という「夢」を持っておられるからです。いずれにせよ、自由が保てそうにもない怖い時代そしてプライバシーなどが無い時代になりました。

現代社会でいちばん安全な方法は、紙に書いて情報を交換し、伝えたいことが伝わったら、火で焼いてしまうという、2000年以上前の方法だということになります。全く情けないことになりましたね（笑）（泣）。検察官などが友人とマージャンをする時も、「点数表と掛け金の配分を紙に書いて計算し、その後その紙を粉々に切り裂く」という噂を耳にしたことがあります。噂ですよ。それに少額での友達との掛けマージャンは「とばくの罪には当たらない」というのが私の見解です。だって、競馬競輪宝くじロトなど、国家は賭け事の胴元をやって大儲けをしているのですから。このあたりの国民的な議論も必要でしょう。そうでないとつまらない人生になりますので（笑）。

## 008) E・タイガー・ウッズのただ一つの後悔

プロゴルフ界のスーパーstarであるタイガー・ウッズが人生でただ一つ後悔していることがあります。それは「大学を卒業しなかったこと」だそうです。彼はたくさんのいかがわしい女性と関係を盛った挙句、「離婚」され、医師には「セックス依存症」と診断されているのですが、彼自身はそのことを悔やんでいるわけではありませんし、私たち彼のファンから見ても、そんなことがあっても、別に個人の好みの問題であると考えて、特に気にもしません。しかしあなた達にとってというか、一般の人たちにとっての彼のメッセージは重大です。

例え若い頃スポーツで活躍していてどんなに有名だったとしても、体が動かなくなるとただのおっさんやただのおぼさんになるのです。同様に、若いころどんなに可愛くてもどんなにかっこよくてもただのおっさんやおぼさんになるのです。

しかしこれに反して大学で学んだことは40歳以上を過ぎてから実を結び始めるのです。彼からのメッセージの重大さを理解してください。 ニュースウィークからの情報です。

2017年 森

## 009) 人のうわさも75日 「死」で自分の存在をアピールしても何も残らない

「人のうわさも75日」という言葉があります。新聞には子供たちの、主にいじめを苦にした自殺の記事が絶えません。しかし「死ぬこと」によって抵抗や自己主張をしたとしても、少し時間が経てばみんなから忘れ去られるものなのです。またいじめの真実が解明されるとも限りません。「そんな事件もあったなーとかそんな人間もいたなーとか」。人間とはそういうものなのです。だから人間は、どんなつらいことがあっても生き抜いて抵抗し、自分を守り抜くのです。それに、恨みを晴らしたいのなら長い人生には仕返しのチャンスが必ずやってきます。その時のために、どんなに悔しくても命だけは犠牲にしないようにしてほしい。このことはいじめが消えることがない大人の世界そして大人たちも同じだと思います。

## 010) 理系の知識よりも文系の知識が必要な時代へ

人類が破滅しないためには、理科系の知識以上に文科系の知識が重視される時代が来ています。 そうしないと地球環境の意地の問題、遺伝子組み換え食品や遺伝子組み換えの人間の創造ということと人間の存続や威厳の問題を保てないだけでなく、今や人類が破滅する時代が近くなっていることが理解できる時代だからです。科学万能の時代から、しっかりと「人間の心優先の時代」に戻し、そして人類の存続を願うばかりです。尚、このような問題が発生するのは、「理科系と文科系を峻別する」ような「高校や大学の入学システムが狂っている」ということがわかっていただけたら幸いです。

2016年 森

## 011) 「純血種」は脆弱（ぜいじゃく）である

「新パナマ病」でバナナが危機に瀕しています。このような伝染病が流行するのは、人間が「よく売れるおいしいおなじ品種だけをつくり続けているから」です。多くの「犬」などのペットを飼っている人は「血統書付きの純血種の犬は、雑種の犬に比べて病気にとても弱い」ことは知っておられるはずです。「バナナ」も同じ生き物ですから良い物ばかりくっつけても強い品種はできないのです。

そこで私のおせっかい・・・「人間でも同じ、純粹培養で守られ、甘やかされた人間は、ピンチの時や忍耐が必要な時にはとてもつぶれやすい」から、「ごく普通の中学や高校で頑張った人間の方が生きていく力が強い」のです。牽強付会になりますよね。(笑)。

2016年 森

## 012) 大学の研究者への資金の削減は必ず悲劇を招く

「大学の教授やその周りで働く人たちの給料や研究費がとても少なくなっている」と言われて久しいです。とりわけ医学や工学などの分野での基礎研究の費用や社会科学という現代社会を批判的にとらえよつとする分野での国家による予算配分が相当に削られ続けています。つまり、すぐにお金という目に見える形で帰ってこない分野に対して日本国政府や企業は研究費を出そうとせず、他方で企業は投資したお金が投資額以上の利益をもたらす研究にしかお金を出さないという傾向が続いているということです。現代社会は「営利は美徳である」という、狂った「新自由主義」が世界中に蔓延しているのです。「それがなぜ悪いのか」と批判される方も多いことはわかっています。しかしなぜこのようなことが重大問題であるか考えてみませんか？それは日々の生活に追われ、知識も十分とは言えない私たち国民は、知識が豊富な大学の学者に人生を守ってもらう必要があるからです。つまり大学教授は国民の一人一人を守る責任感と自負心があり、その気持ちを維持してもらうためには、国民の税金を沢山給料として与え、自由な研究をさせるべきであると考えているからです。大学教授の給料は絶対に下げはいけません。私の友人も私の教え子も、広く学者という人たちは、私たち凡人にはわからないほどの苦勞や勉学を積み重ねているのです。しかも40歳くらいになるまではほとんどまともな給料をもらうこともなしに。今の時代であればあるほど、このような学者を大切に、たくさんの税金を与えて、国民を守ってほしいと願うのが素直な気持ちではないでしょうか。ただ最近では出世やお金儲けばかりを考えている学者が目立つのには辟易（へきえき=あきれ果ててしまうこと）します。

2016年 森

※ 上記の危惧通り、2020年のコロナウイルス=COVID-19のパンデミックでは、世界中が医師や看護師不足、医薬品の不足が理解され、そして「研究者への資金供与の削減」が問題となりました。国を牽引するのは、強欲な企業家ではなく、真に国民の利益を考慮することができる立場にある「学者」であると私は思い続けているのですが、いかがでしょうか。

2020年 森

### 013) 「ポスト真実」という恐ろしい造語

「ポスト真実 (=真実のあと)」という言葉が使われているという記事が新聞に載っていました。この言葉は「ポストモダン (近代の合理主義以降)」という言葉をもとにした新しい造語です。ポストモダンとは、「近代社会は大きく発展したのだが、それで人間は幸せになれたのだろうか」という問いかけをもとに、「もっと人間が住みやすい社会を考えよう」という意味の言葉です。そこでは、いろいろな課題を包摂し、それらを解決できないままになっている近代社会、そんな中で近代合理主義後の「新しい合理性」をどのように構築していくべきであろうか、ということを考える人たちの思想や哲学をこのようにポストモダンと総称します。

ポスト真実とはこの言葉を悪用したというか「引っ掛けた言葉」だということになります。つまり「人間は今までは正直なことを言うのが常識だったのだが、現在は正直であることを無視するというか馬鹿にして、嘘ばかりついている人間ばかりになって、「正直者のあとの時代になった」ということです。なんとまあ恐ろしい時代なのでしょう。トランプさんや安倍さんを見ていると、嘘、ごまかし、言い逃れ、脅しなどまさしく「ポスト真実の人間である」とお感じになると思うのですが、いかがでしょう。こんな言葉を認めると、多数の人々に影響力がある政治家や企業家特に権力者や学者や富裕層はいつでも嘘をついて、自分の利益を守るような行動をしてもかまわないということになります。ほんとうに恐ろしい言葉ができる時代になりました。

・・・将来、環境破壊や核戦争を起こして人類が消滅した後、誰が真実を検証し、誰が人類を破滅させた責任を取るのでしょうか。もはや何が真実なのかさえも検証することができないような時代へ突入したのでしょうか。世界中のウェブサイトにも虚偽が氾濫する現代は、紛れもなく「ポスト真実」の時代なのでしょう。

2016年 森

### 013) 「ロボット=AIが東京大学に合格できなかった」という嬉しいニュース

「人類」にとって久々の良いニュースです。それはご存知の通り、ロボットを東京大学の入学試験に挑戦させようという試みが失敗したというものです。確かに色々な点でロボットは優れた能力を有していますが、人間が備える「心」の部分が欠けており、人の心の解明が必要とされる「国語の読解」や「社会的な判断」ができなかったのです。人間の「脳」は高性能ロボットの10万倍の能力を有すると言われているから、やはり人間が勝っているということが証明されてひとまずは安心ですね(笑)。

しかし将来10万倍の高性能の「心」の部分、精神科医の英知などを集積してコンピューターに組み込むと、もしかしたら「心」の部分でもロボットに負け、人間がロボットに操られる時が来るのかもしれない。この可能性につきましては、フランスの政治経済学者のジャック・アタリの本を読んで、その危険性を理解してください。

2016年 森

### 014) ここでもジャック・アタリの紹介のニュース

これまでの数十年にわたるグローバリズムの動きは、「世界を一つの単位と考えてその中で一体となった政治経済文化の発展と平和を目指したもの」でありましたが、もたらした現実の世界は、一部の超大国や富裕層や大企業が支配する「不自由な」「格差社会」であり、世界的な「自然環境破壊」そして「小さな国や地域の文化の破壊」「人心の荒廃」「資源枯渇」そして「途絶えることのない紛争の連続」でした。このような状況下で、イギリスのEU離脱、世界中の多くの国での右翼民族主義者による移民排斥運動、そしてアメリカでの自国中心主義を唱えるトランプ大統領の誕生という、世界が分断される状況が続いて発生しています。

しかし今や狭くなった地球の中で、自国中心主義(自分の国さえ豊かになればよいのであり、ほかの国の間

題は関係ないとする考え)が広まると、再び国家間の争いが再燃し、結果として大きな戦争が生じ、人類は破滅することは子供でも簡単に予想できると思います。ですからすべての物事を「世界(または地球)」というグローバルな視点からとらえる必要がとても強くなっていると言えるでしょう。

そこで「合理的愛他主義」を唱え「これからの時代を若者はどのように創っていくべきか」を提案する、館長が尊敬するジャック・アタリの著作「未来のために何をなすべきか」を紹介します。彼の考えは理想的すぎるとして、すべての人から支持されているわけではありません。しかし彼も館長も、この本のように考えないと、この本の中にあるように「もう人類は30年ももたないであろう」と本気で考えています。

森はこの本の提言が「若い世代の聖書」になってほしいと考えています。

2016年 森

## 015) ギャンブルはしない方がよい

「カジノ法」ができて、USJ近くの大阪湾の埋立地に、ラスベガスの様な「とぼく場=ギャンブル場」を開こうという「大阪維新の会」を中心とした政治家たちがいます。私にはこんなことを考える政治の指導者がこの世にいることが信じられません。「宝くじ」を含めて「公営ギャンブルは、国の税収不足を補うために、貧困者からお金を絞るとするためのひどい政策」なのです。少なくとも経済理論ではそのようなことになっています。ただでさえ今の日本には競馬、競艇、各種の宝くじ、パチンコなどのたくさんのギャンブルがあるのにそれをもっと増やそうなどはあまりにも愚かな発想でしょう。ギャンブルは面白い面があるし、ギャンブルでお金を手にした時はうれしいものです。しかし数学的には=統計理論的には勝つことはあり得ません。すべて主催者である「国の懐」にお金は吸収されていくのです。・・・話が長くなるのでやめにしますが、宝くじの一等賞にあたる確率は1000万分の1であることや、公営ギャンブルのこすっからい仕組みでは競馬や競艇で勝つことはあり得ないことを数学の時間に確率理論で証明しますのでその時はしっかり聞いておくように。確実に伝えたいことは「ギャンブルには一生手を出してはいけない」ということです。ギャンブルをすると人生が破壊されてまず人並みの生活を維持することができないことは統計でも証明されているのです。確かにギャンブルは面白いと思います。友達同士でちょっとしたことで賭けをして「友達とお互いの予想力を競って楽しむ」ことは許されてもよいと思います。昔、館長が小学生時代には学校の先生たちが高校野球や大相撲で職員室の中で小さな金額でかけをしているのをほほえましく見ていました。少ない金額ならこのような賭けは健全であるし、大学生たちが下宿で食事代をかけてするマーじゃんことなども楽しくて健全だと思いません。お互いに家族内や友人間でお菓子をかけて「賭け事ゲーム」を楽しんでください。問題は「限度です」。賭けをして楽しんでたのにいつの間にか兄弟仲や友情が壊れたり、いじめの原因になったり、(もうこのことを経験している中学生や高校生も多いと思います)大人の世界では犯罪につながることも多いのです。ギャンブルなどしなくても世の中には映画、音楽、魚釣り、スポーツ、ツーリング、ドライブ、読書、絵画その他限りないほどの楽しみがあります。私のところでは子供たちに「人生」を教えています。

2016年 森

## 016) 大隅良典講演会「常識や権威は疑ってかかるべし」

ノーベル賞を受賞された大隅良典さんの講演会の内容報告です

福岡高校100周年記念講演として企画されましたので参加しました。(先生とは5年後輩の20回高校卒業生です)

### 1) 科学と技術は別物である

→科学は古くからの歴史の中で、多くの人々によって受け継がれた尊い営みである  
→先生の心の中に、これまでの世界中の多くの科学者に対する敬意が感じられます  
→他方で**技術やその具体化であるいろいろな便利な製品はその応用であって、科学とは別物である**という、彼の「科学者であること」の誇り高さが読み取れます。わかりやすく言い換えると、「私たちはお金儲けや新製品を発売するために努力しているのではない。もちろんノーベル賞をもらうために研究してきたわけでもない、ただ人類の英知を引き継ぎ、それをすべての人類の幸せを願って研究をしているのである」という学者の心意気が随所に感じられた講演でした。

## 2) 権威や常識をそのまま信じるべきではない

→**他者に合わせて多数の意見についていけば安全で居心地が良いかもしれない。しかしそのような心構えの人間には「新しいこと」も「真実」も発見できない。**  
→権威とは「地位や評価でみんながすごい」と認めるものである。伝統は「みんなが立派であると認めてそれを繰り返して守り続けたもの」である。これらを「本当に立派なのか」「本当にこれを繰り返して良い物なのか」と疑ってかかると真実も未来も見えないと先生は話しておられました。  
→その文脈で、「教科書の内容など10年で変わる」と考えるくらいでよいと話されていました。

## 3) 中学高校で学ぶ勉強の内容は人生の基礎になるものだから全力で学ばなければならない。

→しかし**学校で習うことだけではなく、それ以外の事にも目を向けて生活する必要がある。**  
→そして「研究もそして人生も、学校の勉強のように答えがあるわけではない」ことをしっかりと意識して生きていくべきであると話されていました。  
→彼は植物細胞の中のゴミである細胞の中の「液胞」の研究から、そのゴミであるものがまさしく再生するための新しいものを生み出していること(オートファジー)を発見してノーベル賞を受賞されたのですが、そのことに関して「**誰もが見逃し、見捨てるようなものにも興味を持ちなさい**」と話されていました。  
→彼は「自然科学」者ですが、彼が「社会科学」の分野、つまり「君たちの日常生活のいじめや授業内容や部活などのちょっとした問題についても真剣に考えるのですよ」というメッセージを送っているのを理解してください。

## 4) 我田引水や牽強付会(=話を自分の都合がいいように導くこと)と批判されるかもしれませんが、この報告書によって、彼の教育方針が志成館の指導方針とほぼ、いや全く同じであることがお分かりになったと思うのですがいかがでしょうか。

→彼は東京工業大学の「先生」です。学生たちの未来に役立つために働いておられるのです。  
→ということは小学校の先生も中学校の先生も高校の先生もそして志成館の先生の様な塾の先生も、**「新しい時代の子供たちに奉仕するための仕事が先生である」という自覚があるなら、みんなこのような考えになるものなのです。**  
→生徒を点数や学校の名前だけで評価するような先生は、本当は良い先生とは言えないのです。  
→受験勉強で点数に追われている福岡高校の秀才たちに大隅先生の本心がどれだけ通じたかわかりません。

## 5) 高校や中学の思い出についての大隅良典さんの話

→ノーベル賞を受賞したことで有名になって同窓会や周囲の人たちにもてはやされる生活について先生はあまり喜んでおられるようではありませんでした。  
→また中学や高校時代の学校生活で特に思い出になることもなかったようです。私も含めて多くの人たちが「同窓会」を歓迎するわけではないことも、先生の話聞きながら感じました。せつかく福岡まで出てきて話をされている大隅先生から怒られるかもしれませんが(笑)・  
→それよりも**世界中からの講演依頼で相当にお疲れのようで、館長にはそのことがとても心配になりました。**  
→「科学者」なので話し上手ではありません。そこがまた科学者大隅良典の魅力だとも感じました。



## 017) 談山神社と「談合」

数年前に奈良県の「談山(たんざん)神社」に行ったあと、気に入って最近再びそこに行きました。ここはいうまでもなく、紀元645年の「大化の改新」と呼ばれる、中大兄皇子と中臣鎌足が、蘇我入鹿暗殺というクーデタを画策した場所であり、この神社は別名「談合(だんごう)神社」と呼ばれています。政治家や公務員や建設会社などによる、国民の税金を盗み取る犯罪行為である不正な「談合」という言葉を冠して呼ばれているのです。

出会いとは不思議なもので、この旅行のあと、飛鳥時代や奈良時代、そして応神天皇や仁徳天皇の史実についての新しい見解、さらには2019年には天智天皇の本当の姿などについての各種の本意であいました。「応神天皇の制服」や「大化の改新の黒幕」などです。取り立てて目的もなく、ただ漠然と旅行をしていると、いろいろな新しい出会いがあり、そのことからいろいろな知識を得、楽しい経験ができます。「行動を先にして、そのあと色々な目標をつくる」という、安易な発想も時には楽しいと思います。

2017年 森

## 018) 安倍総理に「仁」や「徳」は備わっているのか？

新聞を読んでいると(読売と産経は安倍総理の宣伝用の新聞社なので別にしますが)ここ数ヶ月各新聞紙上で安倍総理大臣に対する一般国民からの批判の「投書」がやみません。私のコンピューターにもたくさんの投書をスキャンして保存していますが、すべてを表には出していません。その理由は、安倍内閣による言論弾圧の結果として、自由な記事が書けない記者たちが、「国民の声である投書」を通じて、間接的に安倍内閣の批判の記事を書いていると解釈してもよいのではないかと思っているからです。

その多くの批判の記事の中でも「特筆に値する」と私が感じた「投書」があります。それは安倍総理こそ「巧言令色少なし仁」の典型的な人間ではないのかというものです。

「巧言令色鮮し仁」とは孔子の「論語(学而篇)」からきている言葉です。「言葉をたくみに飾り、顔つきを和らげて人にへつらう人には仁(=思いやりの心)かかっている」(明鏡国語辞典)という意味です。口先ばかりきれいごとを言って、すべてをいい加減にごまかしていると解してもよいでしょう。この言葉は「剛毅木訥仁に近し」=「(ごうきぼくとつじんいちかし)言葉が少なくあまり話し方も上手でない人ほど思いやりの心がある」という言葉とセットになって理解されており、中高生にとっては必ず理解し暗記すべき言葉となっています。この投書者と私に共通する安倍総理への評価は「日本人の伝統的な美德を主張している安倍総理本人が、日本人の伝統的な美德や日本人の誇り高い思いやりの心を見事に穢(けが)している」ということでしょう。実に情けないことです。いかがでしょうか。

2017年 森

## 019) ドローン・ウォーズの時代

今や世界は「ドローン・ウォーズ」の時代に入っています。もしあなたが「殺害の対象」として狙われたら、スマートフォンをかけると同時にあなたの頭上にミサイルが落ちる時代です。冗談や脅しではなくこれが今の本当の世界なのです。今の西アジアでは、このようにしてアメリカの近代戦は実施されているのです。

もう一つ、2045年には「人工知能が人類を超える=ロボットが自分の判断で人間を攻撃すること」が可能になるという予測です。確実に言えることは「このままだと人類はロボットによって消滅させられる」ということなのです。ですから人類が破滅をまぬかれるためには何よりもまず「世界平和」を早く実現しなければ手遅

## 020) AIに負けないためには

これからは、人間とAIとの職場獲得競争が本格的に始まります。現在で特に問題となっているのが「銀行員」です。特定の企業や個人の会計帳簿を見て、お金を貸すか同課の判断は、人間よりも「機械の方が感情が入らない」分正確だから、「人である銀行員」は必要でないという方向に日本の多くの銀行で進んでいます。さらに、ここに載せている「毎日新聞の正月特別版」にもあるように「就職の採用面接さえもがAIの方に利点がある」ということさえ考えられています。これまでもTIMEの記事などで伝えてきましたが、「いよいよ人類とAIとの存続をかけた戦い」が始まります。冗談ではなく。脅しでもなく。その際に、人間が勝つためには「哲学」ないし「思想」をしっかりと学ばないと、わかりやすく言えば「人間とはそもそも何なのか」を学ばないと、すべてにわたって「効率」を優先するAIに対しての勝ち目はありません。志成館のホームページの「思想」「哲学」をしっかりと学んで、人間のAIに対する「誇り」と「優越性」について学んでください。そうしないと多くの国民の人生は、AIとそれを管理する一部のエリートに操られる「操り人形」みたいな、主体性にない人生になります。

2018年 森

## 021) 日本こそが世界平和の先頭に立つべし

現在のローマ教皇（キリスト教の一つの宗派であるローマ・カトリックのトップ）のフランシスコさんは、就任以来とても素晴らしい活動をされています。世界の平和や格差の解消、人種や民族差別などに対して。さらには「宗教上の争い」をなくそうという努力までもされています。左の記事はフランシスコさんの呼びかけによるものです。読んでみてください。昨年のノーベル平和賞の受賞組織である「I CAN」も連動していると思います。本当は日本政府が世界に先立ってなすべき行動なのですが、今の政府は「平和」より「戦争」を望んでおり、私は危険な内閣であると恐れています。たとえ北朝鮮がどんなにひどい国と解したとしても、もっと何か平和な解決方法に向かって、「日本が世界平和の主導権を取るべきである」と考えています。たとえどんな結果になろうとも、バチカンやアメリカや中国やロシアなどではなく「平和憲法を持つ日本」こそが、真の世界平和の実現の主導ができる国であると考えているのですが、いかがでしょうか。

## 022) 体育会系の部活動のあるべき姿

日本体育大学の古城監督が、明治神宮野球大会で初めての優勝を果たしました。そのことに関する「アマチュアの野球チームが優勝した理由」についての記事読みました。そこには「雑用は上級生で」という方針で、掃除や洗濯を、これまで通りに後輩にさせるのではなく、先輩にさせたという内容が載っていました。私は授業中にもしばしば子供たちにしばしば提案している「野球部の球拾いを1年生にさせるのはおかしい」「みんなで公平にするべきである」ということを実行した指導者がおられるという記事です。この監督もチームワークや人間の人格的な成長を目的とする部活では、このような真の意味での「教育」が必要で、ただ漠然と、今までの「慣例」通りにすることは良いとは言えないという発想なのです。もしあなた達若い世代が、将来部活の指導者や体育の先生になりたかったら、こんな大学への進学を考えてもよいでしょう。

2017年 森

悲しいことなのですが、この文章を書いた後の2018年に、いろいろな大学や国レベルでのスポーツ団体の指導者が、数々の不祥事や暴力行為があったことが発覚しました。このような事件が起こる原因は日本の伝統的な発想である、男子優先、年長者優先、家父長優先などを唱える「儒教思想の悪弊」だと考えています。若い世代の発想や有能な女性の発想を大切にするような、すべての個人を等しく尊重するような日本になってほしいものです。

2019年 森

### 023) 儒教思想との闘い

014)に関連して繰り返しになります。私とこの監督が同じ発想なのかどうかはわかりませんが、私が一貫して闘い、志成館のホームページを貫いている理念の一つがこの「男尊女卑」「年長者優先」「家父長優先」などを根幹とする「儒教思想の悪弊」です。この儒教思想の「個人の尊厳」に対する敵対的な発想には我慢ができないのです。私自身もそして私の母もこの日本の古い時代から続く悪弊に苦しんで来ました。男女平等の徹底、日常生活での長幼の均等な処遇などが私の人生での戦いの主要部分の一つになっています。

世界を見渡すと、日本よりも中国や韓国に儒教思想の弊害が多く感じられますし、イスラム教の教えも女性蔑視の最たるものであり、男女平等や個人の平等な尊重という考えが広くいきわたるにはもっと多くの年月がかかることでしょう。今の私は懸命に学んでようやくこのような思想を身につけたものでありますし、それを教えてくれた欧米の思想家たち、そして戦後の民主化政策及び日本国憲法を通じて私たち日本人に個人の尊厳を教えてくれた「アメリカへの恩義」が私の心から消えることがない理由もここに存しているのです。

2017年 森

### 024) 物言えば、唇寒し、秋の風

最近の新聞紙やテレビのニュースで、「神戸製鋼」や「東芝」や「日産自動車」や「東レ」などの、日本いや世界を代表する「日本の大企業」がいろいろな不正やごまかしをしていることが記事になっています。とても情けないことであるだけでなく、これらの日本の大企業の評価が下がることは、私が教えている子供たちの将来の就職にも悪影響を及ぼします。

「物言えば、唇寒し、秋の風」ということわざの意味は、『自分の周りに起こっているいろいろな不正やごまかしを、「悪いことだ」と正直に批判し暴露した人は、会社や地域社会からいじめられ、のけ者にされることが多いので、何も言わない方がましである』というものです。事なかれ主義、見ざる言わざる聞かざるの「三猿」、悪い意味での「沈黙は金（きん）なり」などと同じ意味になります。人間が自分の身を守るためには、黙っているのが安全だという発想に基づくものです。

しかしそのような社会がもたらした結果が、今の日本の企業のこの「衰れな姿」なのです。多くの会社の一部の出世した重役たちこそ、このようなずるいことをし続けた責任者なのです。若い世代は今のうちから、「この大人の社会の醜さ」を知っておく必要があります。何も言わない何も新しいことをしないで「いつもの方法を守る」「保守的な人」が会社の社長になることが多いというのは企業社会でも政治の世界でも地域社会でもPTAを中心とする学校社会でも同じ傾向があります。だから政治の世界では「能無しの大馬鹿者の国会議員」が多数当せんするのです。

このような大人の社会の構造と、「学校でのいじめの問題」とが全く同根であることは、「想像力」がある人にはすぐにわかったと思いますがいかがでしょうか。

2017年 森

## 025) 世界からどうして戦争がなくならないのでしょうか

この言葉は2017年5月23日の朝日新聞に掲載された「中学生の投稿」である。純粋な心を持った、人に優しく、平和を願う、勇気ある中学生の素直な言葉としてとてもうれしい投書であると思っている。この投書をした星君は決して「きれいごと」を言っているわけではない。人間がその存続をかけて戦わなければならない喫緊の(きっきん=急がなければならない)重大な課題について真摯に(しんしに=まじめに)取り組んでいる素晴らしい中学生であるとであると私は思っている。とりわけ学習塾の講師である私は、このような問題意識をもって学び、世界の平和と豊かさへの疑問を持てる子供たちが育つように日々懸命に頑張っている。その意味ではこの投書を素晴らしい中学生であると思っている。

しかしこの質問に対する答えは簡単ではない。人間が一生をかけて考え続けなければならない課題であると言えるであろう。しかしいくつかの答えを準備したい。「私の個人的な考えに過ぎない」と思って以下の文章を読んでほしい、各人ごとに考え方や信念が異なるからである。但し、一つの条件を付けたい。それは今後「歴史の真実をしっかりと学んだ後で批判してほしい」という条件である。

1) まず中国古代の堯舜禹の伝説の時代から周の後半の春秋戦国時代そしてさらには漢そしてみんなが好きな三国志の時代そしてその後の中国の歴史、続いてヨーロッパ古代のギリシャ時代からローマそしてフランク王国から中世の王侯貴族が支配する時代、西アジアではヒッタイトやペルシャやサラセン帝国時代、そして日本では弥生時代から鎌倉室町時代そして戦国時代さらに江戸時代までは、「基本的には武力に勝る民族や勢力が、自分が都合が良いように民族や地域をそして広い世界を支配するために、武力で他者を従わせるための戦争をし続けた時代であった」ということである。このことがこの時代までの戦争の本質=戦争が起きる理由であった。つまり単純に部族や民族の存続の危機の回避やより豊かな生活を求めての他者の支配という目的に根差した戦いであった。確かにどの時代もどこの地域でも一人一人の人々の幸せを願って戦ったヒーローやヒロインは数多い。しかし確実なことはどの時代の英雄であっても、基本的には自分または自分たちの一族の支配的地位を保つことを優先してきた。そのことは世界中に遺跡としての見事な城や大聖堂が今も存在していることが見事にそしてわかりやすく証明していると思う。戦いに勝った支配者層は、自分の強さや権威や富を誇示し支配的地位を維持するためにこのような建造物を作ってきたのである。

2) しかしルネサンスにより人間のすばらしさが認識され、そののちヨーロッパに「市民革命」が起こり、すべての価値の源泉は「一人一人の個人」にあり、「個人の幸せを実現するために国家社会がある」という考え(=中学3年で学ぶ「公民」での「ホブズやロックやルソーたちの「社会契約説」)の時代になってから、戦争の性格は大きく変わってくる。つまり戦争は民主主義を前提とする「国民国家」による、一人一人の国民の自由と豊かさを守るための戦いに変わっていくのである。つまり「支配者個人のための戦争」ではなく、「自国民(とりあえず=本当はブルジョワジーの利益のためなのだが難しくなるのでこのように言う)を幸せにし、豊かにするための戦い」に変わっていくのである。「国民国家」の国民の利益だけを考え他国の事や他国民の幸せなど考えない時代に突入するのである。この段階に至ると科学技術の進歩と重なって、戦争は一層激しく大きく残酷になっていく。歴史で学ぶ「帝国主義」の時代である。アフリカやアジアの貧しくて力もない国への200年以上にわたる欧米の恐るべき植民地の支配のための戦争や、先進国どうして争った第一次世界大戦や第二次世界大戦の惨禍がその典型である。ひどく残酷な戦争であるのだが、しかしそれまでの独裁者個人の利益を守るだけの戦争よりはまだましと考えるべき。ヒトラーや日本の軍国主義者たちのしてきたことには戦慄を覚えるが、しかし戦った理由は「自分の国の利益=国益」であり、まったく個人の利益のために戦ったわけではない。スポンサーであるメルセデス・ベンツや三菱重工のために戦ったことは、戦後の経済民主化政策の中の財閥解体や農地改革で理解できるであろう。

3) 悲惨な第二次世界大戦は死者だけで8000万人以上の被害をもたらしたが、第二次世界大戦後にはまた新しい戦争が始まった。資本主義陣営と社会主義陣営との間の戦争である。「冷戦」と言われるが、朝鮮戦争やベトナム戦争そしてアフガン戦争など目に見えるひどい戦いはこれまで続いてきた。資本主義社会の経済シス

テムが良いばかりとは言えないが、社会主義や共産主義社会には経済または政治システム上の致命的な欠陥があるために滅びてしまって、今や中国も旧ソ連＝ロシアも資本主義的な経済システムを取らざるを得なくなり、東西対立による戦争＝「冷戦」も表面的にはなくなったと言えるだろう。

4) それでも今も戦争は続いている。いったいなぜだろうか。それは今でも戦争を続けることによって富を蓄積しようという「強欲」な人たちが世界中に存在するからである。マルクスの「資本論」によると「資本」は（資本家つまりお金持ちという意味ではなくお金そのものという意味である）自己増殖する宿命を帯びているのであり、資本主義社会が存在し続ける以上は富をめぐる戦いや戦争は終わることがないと書いてある。しかしこのような難しい理論がなくても世界中には強欲な人達がたくさんいることは君たちも知っているはずである。

5) わかりやすく結論を述べよう。実は世界には「Death Marchant=死の商人」という人たちや企業がいる。ナポレオン戦争の当時から戦争に投資し戦争が起こるたびに大儲けをしてきた人たちである。そしてその保有する巨万の富を使ってさらなる戦争を起こしてもっと儲け続けようという人たちや企業があるのだ。その中には君たちも知っている「ロスチャイルド」「モルガンスタンレー」「ロックフェラー」などという超有名な一族も含まれるのである。（ただそれでも私はこれらの人たちや企業を全くの「悪魔」であるとは思っていない。というのは世界中に惨禍をもたらした、もっと恐ろしかったヒットラーやムッソリーニや日本の軍国主義者たちよりもまだまだだからである。）今後もこれら「死の商人」は戦争を希望し、国の予算が軍事費（＝爆弾や兵器）に回することを画策し、今後も政治の世界で大きな力を持っていくだろうと思う。

6) この投書をした中学生と同じ気持ちを持っている子供たちに一つの提案をしたい。それは狭い地球、核爆弾で30回以上も世界中の人間を殲滅できる時代、温暖化現象などの環境破壊が進む地球、経済戦争の標的にされ国を維持することも生きていくこともできない国や貧民がいる国家の時代では、「国民国家」という現在の世界の枠組みを乗り越えることが必要であるということである。もう「自分の国の利益を優先しようなどという理念」はオリンピックなどのスポーツの世界だけのことにして、政治も経済も環境も富も「世界国家」を考える時代が来ているという提案である。すべての考えの基本を「世界中のすべての人々が平和で仲良くそして豊かに暮らす時が来ている」という発想をすべきであるという提案である。どうだろうか？君たちみんなで考えてほしい。

2017年 森

## 026) 公営ギャンブルの仕組み

私の学習塾の子供たちには「ギャンブルはしてはいけない。というのも勝てるわけがないからだ。」と教えている。そこでここでは公営ギャンブルの仕組みについて説明する。①まず「宝くじ」や「ロト」。たとえばある宝くじが発売され、それを買った人の合計金額が100億円とする。そうするとそのうちの53億円は国がもらい、宣伝費や経費や道路建設などの公共工事に回されて結局は47億円を当たった人みんなに分けることになる。②つぎに2回目の宝くじが発売されたとする。この時には一回目で当たった人だけが47億円の金額全部で宝くじを買ったとする。そうするとそのうちの53%、つまり約25億円だけが当たりに回され残りの22億円は国がもらうことになる。③次に3回目の宝くじを発売されて2回目で勝った人が約25億円全部を使ったとする。そうすると今度はそのうちの12億円弱を国が持っていき残りを当選者で分けることになる。④そして結局最後には全部国が奪ってしまうことになるのです。わかったかな。宝くじだけではなく競馬や競艇などの公営ギャンブルはみんな同じ仕組みになっており、結局は国が全部持っていくことになるのである。だから昔からヤクザ屋さんが違法にとぼくを開帳しており、それを防いで国だけが儲かるようにするために、刑法に「とぼくの罪」を規定して、国による利益の独占が妨害されないようになっているのである。それでも賭け事をする貴方は、国に税金以外を納めたい「奇特な人」なのでしょう(笑)。

2018年 森

## 027) 「戦略核」による小型核兵器の開発で核戦争は始めやすくなりました

核兵器を使った戦争が始めやすくなっています。2018年4日の毎日新聞の記事に「戦略核」という実際に使うための兵器で、今まであった核兵器のように、核戦争が起こらないための「抑止力」としての核兵器としてではなくあくまでも使用するための核兵器の開発が盛んになってきているのです。アメリカが戦略核で標的にしている場所も新聞に載っていました。アメリカは「ロシアが悪い」と言い続けていますが、実際はここ20年以上、アメリカはNATO加盟国を拡大してロシアを脅し続けてきており、私は「プーチン大統領がブチ切れるのが怖い」とこのホームページに何度も各所に記載してきました。じつと我慢してきたロシア（および中国も）がある程度の反撃能力をつけたので、アメリカもそれなりの対応をすべきであるという動きなのです。軍事専門家が言われるように、大陸間弾道弾より怖いのが「戦略核」であり、この兵器は実際に使われる可能性が高く、これがきっかけとなって本格的な核戦争が起こり、多数の人類は破滅するというシナリオがあり、私もこの見解に従っています。トランプの馬鹿がINF禁止条約を放棄したことが直接の原因です。喫緊の課題は、被爆国日本の指導者が、アメリカやロシアや中国のあいだに立って、このような無謀な争いを防ぐことなのですが、日本の中にはこのような平和主義者が指導者が力を持っていません。むしろアメリカ一辺倒の立場に立って、アメリカの政策を応援しようというのが現在の自民党政権です。早く平和憲法の国を世界に広げるといふ方針を変えないと、子供たちの未来はありません。時間はそんなにないと思います。たとえ私が「臆病風に吹かれているオオカミ少年である」と批判されても、子供たちの未来を預かる仕事をしている以上は、私は自分の考えを変えるつもりはありません。

2018年 森

## 028) アメリカ合衆国は決して世界の支配をやめようとはしない

「**中露帝国主義は不要**」という、トランプさんの指導者達の一人のティラーソン国務長官の言葉です。私も「アメリカの核の傘」といふ方針のもとで、対共産主義というシステムの中で生きてきた日本人なので「気持ち」がわからないわけではありません。しかし世界史をしっかりと振り返ってください。200年以上前からの世界は、ヨーロッパの各国、特に**イギリスやオランダやフランスが世界中を支配する帝国主義の時代**であり、その後第2次大戦後はアメリカと旧ソ連での冷戦時代で、第二次世界大戦後の実質は**アメリカ帝国主義の時代**であり、その後旧ソ連崩壊後の25年以は極端なアメリカ最優先主義の、アメリカが完全に世界を支配する「**アメリカ一強帝国主義の時代**」でした。中国が経済的な力をつけ、ロシアも旧ソ連崩壊後のマフィア的な資本主義ロシア経済からプーチンの力で立ち直りつつある中で、一国支配を続けたいと願うアメリカの「正直」な気持ちに言葉をしたものだと思います。しかしこんな身勝手な発言が今の「第二」許されるものなのでしょうか。時代は変わります。今後は人口が多い中国やインド、そして資源が豊富なロシアに主導権が移っていくかもしれません。アメリカはそれを許さず、自国に勝ろうとする国に対しての攻撃をやめないつもりでいるのでしょうか。願うことは、時代の先を見渡せる、偉大な指導者が現れて、日本を豊かで平和な国に導いてくれるということです。

2018年 森

## 029) 「ネトゲ廃人」を防ぐことはできないのだろうか

ネットゲームに熱中することによって、社会生活が正常に送れない「ネトゲ廃人」が世界中で増え続けています。しかしゲーム会社や通信会社は、自分の企業の利益を維持するため、立法による規制によって「ネトゲ廃人」の増加を避けることを妨害し続けています。ですから国は、コンピュータやスマートフォンなどの通信

システムそしてゲーム機やゲームソフトを購入することを推奨はできても、たとへ「ネトゲ廃人」が増えてもそれを避けようとする政策はとれないのです。現在の政府はいつも強い者（現代では大企業）の味方なのです。つまりゲーム会社や通信会社の味方なのです。日本の将来に大切な子供たちのことなど、政府は本気には考えていないのです。私がいつも言っていることなのですが、「ゲームをしないようにするための戦いは、大企業の優秀な技術者や官僚や政治家と結び付いた経営者による経営戦略が相手だから、小学生や中学生そしてその保護者という弱い立場の人たちが勝てるものではない」のです。子供たちが大企業の儲けのための「標的」なのです。じーっと我慢して教科書を読み、良書を探して読み、良い映画や良い音楽を探してそれに熱中するべきなのです。そしてバーチャル・リアルティー（仮想空間）での楽しみではなく、リアルな楽しみや知識や感性を手に入れる年齢なのです。決してネット会社の「カモ」にはならないでください。

2018年 森

### 030) 「スラング辞典」で英語力を楽しみましょう

「スラング辞典」というものがあります。私が持っているのは<朝日出版社>の「SLANG 米英俗語辞典」です。日常の、主にアメリカで使われている、簡単な単語の、裏側の意味を教えてくれる単語時点です。多くが差別用語であるとともに隠語と呼ばれるわいせつな意味のこぼの説明なので、その意味を覚えると、下品な人間になることは請け合いです(笑)。しかし、人生はまじめなばかりではちっとも面白くはありません。眠れぬ夜には最高のお薦めの書物になります。とても楽しい本なので、英語の力が上がっていたら、1冊は購入して、備置しておくのもおすすめです。

2018年 森

### 031) またもや産経新聞の「ねつ造=ないことをあるかのように作り上げた」記事

2020年の6月に、産経新聞が「アンケート調査結果をねつ造した」という記事が、新聞各社に記載されていました。しかし産経新聞は最初から「日本人をアメリカ好きにするための、アメリカの広報誌」なので、アメリカが喜び、アメリカ合衆国を応援する政治家が損をしないで得をするような記事を書くこと、2020年尾げんざいでは、たとえば安倍総理大臣が得をするような記事を書くことは、その目的を果たしている事であって、私は何も気にしません。私は産経新聞をまともな新聞社であると思ったことはこれまでに一度もないからです。もちろん大きな新聞社であり、社会的な責任もありますので嘘ばかり書いているとは考えてはいません。以下の文章は2018年に書いたものです。

「産経新聞」が記事をねつ造(嘘の記事を載せている)していることについての報道がありました。新聞やテレビなどのマスメディアの中には、日本でも世界でも記事に嘘を載せることで、「世論操作」=「洗脳」をしていることが多々あります。君たちの能力ではそれを見破ることは困難なことが多いでしょう。日本の大手の新聞社の一つの「産経新聞」がしている「世論操作」はあまりにもひどいという記事です。館長が九州大学の学生時代に習った憲法の先生から東北の大震災の後に教えていただいた新聞社について話されていた言葉については、ホームページのどこかにも載せていますが、改めてここに載せます。「産経新聞」と「読売新聞は」右翼広報誌、つまり安倍総理などのお金持ちを優先し、自分の国や国民を最優先しほかの国の事を考えようとしない考えを広めるための宣伝の新聞である。「日本経済新聞」は産業社会の広報誌あり、いずれにせよ国民から見ての公平な記事を書いているわけではない。「朝日新聞」のトップは読売新聞の幹部に支配されており、信頼できないときが多々ある。「東京新聞」と「中日新聞」はある程度信用ができる。というものです。異常の理由から現在の志成館は「毎日新聞」をASSETSの基本情報としており、地方紙の「西日本新聞」の

地方欄や「朝日新聞」の文芸欄を参考にしています。ただ自分の考えが右翼であれば産経新聞や読売新聞を購読してよいのであり、左翼であるなら共産党の機関新聞である「赤旗」もとってもまじめで信頼できる記事を書いているのでそれを購入して読むのが良いでしょう。どの新聞を読むかは「個人の思想の自由」という重大な人権にかかわる問題なので、他者がどうのこうのと言う資格はありません。ただ若い世代にお願いしたいことは、懸命に幅広く、偏見をなくす勉強をして、テレビや新聞などのメディアの「嘘」や「でっち上げ」や「世論操作」が見分けられるような、「真実がわかる」人間になってほしいということです。そうしないと「平和」も「豊かさ」も「自由」も守れません。志成館のホームページの目的は、「あなたたち若い世代がどこから真実を求めることが出来るか」を示すために館長が苦心して作っているものなのです。理解していただけたら有り難いです。

尚、「メディア論」という学問分野については世界最高の権威者が私が尊敬するノーム・チョムスキー博士を紹介しておきます。館長が最も尊敬するアメリカの学者の一人です。

2018年 森

### 032) 「自撮りの流行で、儲かった医者」はだれでしょう？

多くの方がスマートフォンで「自撮り=セルフィー」をして、ネットにアップして人生を楽しんでいます。その結果ある種の医師が大儲(もう)けしています。それはどんな病院の医師でしょう？  
(ヒント) 自撮りをしていると何が中心に写りますか？

【答え】それは「整形外科医」さんたちです。自撮りでは「鼻」が中心に写りますので、デカ鼻は格好が悪いために、小鼻にする手術がとて多くなっているということなのです(笑)。これはNEWSWEEKの記事ですよ。

### 033) 「ブチ切れる」を英語で

日本語の「ブチ切れる」を英語で言うと“Going Postal”=ゴウイングポスタルと言います。どうして郵便(POST=ポスト)の言葉が使われているのでしょうか？その理由は「1986年の事、仕事を解雇されると聞いた郵便局員が激高して(=ブチ切れて)職場で同僚14人を殺害したこと」からきているのです(毎日新聞の記事から) 悲しい話ですが、このような事件は今も続いています。昨日のアメリカでは、公民権運動(=黒人の地位向上の運動)の主役であったキング牧師の小学生の孫娘さんが「銃反対のスピーチ」をされていましたが、いつの日かアメリカにも銃規制が実現する日を願っています。ちなみにアメリカ合衆国は「銃」の力でバッファローや先住民であるアジア系のアメリカ・インディアンを抹殺して建国した国家なので、銃の所持や国家に対する抵抗する権利は憲法上、保障されています。昔からそして今でもアメリカはとっても怖い国で、私が50年前の大学生時代に習った英会話のデニス先生も「アメリカは銃社会で怖いので日本に来た」と話しておられ、福岡市東区香椎に住んでおられました。

### 034) 巨星墮つ(きょせいおつ=偉大な人物が死ぬこと)

宇宙物理学の世界的な権威者であるスティーブン・ホーキング博士が最近亡くなりました。アインシュタインの理論をもとにして、宇宙の姿について研究を重ねてきた宇宙物理学の世界的な権威者の一人です。同時に彼は不自由な体をもものともせず、自分を支えてくれる機械を使って研究を貫いたという意味でも、とても意志が強い気高い人格の持ち主だと言えます。彼の死体は、ロンドンの歴代のイギリス国王たちや著名人が眠る「ウエストミンスター寺院」に、そして何よりも彼がああ世で喜んでいるであろうことと考えられることなのですが、アイザック・ニュートンの隣に埋葬されます。ですからもし私たちが望むなら、イギリスに行き寺



院の中で彼の死骸の上を歩くことができます。私も以前ここに行った時に「あなたはニュートンの上を歩いているのですよ」とガイドさんに驚かされました。ちなみに私が無神論者であるのもスティーブン・ホーキング博士やリチャード・ドーキンス博士などの天才クラスの科学者の多くが無神論者だからということもあります。無神論者でもイギリス国教会の寺院に埋葬されるのですから不思議ですよ。

### 035) モンサントという人類を破滅させる企業と農民の私

私は、自分の畑の雑草の草取りにとっても苦勞をしています。農業に詳しい人は良くわかるのですが、農作業ではだいたいのところ、農作物を育てるよりも、雑草取りの方が大変なのです。大抵は費用が安く土を汚染させないので「草刈り機」を使うのですが、時によっては**モンサント社のラウンド・アップ**を使っています。とてもよく効く殺草剤なので助かっています。それでも、土を汚す薬であるということは、農民としての本性から簡単に理解できますので、できるだけ使わないようにという努力もしています。そのモンサント社は他方で**遺伝子組み換え種子**をつくっている世界最大の企業です。実はラウンド・アップのような殺草剤で雑草や大豆やトウモロコシのような草を枯らしてしまいう農薬をつくりながら、そのノウハウを使いながら、遺伝子を組み替えて、自分の会社でつくっている殺草剤では枯れない品種の、遺伝子組み換えの大豆やトウモロコシの種を開発しているのです。意味が理解できましたか？一方では、すべての雑草を殺し土質を破壊しながら、他方では、モンサント社の薬では枯れることがない植物の種を開発し、特許を申請して、ぼろもうけをしているのです。このままだとどんなことが起こるかわかりますか？そうなのです、世界中の土地がモンサントの種でないと育たなくなり、世界中のすべての農作物がモンサント社に支配される時代がもうすぐ来るということなのです。このような事態に対して、モンサント社を「人類を破滅させるとんでもない会社である」と批判しているのが、「**モンサントの嘘**」(船瀬俊介訳)を書いた、**ブレット・ウイルコックス**です。そして最近の**マリー・モニク・ロパン**の「**モンサント**」(副題：世界の農業を支配する遺伝子組み換え企業)です。尚、このような生命破壊行為については、カナダの偉大なロック・ミュージシャンの**ニール・ヤング**がなんと名前が「**モンサント・イヤーズ**」というCDでモンサント社を批判し、人々への啓発活動をしています。私はミュージシャンでノーベル平和賞をもらう人物がいるとしたら、それは**ニール・ヤング**であれと切望しています。ちなみにこのようなアメリカ大企業による地球破壊行為に対しては、EUがすでに対抗措置を取っていることを伝えておきます。そして2019年までにはモンサント社はヨーロッパから追い出されました。日本のメディアはあいも変わらずアメリカべったりで、何一つモンサントの批判はしません。アルゼンチンやベルギーなどでは農業や畜産業の分野ですでにモンサント社の薬害が子供や家畜に生じているのです。地球環境を守るか、企業の利益を守るか、私の様な農民の力として必要悪として受け入れるかの判断はとても難しく、この点から「哲学を学ばないと人類は存続できない」と主張している理由がわかっていただけたと思います。端的には「利益を得るためなら何でもするアメリカの強欲で無責任な企業を、人の力、人の英知で抑え込めなければならない」ということになるのでしょうが。ニール・ヤングの魂の叫びのCDを聴いてください。スマートフォンで「**ニール・ヤング、モンサント・イヤーズ**」と叫べば曲も映像も出てきますし、「**ニール・ヤング、マザーアース** (母なる大地)」と叫べば、シェールガス開発で汚染された、カナダの森林の悲惨な姿と、ニールの悲痛な叫び声の歌が聞けます。**PPM**の「**There is a ship**」**カーラ・ボノフ**の「**The water is wide**」等と同じ曲で、古くからの有名なアメリカのフォークソングです。

### 036) 「沖縄慰霊の日」2018年

毎年の6月23日は「**沖縄慰霊の日**」と呼ばれ、1945年の第二次世界大戦の終盤の、**アジア太平洋戦線でのアメリカ軍と日本軍が戦った、沖縄での悲惨な戦いが終わった日**として、毎年式典が開かれています。しかし、多くの日本人、とりわけ平和で物質的には豊かな、私が教えている小中高生や若い世代は、この日の意味やこの沖縄戦が現在の日本に与えている大きな影響を正しく理解しているとはとても思えません。悲しいことです。ちなみに私は、この沖縄戦の悲劇を正しく知って以来、一日たりとも沖縄の悲劇を忘れた日はありませんし、同時に彼らをはじめとする多くの戦争被害者が与えてくれた、現在の「日本の平和憲法の存在」とその尊い平和主義の価値も忘れたことはありません。このような考えを持っている自分自身の生きざまは、ある種の「人間の誇り」であると感じて日々生活をしているということです。

(繰り返します)「戦後の日本人の豊かさや幸せは、第二次世界大戦の悲劇の結果として、実現できた」という確信のもとで私は生活をしているということです。言い換えるなら、「この記事にあるような人たちのような悲惨な人生を送ってきた人たちが、今の君たち日本人の豊かさをプレゼントしてくれた」ということになるということです。ですから皆さんも、悲惨な最期を遂げた彼/彼女らへの感謝の気持ちと、平和維持への強い気

持ちを、一日たりとも忘れないで欲しいということです。

平和な社会の崩壊は現在の世界中のあちこちで目に見え始めています。(この原稿は2018年のものですが、修正中の2020年6月にはもっと危険な世界になっています。)大切なことは、一見平和に見える「日本」でも、多くの人たちがネットやスマートフォンでのゲームに熱中し、テレビで踊り狂ったり、軽薄なギャグやお笑い番組やクイズ番組にうつつを抜かし、無責任な情報の安易(あんい=無批判)な楽しみを追い求める生活の姿が続いている間に、少しずつ将来の平和を壊すような出来事の積み重ねが続いていることの認識だと思えます。

第一次世界大戦ののちの「熱狂の1920年代」と呼ばれる比較的平和な時期が、10年もしないうちに、あっという間につぶれて、第二次世界大戦へ突入してしまった歴史を学び、そのようにならないように、しっかりと日本や世界の政治を、監視して、自分にできるだけのことは実行する必要があるのではないのでしょうか。

## 037) 恐ろしく無能な政治家たち

最近では自民党の独裁政権が長く続いているからなのでしょうが、人権感覚のかけらもない自民党の政治家がたくさんいます。昔の自民党の政治家はこんなにひどくはありませんでした。またしてもひどい発言をした国会議員が出ました。がん患者が命を懸けて「禁煙法をつくってほしい」と言っているのに、「いい加減にしろ」というヤジを飛ばすのですからあきれ果てます。ちなみにこの愚かな国会議員の職業は、みんなが知っているファミリーレストランの「JOYFUL ジョイフル」の社長です。政治が企業家に乗っ取られて、政治の世界が「金儲け主義」に墮落していることがよくわかると思います。しかも世界中が同じなのです。自由や人権や民主主義よりお金が大切という情けない時代なのです(涙)。

この文章を書いている頃にまたしても「日本の指導者の中には信じられないほどの大馬鹿者の政治家がいる」という記事が「毎日新聞」に載っていました。その国会議員(名前は「麻生太郎」という福岡選出の日本の副総理なのですが)によると「新聞などを読んだりしないで、麻生や安倍たち指導者の言うことを黙って聞いて、その指導に素直に従っておけば、まともな人間になれるのですよ」という発言をしたのです。事の重大さがわかっていただけますか?

「民主主義」の時代=一人一人の国民が学んで真実を知りそのうえで望ましい社会をつくるという時代に、真実を知ろうとする努力もしないで、支配者の言うことに黙って従っておれば平和で幸せになれるということなのです。彼の言葉を素直に受け入れる人は、世界の現実の姿が全く見えない狭量の愚か者であるか、歴史という学問を、全く学ばない、学問の意味さえも分からない、最悪の愚か者と言えるでしょう。キリスト教の新約聖書の「聖書のルカ伝23-34」の項に、イエスが「愚か者は自分がしていることの意味さえ理解できていない」と嘆いて磔に処せられたことと対比すれば明白なのですが、麻生さんは、「自分の行っていることが、民主主義を否定していることである」ということさえも、気が付かないのです。まさしく戦前の軍国主義者やヒトラーと同じ考えなのです。「民主主義」を科目として習うのは、小学校6年生からです。嫌味っぽく言いますが「そんな常識さえも理解していない愚かな指導者を信じている人たちは、戦前の悲惨な歴史が繰り返されることを受け入れる責任がある」とも言えるでしょう。表現がかなり荒っぽくなりましたが、「民主主義」とは「時代や社会の姿を批判的にとらえること」なのです。学問を信じ、政治や経済の駆け引きを嫌う私は、麻生さんなどの自民党を支持する人たちがたくさんいる福岡市でのある会合の中で「安倍さんや麻生さんは、中学校の教科書の意味さえ理解していない」という話をしたことがあります。相当の響(ひんしゅく)を買いましたが(強い批判をされましたが)しかし、子供たちの将来を考える仕事をしている人間としての当然のことをしただけなので、批判など全く気にしません。各人が支持し尊敬する指導者や政党が何であれ、間違いは間違いであると言える社会が「自由な民主主義社会」なのですから。そしてそれを教えるのが先生という仕事をしている人の「責務」なのですから。18歳で選挙権が手に入ります。それを今後の人生で生かしてください。

## 038) 「カップ麺の恐怖」と食育

ずっと以前、もう25年以上前の話ですが、九州大学の工学部の院生が、論文作成のため、毎日遅くまで

研究室で研究を続けていました。食事するお金も時間もないので、毎日「カップラーメン」ばかり食べていました。その結果、カップラーメンの内側の防水用のビニールが熱で溶けて、その溶けたビニール分が胃や腸の内面に貼りつき、食べ物の消化が不可能になって死んだことがあります。このことは当時の九大の学生からの伝聞なのですが、とても有名な話だそうです。つまり、カップ麺ばかりを食べていると、容器の内側のビニールが解けて、体の中に張り付いてしまうということです。そのことの科学的な根拠については正確にはわかりませんが、最近買った「アマニ油」の品質の説明のところに、「カップラーメンのビニールが溶ける」という文章があることを見つけました。九大の生徒との因果関係は正確にはわかりませんが、少なくともこの文章で、「カップラーメンの容器が溶けること」は推測できるはずで、志成館のチラシで、館長がカップラーメンよりも袋のラーメンを食べるのが安全だということのために、写真まで撮って宣伝していることはわかっていると思います。志成館の過去の卒業生全員に教えてきたことです。「インスタントラーメンは、袋めんを、どんぶりに移すか、鍋で煮込んで食べた方が安全」なのです。

### 039) 海洋汚染の諸側面

「**海洋汚染**」が進んでいます。日本の浜辺にはたくさんの中国や韓国のゴミが漂着しているのは知っていると思います。知らない人は、この近くの海岸に行ってみてください、たくさんの外国のゴミが溢れていることがすぐにわかります。とりわけ九州近辺はとてもひどい状態で、プラスチックごみも世界で最もたくさん集まっているということはASSSETSでも紹介しています。そして太平洋の反対側のハワイやアメリカの西海岸にも日本のゴミがたくさん漂着しています。そうなのです、世界の海は世界中の国々が出すゴミで満ち溢れているのです。館長が「平和や経済格差や移民の事を世界レベルで考えなければならない」といつも言っていますが、「世界中は海でつながっているの、海のゴミも世界が一緒になって解決しなければならない」のです。

大気汚染と対置される**海洋汚染**は、海の①水質の汚染そして②ひどい夏の猛暑③風水害そして④北極や南極の氷山の消滅さらには⑤海の底の深層海流の流れの危機などの気候変動だけではなく、海を流れる⑥ゴミの処理問題、とりわけ多くの生物そして人間に影響を与える⑦プラスチックごみの漂流の問題などでも深刻な問題が発生しているのです。そのひどさを「鯨(くじら)」を解剖してみると胃の中にある恐るべきゴミの量が証明してくれます。TIMEにはしばしばその写真が載っていますし、定期的に海のゴミをなくそうという宣伝のページを載せています。今の「**海洋汚染**」のひどさを鯨の胃の中身が私たち人間に示し、同時に人間の未来の姿を教えてくれているのです。鯨は体が大きいから、大きなゴミが胃に入っているのですが、あなたたちの体にも目に見えないほど小さな、ゴミや危険な化学物質が吸収されているのです。鯨があなたたちの目に見えない、本当の体の内部の姿を証明してくれているのです。伝えることの意味が分かりますか？人間の体には鯨の体の中にある大きなゴミではなく、ごく微小の有害物質が日々取り込まれているということを、鯨君たちが君たちに目に見える形で教えているということです。

とりあえずは、世界中の海の汚染を取り除くことを真剣に考え、世界中で協力する必要があることを理解してください。そのうえで、目では見えない体内汚染が、人間の体の中で日常的に起こっていることも理解してください。館長が自分で汚れたからだから有害物質を出すために「デトックス」をしている事、「化学調味料や保存料やおいしくなるいろいろな化学物質が入った加工食品は食べないで」というニュートンや週刊誌の紹介をし、「冷凍食品やレトルト食品もできるだけ避けて、肉や魚や果物は加工しないでそのまま食べてください」と授業中にときどき叫んでいることの意味を理解してください。とはいっても、鶏や豚や牛のエサの中に遺伝子組み換えのトウモロコシや大豆が使われているので、加工されていないものを食べるような努力もあまり効果がないのかもしれませんが(涙)。まだましであると考えなければならないひどい時代になっているのでしょう。

## 040) 「ギャンブル法案」が可決されました

批判が多い「ギャンブル法案」が成立しました。主権者である国民の代理人である政府は一体どこを向いて、誰のための政治をしているのかという疑問を感じている人は多いと思います。アメリカのラスベガスの様な賭け事をする観光施設を作って、観光客を集めて、その利益の一部を税金として取り上げて、政治にゆとりを持たせようという浅はかな考えに基づく法案です。そもそもこのような施設の経営自体は、景気が良くないと成り立ちえないので、世界の奥のギャンブル都市が経営がうまくいっていないだけではなく、ギャンブルにのめり込む人は統計的には貧困層が多いということなので、社会不安と貧富の格差を一層激しくするだけの最悪の法案と言えらると思います。

しかも、大洪水という現在の日本における優先すべき国難については後回しにする始末で、政治家たちはとても正気の沙汰（しょうきのさた＝精神が正常であること）とは思えません。東北の大震災や福島原発の後始末さえ片付いていないのに、オリンピックに熱中する政治家や経済界の無責任さと同じで、開いた口がふさがりません。

## 041) 自民党の厳しい掟（おきて）

2020年の夏の今、自民党の若手の議員が（自民党では40歳を優に超えていても、70歳以上の長老議員たちから若造（わかぞう、バカぞうではありませんよ）と呼ばれ、そのような厳しい待遇を受けるような恐ろしく古びた社会です（笑）。そんな日本で、日本に作られるギャンブル場に入札（にゆうさつ）しようとしていた中国系の企業から（中国の企業が日本でのギャンブル場の経営を認めてもらうように行動していた企業から）賄賂（わいろ）をもらったとして、贈収賄の罪で逮捕されており、新聞をにぎわしています。政治家だからこっそりとお金をもらうとか寄付してもらうことはある程度は常識であり、ただバレていないだけのことで、この秋元議員も少しは不正をしたのかもしれませんが、私はそれほど大ニュースにする必要もないと思っています。しかし問題は他のところにあります。それは、米中の経済戦争の中で、アメリカ政府筋から「中国の利益のために行動する政治家は、その人が自民党に属していようがまいが、たたきつぶしてしまう」という「アメリカの政府やシンクタンクによる恐ろしい脅し」がなされているということなのです。いわば彼は「吊し上げないしリンチ」にあっているのです。少しかわいそうになってきます。このような私のような人間でさえ簡単にわかることを、日本の新聞やテレビなどのメディア一般が全く報道しないことが問題なのです。ですから日本人は洗脳されて、アメリカや富裕層の言うことだけを信じてしまうという、恐ろしい事態になっているのです。東京新聞の記者である望月衣塑子さんの「なぜ日本のジャーナリズムは崩壊したのか」などでも読んでみませんか、私の言っていることがわかりやすく書いてありますし、読売の渡辺恒雄を批判する姿勢から、わついが東京新聞は信用できるということが理解できると思います。（笑）。小沢一郎さんも鳩山由紀夫さんも、自民党のプリンスと呼ばれ、有力な議員でした。しかし彼らは、自民党の厳しい掟である「アメリカ合衆国の利益に尽くす、たとえ日本が壊れようとも」という決まりに反したから自民党からそして官僚や検察官といった、アメリカ政府に洗脳されたエリート集団によって攻撃をされ続けてきました（たくさんの本を読んで深くしっかりと学んでください）。秋元さんのケースも、このような「アメリカによる中国つぶし」側面が根底にあるということをおわかってほしいのです。もしかした冤罪として厳しい戦いを強いられるか、司法取引で惨めな敗北を喫するかのどちらかで、結局はアメリカの圧力につぶされるでしょう。新井さんや石井さんなど、これまでに多くの国会議員が同じようにつぶされるのを見てきた私の猜疑心に問題があるのかもしれませんが、ただ言えることは、日本をそして世界中の国々を、アメリカの利益のためにいじめ続けてきたそ

の国自体が、バーニー・サンダースさんやマイケル・ムーアさんたちを筆頭にして、より社会権が保証された平和国家、差別がない平和国家を目指しており、今やそれがアメリカ国内で表に出てき始めていますので、自民党のように、いつまでも「アメリカべったりの政治」を続けていると、日本国民からも愛想を尽かせるときが来ると思います。私の本心なのですが、それよりもさらに進んで「日本がアメリカをまともな国になるように指導をする」ということになるのが私の本心のなかの本心の「希望であり夢」なのです。

## 042) お金を稼ぎ贅沢をしたいなら自民党の政治家になるのが良い (恥)

自民党は、戦後の長い間政治の主導権を握っており、いろいろの金もうけの権利や資格やアイデアや人脈(いわゆるコネ)を持っています。従って、政治家になってお金持ちになり、力をもって威張りたいなら、自民党に政治家になるのが良いでしょう。これを目指す人たちが悪いとか間違っていると言うつもりはありません、人それぞれですから。しかし、土を相手に働く純粹というか単純な人間である農民の私から見ると、自民党系の政治家は、多くが金銭や権力などに執着した「卑しい」人間であるように見えてしまいます。私のひがみ根性が根底にあるのかもしれませんが、昔から仕方がないと思ってあきらめているのです。とはいっても、私の近親者や私の友人などには、自民党の大物がとても多く、もし私が自民党のことが好きだったら、この地域の自民党の国会議員になっていてもおかしくないといまでも本気で考えているほど、恵まれた立場にいました。ポイントは「玄洋社」という政治結社に絡んできますので、興味ある人は調べてください。それに古い福岡市長の進藤一馬氏は福岡高校の先輩であり、自宅には中野正剛自筆の掛け軸もありますので(右翼的な思想の方または学術的に彼に興味がおありの人には掛け軸を差し上げます(笑))。これに対して、革新系の政治家は、利権にありつけず、多数派である政治家や国民から馬鹿にされたりいじめられたりしながらも、懸命に自分の政治理念や国民の幸せを願って頑張っておられる方が多いと思います。私が、政治理念はともかくとして、人間としての資質の面で、明らかに革新系の政党の人たちが「信用できる」と思い続けています。例えば、共産党の国会議員たちをご覧になってください、いろいろなお金儲けができる弁護士さんたちが、貧しい人たちが少しでも豊かになるように、政党助成金ももらわずに、懸命に頑張っておられるわけですので、立派な人たちであるという尊敬の念がなくなることはありませんでした。政治的な手法その他でいくつかの問題がありますが、そんなことはどこの政党にもあることなのでそれはそれで構わないと思うのです。しかしそれでも、少なくとも私のような俗物は、彼らのような「自分の利益を捨てて、他者に尽くせる人間」にはなれませんでした。

## 041) 「今そこにある危機」という面白い映画と志成館のチラシ

※この言葉は [Clear and Present Danger](#) (の日本語訳で明白で差し迫った危機時だけに人権の制限が許されるとして、アメリカの憲法裁判所の裁判で使われる合憲か違憲かの判断基準として生まれた言葉で、昔、東京のLECで、伊藤真先生に教えてもらった知識です(笑))

夏期講座の案内の新聞のチラシに、およそ塾の講座の宣伝とは思えないような、重くて堅苦しい文書を書きました。とてもまじめな館長が作る志成館のチラシは、いつでもそのようなものなのですが(笑)。こんなことで志成館に通うあなた達には、幾らかの恥をかかせているかもしれません。しかし館長は、この日本という国の劣化(れっか=いろいろな面で、国としての実績や誇り、国のあり方などの点で、多くの国に劣るようになってきていること)を肌身に感じ、君たちの将来に大きな不安を抱えています。とりわけ、個人の自由や個人の尊厳や社会の公平さや公正さという面で。このようなことから、深刻で気が沈みそうな自分の心を奮起させて、少しでも君たちの将来に役立ってほしいと願って作成した夏期講座案内のチラシの文章なのです。館長の気持ちが少しだけでもわかっていただけたら感謝に堪(た)えません(=大変感謝いたしますという意味です)。

それ以上に、このような志成館に通っていることを誇りにしてください。**将来確実に「中学生時代に志成館という誇り高い志成館に通ってよかった」と感じる**ときがきます。館長は確信しているのです。この気持ちがなかったら、とっくの昔に塾をやめています。

## 042) 館長の責務としての度重なる「新自由主義批判」

日本だけの事ではないのですが、50年近く前にアメリカで生まれた「新自由主義経済学（そして哲学であり法律学であり政治学であり経営学である＝**ネオリベリズム**）」は、「お金のためなら人は何をしてよいのである」そのためには「人の心や公平さや公正さよりも効率が最優先する」という考えを世界中に広めました。その弊害（へいがい＝悪影響）が及んでいる目立った国が先進国であるはずの日本なのです。その理由は、一つには各所に述べているアメリカ国家による世界の全域の支配という根本方針にあるのですが、それ以外にも「市民革命」を自分の力で行うことが出来ず、明治維新や第二次大戦後に「欧米諸国から民主主義を与えてもらった」という「民主主義国家としての意識の低さ」に原因があると思います。更に困ったことには、テレビなどのメディアの放送レベルの低さや、記者の責任感の低さゆえに、多くの国民がますます愚かになってしまうという、悲惨な状況になっているのです。チラシにも書いていたように、これからは深く思考を重ね、「哲学」を学ぶことによって、もっと自由で誇り高く、なおかつ誰にも優しく、物質の面でも豊かで快適な日本をつくらなければならないのです。そのためにも、ASSETSやホームページで紹介している立派な人たちの考えを、真剣に学んでください。

## 043) 北極海シルクロード

「北極シルクロード」争奪戦が始まりました。北極の氷が解けて、船が自由に公開できる範囲が広がってきています。その結果北極海を通る、船での交易が可能となります。その主導権争いが、ロシアを中心にして始まっています。この海の道が「シルクロード」と呼ばれるのは、ここを通れば日本や中国からヨーロッパへの海運（＝船での荷物の運搬）がとても便利になるからです。もちろんカナダやアメリカも同じです。北極からのさかさまの地図を見直してみませんか。日本の将来にはプラスになると思います。その前に、ロシアともっと仲良くなる必要がすぐに理解できます。

中国は「**一帯一路**」政策で、ユーラシア大陸の砂漠を結ぼうとしています。ロシアの考える「北極海シルクロード」と一体となって、ユーラシア大陸の融和と繁栄を図ろうというものです。ただし、中国とロシアとイランが一体となって、ユーラシア大陸の共栄圏を作ることを許さない国がありますよね。そうですアメリカです。戦略的核兵器を使った、人類の終末は、この辺りから始まる可能性がとても強いといえるでしょう。この問題に関しても、早く日本がリーダーシップをとる必要があります。

## 044) マインドコントロールと監視社会

TIMEの記事に、現在のネット社会では、世界中の人々の情報が監視され、世界中のすべての人々の人物像が把握されています。同じことはNHKの衛星放送やいろいろなまじめな著作で論じられています。個人の監視は、アメリカ社会ないしアメリカ企業が支配する領域やいわゆる西洋社会では、ネットワークを通じて、あなたたちがかかわっているアマゾンやマイクロソフトやグーグルなどのいわゆるGAF Aなどと称される、SNSの大手民間企業が、あなたたちが提供する情報をもとにして、あなたたちを監視しています。他方で中華人民共和国などのある程度の技術が進んでいる国では、国家自体が監視カメラなども併用

しながら、国民一人一人の情報を把握して、国家のシステムを守るために国民を監視しています。館長はいろいろな本や日用品をアマゾンなどからたくさん購入していますので、館長の好みや性格はアマゾンなどに完全把握されており、館長が読みそうな本や星がりそうなものは、スマホを通じてしばしばメールで紹介されています。つまり「館長の人物像が、アマゾンに監視され分析されいろいろな指導を受けている」ということです。これまでどんな本を注文し、どんなCDを注文したか、どのような中古のゴルフクラブを探しているかなどが、アマゾンに記録があるからです。ありがたいことだと歓迎する人もいるでしょう。しかしいかなような状況から推測されるのは、「書籍の紹介や音楽や映画の紹介などを媒介にして、個人の人格形成に、大手のSNSがかかわってくるのが可能となる」いうことになります。意味がわかりますか？館長がいつも話しているように、「人間の個性や人格は、その人が接している情報によって決まる」から、それを利用して洗脳ができるということです。中華人民共和国のような国家がいろいろな権利を独占しているところでは、この傾向は一層強くなります。今週号のTIMEでは、「誰がどのようなところで世界中の人々のマインドコントロールの仕事をしているのか」という特集がなされています。とても切実な問題ですが、あなたたちには事の重大さがまだわからないと思います。アマゾンやグーグルのようなアメリカの大企業にはまだましな人たちがたくさんいますが、たとえば言論の自由を認めていない世界の独裁国家やまだまだ民主主義とは言えない中華人民共和国中国や世界の数多くの独裁国家（更には戦前のヒトラーのドイツや日本の軍国主義者たち）がこのようなマインドコントロールを始めたなら、（実はもうすでに始めているのですが）人間は、自分の知らない主に飼いなされる「家畜」同様になってしまうことになるのです。

2018年8月

## 045) 2018年に戦後73年目を迎えた日本

今年の8月6日には広島に原子爆弾が落とされて73年を迎え、8月9日には長崎に原子爆弾が落とされて73年目を迎えました。そして8月14日（ポツダム宣言を受諾したのは14日で、天皇が玉音放送つまり敗戦の報告を国民にしたのは15日です）には日本は350万人近くの死者を出しその数倍の体や心の負傷者を世界中に出した太平洋戦争が終わってから73回目の日を迎えました。戦争の直接の被害者＝戦争の経験者＝戦争の証人が次々とこの世の中から去っていく中で、あなたたちは一生のあいだ、このような悲惨な経験をした人たちの言葉や苦しみを忘れることがあってはなりません。そうすることの最大の理由は、二度と再びそのような経験をしないためです。いくつかの新聞の記事や写真を貼り付けますので、目を通しておいてください。君たちの未来を導く大人たちの責任としてのASSETSになります。1945年の4大惨劇には3月10日の2時間で10万人を焼き尽くした「東京大空襲」6月23日に終結した「沖縄戦」が含まれます。これ以外に、日本はアメリカ空軍による全国の津々浦々に至るまでの「焼夷弾」による日本の国家焼土作戦でも多くの死者が出ており、2020年になってようやく、空襲による死者への弔いと人間の把握がなされようとしています。

東京大空襲の被災につきましては、2019年に「東京大空襲記念館」を退官された、館長の早乙女勝元さん（2020年お8月の今もご健在で、毎日新聞に投稿されていました）の「東京大空襲（1971年版）」を読んできたいと願っています。また、野坂昭如さんの各種の著作もよんでいただきたいとねがっています。私は、学生時代にこのような本に出合って以来、強い影響を受け、これまで平和主義者であることを誇りにして生きてきました。若い世代にそうなることを願っているのです。文学的なセンスを磨いたり人権感覚を身につけたり真実を知るには、書籍をじっくり読むことが一番良いと思います。それも、できることなら20台の前半までに経験されることが好ましいことは、多くの世界の人間形成についての指導者の共通認識だと思います。

## 046) 「道徳が大切である」と叫ぶ日本の戦後最悪の「不道徳な総理大臣」

「道徳が大切」などと言って、第一次安倍内閣では、戦後のもろもろの法律の中で最高だと評価されていた「教育基本法」を戦前の国家中心主義に改悪しました。それだけではなく、安倍総理は、「美しい日本の実現を」と口ではきれいな言葉を発しながら、「日本の伝統的な、美しい道徳観や、思いやりの心を自分から進んで破壊し、自分がそのような愚かな行為をしていることへの認識も反省もなく、つまり臆面(おくめん=恥ずかしいと思う気持ち)もなく、自分の周囲にいる人たちを犠牲にしながら、政治の舞台裏では自己防衛に狂奔(きょうほん=狂ったように動き回ること)」してきました。これは私がまともな人間と評価している人たちの共通した考えです。その事は毎日新聞等のまともな新聞の日々の記事や国民の投書でわかってもらえると思います。「それでも内閣支持率は高いではないか」という反論もあると思います。しかし、そもそも世論調査が公正であると言うことはできないこと、そして内閣の支持率が高いのは、株価が高く、企業や富裕層、そしてそのことによって間接的に生活が安定している人が多いからです。私は安倍内閣の経済政策は、基本的には優れている側面があると、それなりに評価しています。しかし、彼の物事の考え方、人間としての振る舞い自体に欠陥があるのです。このような指導者に支配された社会は、いずれ大変な事態を招くであろうと私は考えています。まあ、将来自民党が選挙で敗北して政権が交代するようなことで今の政権の指導者が反省をしてくれることくらいで収まれば、それで幸いだと思うのですが。それにしても一体まともな保守系の国会議員は一体何をしているのだろうかと言つて(いぶかって)いるのは私だけではないでしょうに。

2018年夏

## 046) 自衛隊の隊員が、戦況の報告を怠りました

自衛隊が、派遣されていたソマリアでの戦闘状況の報告を怠ったという記事が新聞に載っていました。あなたたちは、このような事態がいったいこのことがどういう事態を導くのか本当にわかっていますか。そうなのです、このようなことが起こって、世論がねつ造され、文民である政治家が無視され、軍国主義に陥って破滅していった過去の日本と同じ状況が、今の日本で起こっているということなのです。しかもこのような大事件をまともに考えようとしないのが、現在の安倍内閣なのです。

つまり1931年柳条湖事件=満州事変の勃発、1932年5・15事件犬養毅首相暗殺=日本の政党政治の終焉→1936年2・26事件高橋是清首相暗殺1937年盧溝橋事件=日中戦争・南京虐殺事件→国家総動員法発令→1941年12月真珠湾攻撃という流れが、今後も起こらないとも限らない状況になっているのです。

時代が違ふしそんなに大げさに考えなくてもよからうという気持ちもわかりますが、しかし私くらいに「権力に対する猜疑心」を持っておかないと、民主主義はあっという間に壊れることは、歴史が証明しているでしょう。あの素晴らしい第1次大戦後のドイツのワイマール共和国が、ヒトラーに乗っ取られたのですから、素晴らしい日本国憲法がいつ壊れるかはわかりませんよ。

若い世代は、スポーツやネットゲームやAKB48などに熱中しないで、もっと自分の依って立っている足元を堅実に学びながら、しっかりと一方ではこの厳しい社会の中で、経済的に豊かな将来の実現が出来るようになり、他方ではみんなから尊敬される次の時代の指導者になれるような学習にまい進するのです!!

## 047) 壊れつつある民主主義国家(のはずの)日本

今日の日本の姿を見てください。国の指導者は権力を背景に恥を恥とも思わない平気で嘘をつき国民をごまかす。難関大学出身のエリート官僚は自分の出世と保身のため公僕(こうぼく=国民に尽くす身分で憲法15条2項に規定)であるにもかかわらず、守るべき国民を平気で無視する。大学のスポーツ指導者は自校の名声のために勝つことを最優先し、教育者とは程遠い指導で、素直で純粋な学生の心をひどく傷つける。世界を代表す



る大企業で不正が頻発し、企業やメディア社会にはハラスメントがまかり通り、社会全体にもいじめと差別が蔓延し、社会から仲間はずれにされた孤独な若者による犯罪が後を絶たず、大都会は生活困窮者に満ち溢れています。他方では地球環境の破壊は進むばかりです。

何かがおかしいと思いませんか。そうなのです、明らかに**社会が劣化して民主主義が崩壊し始めているのです**。子供たちの未来を守るためにはこのような傾向を放置することは許されません。

実はこのような傾向は、多くの人々が自分の日々の生活や子育てに追われ、他者の生活や社会問題や自然環境について考える余裕がなくなるとともに表面化してきたものなのです。自分の成績アップ、自分の就職、そして自分の生活のための収入の確保などに追い回され、**自分を優先するがゆえに、結局はみんなが不利益を被っているという、ある種の現代特有の貧困ないし、現代特有の生きていくことの難しさに起因しているのです**。

実はこれらの社会問題を乗り越えるには、子供の時から社会や政治に興味を持ち、家族や学校や地域社会で議論しあうことが必要なのです。しかし社会、正確には今の社会で多くの既得権を持っている現代の支配者階級ないし富裕層そして教育の管理者はそのような議論を許しません。確かに小中高生はまだ基礎的な知識や経験が不十分であること、そして入試などで時間も限られていることなどから、社会問題を考えることは早すぎるし、危険であるという指摘も間違っていない。しかし「今の小中高生」の未来をつくっているのは「今の政治家や官僚」なのです。そう考えると今の子供たちが自分に直接かかわってくることについて考えないこと、議論しないことは無責任だと思いませんか。とりわけ少子化のもとでの今の小中高生や若い世代の、将来にわたるとてつもない社会保障費用の負担の問題がその典型です。よりよい社会の構築のためには、時間と能力の限界を認識したうえで、必要な範囲で親子や友達とそして地域や学校で議論して行くことが今こそ必要なのです。

他方で、資本主義という競争社会では、自分の人生の経済的基盤をしっかりと築くために、今はしっかりと勉強をして点を取らなければなりません。しかしそれと同時に、毎日の生活の中で少しだけ時間をつくって、今の時代の姿や将来への展望を持っておかないと、人知を超えようとするAIやネットでの監視社会そして核兵器より怖い最新の兵器が存在する現代の人々には明るい未来などありえません。脅しでも何でもなく、これが現実なのです。

## 048) 日本の体躯会計の情けない指導と犯罪の構成要件

日本中の主に体育会系の組織で、暴力やいじめや権限乱用が問題になっています。このことの本質は、昔からの「儒教教育」に遠因があるのです。国家や権力者の地位の確保を優先する孔子の儒教思想、支配する側の利益を優先するがゆえに、支配される側の一般人の人格や人権を否定することになるのです。従って、このような出来事をなくすためには、市民革命を経験している、欧米の「人権教育」の徹底が不可欠になるといえるでしょう。

しかしたとえ遠因がそこにあるとしても、現在は「個人責任」が前提とされている時代です。たとえ監督やコーチの指示があったとしても、違法タックルをした学生は、刑法204条の「傷害罪」の実行犯としての責任はまぬかれないでしょう。少なくとも自由意思でタックルをしたことは否定できないからです。哀れですが、彼が言うように、彼の心の弱さに原因があります。なにもそのような愚かな指導者の意見は聞かなくてもよいし、そんなことまでして得た成果や利益には価値がないことを悟るだけの人間的な成長が必要だったのです。彼の場合、民事責任や、違法性や科刑の段階で、正直に自分の責任を認めているので、裁判の場ではある程度の救済がなされると思います。しかし謝っているからと言って安易に救済をすると、また同じことが起こることはだれでも知っていることなので、司法という仕事は、難しい仕事であると思います。

## 049) G A F A (ガーファ)

あなた達はG A F A (ガーファと発音)を知っていますか? Google Apple Facebook Amazon (グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン)の4企業をまとめて呼ぶ時の言葉です。IT (インフォメーション・テクノロジー=情報伝達技術)の発達により便利になった「世界」は、これらほんのいくつかの企業に情報が寡占(かせん=独占とはいかないまでも、ほぼ独占状態近くまでほんの少しの企業に、特定の産業の分野が支配されている事=社会の公民で学びます)されています。少し理解に苦しむでしょうが、**現在の世界はこれらほんの一握りの数の大企業によって、経済も文化も政治もさらには軍事もそしてあなた達のプライバシーも支配されているのです。**わかりやすく言い換えますと、あなた達の家族やメールがこれらの企業によって保管されているだけではなく、あなた達の好みの音楽や好きな雑誌まで、つまりあなた達の人間性まで、これらの企業は、**今現在把握しているとうことです。**なかなか分かってくれないので、館長が時々自分へのアマゾンからのメールを紹介して「アマゾンは、僕の音楽の好みを知っているでしょう」と見せることがあります。このことは便利であると同時に、恐ろしいことでもあります。世界中でベストセラーとなっているスコット・ギャロウエイ著「G A F A」という本は、人類全体へのG A F Aによる世界支配が、人類の将来にとってどんなにか危険なものであるかを警告した書物です。**もしあなた達が自分の人生で「自由」を守りたいなら、必ずこの本を読む必要があります、例え中学生であっても。**

## 050) 東京オリンピックという恐ろしいほどの無駄遣い

**2020年の東京オリンピックにかかる費用は約3兆円といわれています。**このお金は、①福島地震や東電の原子力発電のメルトダウンによる**被曝者の救済**②最近の**北海道地震の被害者の救済**③今年そして昨年そして一昨年の広島から関西の**水害の被災者**、福岡の甘木の**水害の被災者**、熊本の**震災の被害者の救済**④有明海の埋め立てによる**漁業被害を受けた漁民の救済**⑤いまだに終わっていない**第二次世界大戦をめぐる国内国外の被害者の救済**⑥同じく未だに終わっていない**水俣病をはじめとする4大公害病**や土呂久や福岡のカネミ・ライスオイル患者の救済やオウム真理教の被害者の救済⑥最近明らかになっている**国策による優生保護法**で不妊手術を強制された人々への**慰謝料**など、まずなによりも先に、社会的弱者の救済へのお金として使われるべきだと思いませんか? 政治とは経済活動の発展という側面も含めた意味で、弱者救済のためにあるのであって、富裕層や恵まれた環境にある人たちの利益のことは考える必要はないのです、乱暴な言い方ですが、彼/彼女らは放っておいても生きていける人たちなのですから。

それ以上に森が気になっていることは、来(きた)るべきといつか**確実に来る**ことが**予測されている「新たな関東大震災」**に備えて、**東京近辺の被害を最小限に抑える**ための費用として使うべきではないかと思うのですがどう思われますか? そうでなくとも「免振のためのKYB (カヤバ)によるダンパーの工事が手抜きであることがわかっている今」なのですから。森は「東京の高いビルやタワーが地震で折れてしまう可能性はある」などと話しており、おそらく塾の子供たちからも失笑を買っている可能性もあると思っています。しかし私は**まじめな学者の意見を伝えるだけ**であって、決して根拠のない話でもありません。東京だけを繁栄させたいわがままな東京人に怒りを感じながらも、自分たちの危険極まりない**栄華しか見えない愚かな東京人**に対する警告として、自分の持っている能力と東京に住む人々への思いやりの心を込めた意見として、ここに書いておきます(笑)。

## 051) 日本国憲法25条の生存権

中学3年生は現在「公民」で**憲法25条の「生存権」**について学んでいます。1919年のドイツ「**ワイマール憲法**」に起源をもつこの20世紀的人権と呼ばれている素晴らしい人権規定は、市民革命の先駆けである、イギリスの「**権利の章典**」にも、アメリカの「**独立宣言**」にも、フランスの「**人権宣言**」にももの規定=人権の保障がされてはいません。しかしワイマール憲法の内容のすべてが日本国の国民に保障されているのです。そ

してこの考えは、日本国憲法が成立した2年後に、国際連合による「世界人権宣言」のなかにも規定されているのです。公民の授業で、『生存権が、施しではなく「権利であること」そして、国際連合を通じて世界中の生活で苦しんでいる人たちにも保障されるような社会が目標とされていることを理解してください。そしてあなた達の力で現実にそのような世界を実現してください。

## 052) 新聞週間

10月には「読書週間」や「新聞週間」があります。志成館ではいくもの新聞記事の切り抜きを、ASSET Sの内容として生徒さんたちに情報を提供しています。

理解してほしいのは、正しい情報を国民に提供し、国民の利益を守るための貴重な情報源が「新聞」であり、まさしく「公器（こうき＝みんなの幸せを実現する武器）」と言えるのが新聞なのです。不公平で真実をごまかす新聞（のほう）が多いのですが、少なくとも「建前（＝たてまえ）」ではそういうことになっています。

また、新聞記事は文字が多い分、テレビやネットの情報よりも正確ともいえるでしょう。上述のように価値観が偏った「偏向」の新聞や「政治的な目的でつくられている新聞」もありますので、どれを読みなさいと薦めることは、個性を育てるという仕事に従事する「先生」としては、許されることではありません。ただ「赤旗」や「聖教新聞」が共産党や公明党の支持者のための新聞であること、読売新聞社から見れば「朝日新聞」は左翼ないしリベラルすぎるように見えること、他方朝日新聞から見れば「読売新聞」や「産経新聞」は右翼広報の新聞であるとされていることなどから、志成館では「毎日新聞」をバランスが良いと位置づけ、加えて地方紙としての「西日本新聞」の価値を認めた対応をして、新聞記事の紹介をしています。

私が九州大学の1年生の時に習った憲法の先生に最近であったのですが、彼が「東京新聞」と「中日新聞」が信用できると話されていたことを今でも妙に納得しています。

お願いしたいのは「新聞や書籍のような紙のメディアを大切にしてほしい」ということです。ネット・メディアも時代に合った貴重な情報源ですが、短絡的で、危険極まりなくなおかつ無責任なシステムとなっています。更に困ったことに、ネット・メディアの短い文章になれてしまうと、君たちの頭脳は「深く考える能力を持たない短絡的な判断しかできない無能な頭脳」になってしまいます。その意味でも「本」や「新聞」のような紙のメディアをこれから先もずっと大切にしてくれることを心から願っています。

## 052) 子供の頃経験した差別的な社会

小学5年生の時に父に連れられて平和台球場に西鉄（今の西武）と東映（今の日本ハム）の野球の試合を父に連れられて見に行ったことがあります。その時に大活躍をしていた恐るべき強打者がいました。それが張本勲選手です。私は最多安打記録を持っている彼こそが王や野村や落合以上の日本のプロ野球史上の最高のバッターだと思い続けています。そうです日曜日に「喝」などと言っているあの人物です。彼がテレビに出ているのを見ると、ひとりのファンとして嬉しくなることがあります。彼は「在日朝鮮人」で、福岡の西鉄ファンはそのことをよく知っており、彼がホームランを打つと「このちょうせんのばかやろー（真実を伝えるためにあえてありのまま記述しています、お赦しを）」などというひどい言葉でヤジを飛ばしていました。その時は私はとても驚いたものです。父も「博多の人間は言葉が悪い」と嘆いていましたが、実はこの時に私の「人権感覚」が心の奥底に宿りました。人間は出自（しゅつじ＝家柄や国籍）や利益相反の人（自分の味方でない人）に対してこんなにもひどいことを言うのか」と呆然となったのです。それ以来私が人を差別することは少しはなくなりました。心の中から完全に「出自や人種や国籍で人を差別する気持ち」なくなったのは大学生になった後、しっかりと憲法を学んでからです。張本氏はまた「被爆者」としての過去を懸命に隠して、懸命に頑張って一流のプロ野球の選手に成り上がりました。そして最近になって「在日朝鮮人の被曝

者の気持ち」を日本人にわかってもらうように頑張っておられます。私はずっと昔から彼をととても尊敬していました。しかし同時に彼の人生の心の中を推測すると、今でも心が痛みます。

## 052) 自殺は損なだけ

「自殺する」ことによって社会に抵抗し、悲しくて孤独な気持ちを伝えようとしても、ひどい言い方になりますが「死に損」なのです。それほど人間の社会は冷たく無責任なのです。そのことを理解して、寂しくてもつらくても強く生きてください。もし、いじめなどで怒りが収まらないときには、「将来の復讐」でも考えて、生き抜くのです。力がないと感じた時にも「精いっぱい生きておればきっと良いことが来るに決まっている」と信じるのです。

「安楽死」という、重大な問題があります。森鷗外の「高瀬舟」を通じてであった問題なのですが、ことについては45年くらい前に「刑法」を学んでいたときに深く考えた判断基準、多くの刑法教科書に載っていますが、若い世代の方には、日本を代表する多くの刑法学者の意見を参考にしたうえで議論をなさってください。渡すが尊敬する伊藤真先生の講義を聞いたうえで、彼の判断基準に従って、人権の尊重という視点から、許されない嘱託殺人罪や承諾殺人罪と、許される安楽殺との分かれ目を自分の判断基準にされるのもよいんではないかと思います。私は「人権尊重」という視点から、安楽殺≡安楽死は認めるべきであるというのが若いときからの考えで、まだ変わってはいません。

## 053) 「新自由主義に基づく民営化」への批判的見解

新自由主義理論=ネオリベリズムへの反対の姿勢は、今や世界中で展開されています。私個人ははじめっからこのような危険極まりない不公平で傲慢な考えを受け入れたことはありませんが、アメリカを中心として、ヨーロッパでも日本でも、多くの経済学者や政治家や企業家がこの理論を受け入れてきました。ご覧のように、今日の格差問題、医療や保険制度の破壊、教育の機会均等の破壊、アフリカやアジアの難民問題、など世界中の悲惨な現状は、そのほとんどが新自由主義を信望した人たちによる結果なのです。30年ほど前の、アメリカ合衆国に日本が屈した「プラザ合意」いらい、国有ないし国営企業の民営化がすすんできましたが、いよいよ生活の基盤である「水」も民間企業が参入できるまでにこの国は劣化してしまいました(泣)。「民営化」とは、国民みんなの共有の財産をお金持ちに売り渡すことなのです。株式という形で。確かに一時は国にお金が入りますが、しかしその分国民一人一人の財産はなくなってしまうのです。そして「民営化」が進むと、企業は結局のところは「お金儲けを本質する組織」なので、しまらくは国営企業や公営企業とは異なって「サービスが旺盛な会社」に変わったように見えますが、いずれはその強欲な体質が表面化して、結局は一人一人の国民が不自由で貧しくそして差別されることになるのです。つまり民営化とは、個々の国民が損害を被る面がとても多いシステムなのです。強欲なアメリカ人(ヨーロッパの平均的な人たちから見てもそうなのですが)が考えそうなシステムなのです。日本で確実に。このような流れに乗った最悪の責任者こそ「小泉純一郎元首相および竹中平蔵という馬鹿な経済学者であり国務大臣」なのです。これらの人たちは、私に言わせてもらえるなら、「恐るべき売国奴(ばいこくど=古くてとても怖い、まともな人間は使わないであろう言葉で、国や国民を裏切る人間の事を意味します)」であるということになります。植草先生や伊藤真先生や副島隆彦先生たちがいろいろな本を出版されており、この志成館のホームページにも彼らの本をたくさん紹介していますので、参考になさってください。それにもかかわらず、テレビなどの大メディア会社という民間企業の宣伝活動に洗脳されて、自ら学ぶことをしない多くの国民は、まだ小泉さんやその子供さんを応援しているのですから、あきれ果てても何も言えません。(泣)。いずれにせよ今や「水」までお金持ちに売り渡す安倍内閣の「お金持ち優先の政策」の「つけ=代償」は近いうちにあなたたちへのしかかってきます。現在フランスで起きている暴動も実はエマニュエル・マクロン大統領による安倍総理と同じようなお金持ち

優遇政策に対するフランス国民の怒りが原因なのです。

## 054) 地方特別法に関する住民投票について

中学3年生は、「公民」という科目で、「日本の民主主義は**間接民主主義**を原則とするが、**3つだけ国政のレベルで直接民主主義を採用しているところがある**」という学習をしているはずですが。その①「最高裁判所裁判官の**国民審査**」 その②「**日本国憲法の改正の際の国民投票**」 その③「**地方自治特別法に関する住民投票**」の3つです。

このなかの3番目の**憲法95条**は「一つの地方公共団体に適用される法律は、その地方の住民の過半数の同意がない限り制定できない」というものです。

このような憲法規定があるにもかかわらず、沖縄県民の気持ちを逆なでするような「**まさしく憲法違反の手続きによる埋め立て**」を強引にしているのが安倍内閣です。玉城デニー沖縄県知事はアメリカにいて地位協定の廃止を訴えられたのですが、おそらく、「アメリカの協力できた日本国憲法だから、アメリカの人なら安倍総理の横暴が止められるはずだ」という気持ちを持って、日本の民主主義の生みの親であるアメリカに飛んで、沖縄の窮状を救ってほしいと願ったのだと思います。この意味が分かるアメリカ人と全く理解できないアメリカ人もいるでしょう。確実に言えることは、憲法の色々な条項を平気で破り、憲法を守ろうとしない安倍総理の暴走がある限り、玉城知事の訴えが通るはずはないということと、それ以上に確実に言えることは「強欲なアメリカ合衆国が、日本の民主主義の発展のために尽くそうとする玉城さんの意見を聞くはずがない」ということです。これらに関する意見は、すべてアメリカ合衆国にあるMIT（マサチューセッツ工科大学）の名誉教授である、**ノーム・チョムスキー**さんの「**誰が世界を支配しているのか**」を読んだ後で議論なさってください。私は、日本人の多くの方々がチョムスキー先生のこの本を飛んでいただければ、一安心して、時間を作って懸命にホームページを作るという今の作業をすぐにもやめるかもしれません。とにかく多くの方々が彼の著作を読んでくれるように頑張っているのです。

※このような日本にしてしまったのは、テレビやネットなどの大メディアや、友人や知人の情報だけを信じ、自分から「政治」や「経済」などの勉強をまともにしない、主権者であるあなた達日本人に責任があるのです。

## 055) II型糖尿病患者は貧乏人に多い

「**糖尿病患者は貧困な人ほど発症しやすい**」というデータが公表されました。そしたらまた麻生太郎さんが表題のような暴言を吐きました。長い間多くの政治家を見てきましたけれど、江戸時代のテレビ番組の時代劇以外に麻生さんほど**傲慢（ごうまん）**で**無知で恥知らずな政治家**を目にしたことはありません。富と権力と家柄が良いのだという意識があればこれほどのひどいことを為したり言ったりしてもかまわないのだという感性は、**非人間的であるだけではなく、その弱者いじめをする姿は、まさしく犯罪者よりも悪質であると批判するべきでしょう。**そのことに本人は気がついていないのですから呆れてしまいます。（怒）。しかも彼の選挙区は福岡県なのでとても悲しくなります。多くの福岡県人が「**麻生太郎は福岡県の恥である**」と言っていることが耳に入っていないのでしょうか。まさしく「裸の大様」という童話の中の王様以外の何者でもありません。

## 056) 日本の伝統的な食べ物である干し柿を作りますか

志成館にはここ2年間、冬になると、干し柿を吊るしています。3つの目的があります。①一つ目は情操教育のため=昔は甘いもの「糖」が貴重であったので干し柿などを好んで食べていたという**日本の習慣ないし古来の風物詩を再現して理解をしてもらうため** ②2つ目は**万葉集の勇壮素朴な歌風と正岡子規の家風そ**

して彼が好きな柿本人麻呂という歌人との関連を覚えてもらうこと ③3つ目は短歌や俳句の革新運動に人生をささげた正岡子規とその俳句「柿食えば、鐘が鳴る也、法隆寺」をとという短歌そのものを、日本人としてのアイデンティティとして覚えてもらうというものです。

この目的のために私は一人で柿の皮をむき、紐に結び付けてせっせと干し柿をつるしているのです。吊して20日くらい経つと少し柔らかくなって食べることが出来ます。そののち正月に向けて、だんだんと固くなってきます。渋柿は一個50円くらいで手に入りますので、あなた達も皮をむいて干してみませんか  
ちなみに最近の世代は「スイーツ」といういかにも甘い言葉と甘い味を好みますが、多くの甘い食べ物には健康に悪い人口の物質が含まれており、ボブ・ディランが言うところのしたように、店で売っているスイーツは「毒菓子」が多いのですが、少なくとも干し柿には甘い毒は含まれていませんよ(笑)。

尚、私が真心を込めて作った干し柿を食べてくれる生徒は、志成館の中にもほとんどいません。多くの子供たちは干し柿が嫌いなのです。(泣)。現在はそれほどまでに美味しい食べ物にあふれているのでしょう。

## 057) 「応神天皇の征服」と日本の天皇の系譜

私が長い間苦しんで、たくさんの歴史書を読んで調べていた日本史の「大和時代」、とりわけ早くから私が受け入れていた「3王朝交代説」に立脚した場合の、「第2の中期王朝」の歴史が、高橋義雄さんの著作を通じて、私なりに理解できるようになりました。今はほっとしています。ただこの歴史部分には争いが多く、先日の国会でもこの点に関する争いが表面化したこともあり、(百田尚樹さんを賛美する安倍総理と百田さんの歴史観をでっち上げと批判する辻本議員との議論のことです) 今後も長あいだ「日本史の本質論争」として議論され続けるだろうと思います。

しかし私がこれまでの人生を通じて、浅い知識ながらも、疑問としていたことが明らかになりましたので、それを明らかにした書籍の紹介をいたします。著者は高橋義雄さんという、本業は公認会計士の方の説です。

中学生や高校生に日本史の授業をしても、どうして説明をしたらよいかのわからなかったのが伽羅(=伽耶)の国と大和時代の日本との関係でした。この説は加羅の国の国王である首露が日本史でいう応神天皇と同じ人物であり、その国王とその子供の仁徳天皇が日本を征服し、大和時代の第2王朝を築いたというものです。その後朝鮮半島の南にあった伽耶の国は新羅に滅ぼされてしまって、現在の日本の大王=のちの天皇としての名前だけが応神天皇以降の日本の天皇として記されているという説です。

そうするとどうして歴史の記述から伽羅がなくなったのか、白村江の事件は何だったのか、どうして天智天皇は韓国の歴史ドラマによく出てくるのか(笑)がわかるようになります。あなたたちは自分で学習して「歴史の真実」を理解してください。但し、百田さんの「日本国記」ように、日本の天皇制や右翼的思想の人たちを賛美し、日本国民を右翼化するような政治的意図で書かれたでっち上げの本は、学問としてまじめに読まないようにしてください。ちょうど小説や映画やアニメで肯定的にとらえられて、日本の多くの人が誤ったとらえ方をして応援している「新選組に関する知識」のようにならないようにしてください。新選組の人たちは時代を見誤って、新しい時代をつくろうとした江戸末期の九州山口地域の多数の希望にあふれる若者を殺した、歴史的にはテロリスト集団なのです。先生の仕事は「小説」を教えることではなくて、「真実」を伝えることなのです。

(詳解)

公認会計士(医師、弁護士と並ぶ日本の自由業)である、高橋義雄さんの大和時代の歴史の解明する「**応神天皇の征服**」という書物があります。この本は、現在の日本の百田尚樹さんのベストセラー書の「日本国紀」という、日本国を最高とし、他国を蔑視するような、でっち上げの歴史書とは全く逆の、データを重んじた客観的な、学問的な日本史の本です。学問の世界も科学の世界も芸術の世界も「上下関係=指導者と指導を受ける側の支配と被支配の関係」が厳しく、先生の教えに反して新しい理論や主張を唱えるのは簡単なことではありません。その点、**学者ではない高橋さんの主張には説得力があります**。ちょうど学者という枠の限界を超え

られた大隅良典さんや本庶佑さんがノーベル賞をもらったように、学説や時代の常識を超える、正しい判断ができる立場にあるからです。

小説家の百田尚樹さんの「日本国紀」は、日本の天皇制度を無理やり日本人だけが喜ぶように結び付けた「作り話」の部分がとても多いのです。彼の行為は、戦前の軍国主義日本がしたことと同じことなのです。そのような百田さんを支持する安倍さんを、立憲民主党の辻本さんが批判しているのは、今の日本を戦争ができるようにと企んでいる安倍総理らしい危険な発想と考えているからなのです。

あなたたちは以下のように単純に考えるのです、それは「歴史的には日本と朝鮮半島や中国とは色々な争いがあったことは認めなければならない。しかし今のように世界が狭くなった時代では、お隣の朝鮮半島や中国、更には北海道と近いロシアとも仲良くして平和を目指せばよいだけの事である」と。但し、ここ100年以上の間、「世界中の経済的そして軍事的な支配」を目指してきたアメリカは、日本が中国やロシアと仲良くなることを許すことはないでしょう。たとえ戦争やテロを起こしてでも、アメリカ合衆国は日本を自分の言いなりになる国にしようとし続けるでしょう。これが世界の政治経済の真実です。

## 058) 公平な知識の求め方について

志成館では「世界の情報」をあなた達に教えるために「TIME」や「NEWSWEEK」などを定期購読しています。この2冊は「アメリカの価値観」に基づいて編集されていますので、公平な知識をあなた達に教えるためには、フランスやドイツさらには中国やロシアやインドなどの雑誌や書籍も参照するべきでしょう。しかしそれは館長の能力を超えています。そこでここでは、この2冊のうちNEWSWEEKは保守的＝アメリカの利益を意識した記事が多いこと、他方でTIMEはどちらかと言うと国家間の問題を比較的公平な記事をのせているということだけを伝えておきます。

従って、このような雑誌の傾向や側面を意識して読むことが出来るなら、この2冊は、世界レベルでは最も信頼できる週刊誌であることは間違いありません。いずれにせよ、今後はこのような雑誌や週刊誌も読みながら、自分なりの記事の修正をしながら＝記事の裏側の状況を推測しながら、世界の情報を理解してください。

「著作権侵害」を心配してくれる生徒さんがいます。とてもありがたいことです。しかし志成館のホームページやASSETSは、SNSのように世界中の多数の人が見るわけでもないし、塾の生徒さんたちに、ホームページをつい維持て、いつでも「このような良書があるのですよ」というある種の書籍（＝紙メディア）の紹介やある意味での販売の促進＝「雑誌や書籍の宣伝」＝出版社や著者の利益を守ろうという側面があり、他方では志成館や官庁の森は1円の利益をも得ることがないわけですので、「他者の利益を侵害する」著作権侵害の側面がないものと館長は考えています。（法律には守るべき法益があり、それに反しない行為は、例え条文の内容に反していても違法ではないというのが館長の考えです。憲法21条をそのように解釈しています。）加えまして、このような考えの人たちが「意見」を表明しあわないと、この世界から「真実」はなくなってしまい、人間にとって最も大切な「自由」もなくなってしまおうと考えているのです。またホームページの各所に「著作権を侵害されると感じられ著者や出版社がおられましたら、すぐにホームページから削除します」という文章も載せていますのでご安心を。今の志成館の信念の一つは「紙メディアを守ろう」です。

## 059) トランプさんよりもプーチンさんのほうが信頼できる

ヨーロッパの人たちは、アメリカのトランプ大統領よりも、ロシアのプーチン大統領の方を信用しているという世論結果が出ました。NEWSWEEKの記事ですよ。アメリカの利益を優先する週刊誌なのです。それがこのような結果を報告しているということは、アメリカの将来が危ういということ、したがって日本人から見れば、アメリカの言いなりになるだけの安倍政権のような政治ではなく、ロシアと仲良くしようと

してつぶされた鳩山政権や中国と仲良くしようとしてつぶされた小沢一郎さんのように、ロシアやヨーロッパ、更には中国との将来を見据えた付き合いをしておかないと、将来大変なことになるかもしれないということです。

## 060) 醜い日本人・・・(1)

比較的最近の2017年に亡くなられた元沖縄県知事の故太田昌秀さんが書かれた本に「醜い日本人」というものがあります。明治以降の、いやその前の江戸時代から、日本人＝ヤマトは沖縄の人々＝ウチナンチューにひどく残酷な対応をしてきました。とりわけ第二次世界大戦の終結以降の沖縄に対する日本政府のやり方はひどいもので、戦後の1972年までは日本の一部ではなくアメリカの植民地でした。その前後にわたる「日米地位協定」を通じて、沖縄の人＝ウチナンチューに対して、日本本土の国民＝ヤマトンチューは、すべての条約の不利益を沖縄の人たちに我慢するように強いています。今の今も、日本の国民は、沖縄の人たちを苦しめ続けています。基地問題や産業の未発達に苦しみ、日本の都道府県での最低の県民所得にあえぐ沖縄県民に、もっと責任ある暖かい手を差し伸べるべきだと思いませんか。

## 061) 醜い日本人・・・(2)

少し古くなりますが、1994年に金容雲さんが書かれた「醜い日本人」とう本があります。副題は「嫌韓」対「反日」を超えて問ものです。その内容は、①日本人は韓国の長い歴史を知らず韓国に対する敬意を持っていないこと②日本人は井の中の蛙であり国際人とは到底言えないこと③日本人は傲慢である④日本人は韓国に対する経験を語るのではなく歴史を語らねばならない⑤過去を素直に認めない日本人⑥戦後日本がアメリカに奉仕を続けているように、韓国は戦前も戦後も日本に奉仕続けてきた⑦広島や長崎に原子爆弾が落とされたのは日本人の悪行に対する天罰であるなどと、手厳しい文章が並んでいる。しかし素直な目で見ると、いずれも正しい内容が多く、改めて日本人が韓国にしてきた悪行が確認できます。

この位置に、つまり沖縄の後に韓国を持ってきたのは、明治以降の沖縄に対する日本政府のいじめと、明治以降の韓国に対する日本政府によるいじめは、ほぼ同一の視座から把握できるからです。2020年のいま、沖縄の人たちは、日本政府のこれまでの政策そして今現在の飛行場の移転に関する沖縄県人の意思の無視は、日韓関係における、現在の韓国も人たちの怒りと全く符号しているのです。何よりも安倍総理大臣の自国偏重主義に問題があるのですが、しかしこれを放置しては日本の永続的な発展などはとても望めません。

金氏には、日韓の対立を煽る意思は全くありません。逆に「お互いをよく知って、もっと助け合おうではないか」という提案をされているのであって、2020年の最近の数年前から出ている、いくつかの嫌韓を煽るタイプの本ではありません。

日韓は同じ民族ですし、私の知人は「中国が両親で、朝鮮は兄姉であり、日本は弟妹である」とよく話されるのですが、日本史を素直に読めば全くその通りであることは容易に理解できることなのです。

日本そして東アジアそして世界中が協力し合うためには、日本国民は真っ先に韓国や沖縄に敬意をもって、過去を誠実に振り返り、これらの国民や県民に受け入れられることによってしか、新しい未来は開けません。日本人の多くが、化教区はアメリカを頼りにして、韓国や中国に対してはまともに対応しようとしなくても「醜い」そして「恥ずべき」国民なのです。この本は25年前の本なのですが、今こそこの本をしっかり読む必要があるでしょう。

## 062) 醜い日本人・・・(3)



日本の有名な哲学者で、実存主義的な見地から（私の個人的な表ですのでお許しを）「人生に生きる価値はない」や「うるさい日本の私」などのいろいろな興味深い本を出版されている中島義道さんの本の中に「醜い日本の私」という本があります。60）と61）の関連でここについてに並べているだけなのですが。（笑）。実はこの本は哲学書であり、じっくりと深い洞察をもって読まないで理解が困難な本に思えます。しかしそれでもここに並べたのは、「醜い日本」そして誠実な哲学者らしく「醜い自分自身」のこと（この後者の部分は謙虚さの吐露であると考えて無視してよいでしょう）をありのままになおかつ繊細な感覚で述べられており、沖縄問題や、韓国問題を考えるには、ある意味ではとっても参考になる書籍であると考えて、ここに置きました。①ごみ溜めのような街②欲望自然主義③奴隷歴サービス④言葉を信じない文化⑤醜と不快の哲学が目次となっています。沖縄や韓国の問題とは関係なしに、書き物としてもとっても面白いですよ。

### 063) サロー節子氏への敬意と夕刊の購読を

2018年の「ノーベル平和賞」は、核爆弾の廃絶を唱える国際NGOである「核兵器廃絶国際キャンペーン」＝「I CAN」が受賞しました。主役は、広島で被爆し、カナダに移住して、「I CAN」のベアトリス・フィン事務総長と共に核兵器の廃絶の活動を続けてきたサーロー節子さんです。彼女の素晴らしい演説をしっかりと読んで、今後君たちが平和を守っていくために何をなすべきかを理解し、核兵器のない世界に向かって戦って共に戦ってください。自分の人生のために。現在もネット上で探せば、彼女のメッセージがすぐに出てきます。毎日新聞は12月14日の夕刊に全文を掲載していましたが他紙はそれほどまじめに報道してはいません。さらにこの荣誉あるノーベル平和賞の受賞をことさら無視をする傾向もうかがえます。安倍総理の目的が、日本国憲法を変えて、軍隊を持つ日本を作り、徴兵制度まで考えているからであり、安倍総理に「付度」するメディアほど、この荣誉に関する報道をしていません。

どこの出版社についても言えるのですが、「夕刊」は時差が異なる外国で起きたことのニュースを即時に紙面に載せますので、かなり正確で、「新聞社内での厳しい校正がなされる前の過激なままの原稿」が載ることが多く、とても信用ができるのです。だから「夕刊を購読するのもよいのではないのかな」と思います。

### 064) 「学校弁護士」は信頼できるのだろうか

授業中に森館長の話をしっかり聞いている生徒さんは、「自分や自分の周りで虐められている友達がいたら館長に相談しなさい」と言っているのを覚えているはずですよ。そして「相談を受けたら福岡でも特に力がある弁護士を紹介するから、司法の力を使ってできるだけ自分を守るように」と館長が偉そうに言っていることも覚えてくれていると思います。そうなのです、いじめは先生や学校や教育委員会の解決能力を超えているのです。だから大きな声を出して裁判沙汰にしないと自分も家族も守れません。陰湿ないじめはどうしても学校外部の人間の判断に任せるほかはないのです。

そんな中で新聞の記事に「学校弁護士」という制度をつくって、子供たちをいじめから守ろうという動きです。これまでも学校に付属するような弁護士みたいなものはありましたが、それは先生や教育委員会を守るための弁護士であり、生徒を守るような本質を持つものではありませんでした。ですから生徒も保護者も弁護士に頼ったり信用することもなかったのです。子供の立場に立った弁護士が必要なのです。つまり「双方代理」にならない、2当事者対立構造の弁護士の設置が必要だということになります。

**（新しい判決）** いじめが原因の「自殺」に関する裁判でのことなのですが、いじめで自殺した中学生の親が、いじめをした友達に対しての損害賠償を訴えた民事事件で、**天津地方裁判所は、いじめた中学生2人に、合計3750万円の損害賠償をするようにという判決を出しました。**

私から見れば、「ようやくこのようなまともな判決が出た」という気持ちで、これまでの裁判が手ぬるすぎる

し、遅すぎたと感じています。ずっと前から、多くの学校でのいじめは「犯罪」であると私は考えており、学校も教育委員会も、この判決かけに、しっかりとした対応がなされることを願っています。

未熟な子供の行為だから「容赦するべきである」という意見の人も多いということも認識しています。しかしそれは①「子供たちに対する社会教育が遅れている」という教育をする側の怠慢ないし責任の放棄と②今の子供たちは、例えば男女関係の問題や、複数人によるいじめや犯罪に代表されますように、ネットを通じて昔の成人よりも多くの情報を持っているので、すべての子供たちを未熟で無知な人間であるという把握は正確ではないし時代を見誤っていると考えるからです。

この判決以降、いじめについての処理が少しは良くなるかもしれませんが。しかし本質的には「いじめられている人たちが立ち上がって戦う」しか方法はないのです。

ちなみに、いじめの真の原因については、上掲062)の**中島義道**さんが「**人生に生きる価値はない**」という本の冒頭部分に見事に喝破されています。転記します。P.11の箇所です。

いじめの本当に原因とは何であろうか？それは、我が国の国土をすっぽりと覆っている、いや日本人のDNAの中に染み込んでいるとすら思われる「**みんな一緒主義**」である。あるいは協調性偏愛主義であり、ジコチュー嫌悪主義であり、形だけ平穏主義といってもいい。つまり、日本人のほとんどがそれに絶大な価値を置いていることこそが、「日本型いじめ」の真の原因なのだ。

## 065) グレタ・トゥーンベリさんからのメッセージをみんなで共有しましょう

学校を休んで毎週金曜日にストライキをして「**地球の温暖化を止めよう**」と叫ぶグレタさんはまだ15歳です。しかし彼女の活動に感銘を受けたベルギーの中高生がいろいろな活動をはじめ、それに呼応して世界中の小中高生たちが同じような活動を始めました。彼女の最初の演説は、ネットで聴取することができますので、まだ知らない方はすぐにでも聞いてみてください。TIMEやNEWSWEEKのどの世界をまたぐメディアには、これ以降彼女の活動に関する記事が繰り返されるようになってきました。

「**どんなに頑張っても、どんなに立派な人間として成長しても、そもそも生きている地球そのものが壊れかかっている**ので、**それでは生きていけない**」という、しっかりと意思を持つ中高生の「**熱く、熱く、気候よりも熱く**」という運動です。私は日本の中高生も見習うべきであると考えています。にもかかわらず日本の学校での取り組みは全く不十分と言わざるを得ません。こんなところに日本という劣化した国家の醜い姿が見え隠れすると感じているは私だけではないでしょう。小中高大生のあなたたちは、今現在「何が優先するのか」を真剣に考えるのです。そうすればこれから長い人生を生き抜くことも可能になるかもしれません。

この文章を修正している2020年の9月5日現在、日本の気候史上最大になる可能性がある、台風ハイエン(2020年台風10号)が私の住む九州福岡県に近づいてきています。すでに台風メイサーク(台風9号)で、志成館の屋根の一部が壊れており、さらなる被害が心配なのですが、しかしこれも人間にとっては自業自得で、受け入れざるを得ません。ここ数年の大災害以上の災害が続いていくことは菜違いないでしょう。

ちなみに、気象変動や日本の過去の自然災害に詳しい私は、志成館の建物に、「台風保険」をかけています。こんなことから私がいかに気象変動を真剣に感は得ているかがわかんと思います。

## 066) チャイルディッシュ・ガンビーノの「This is America」

2019年のアメリカの音楽のグラミー賞を獲得したのは、チャイルディッシュ・ガンビーノの「This is America」です。黒人に対する差別や銃を容認するアメリカ合衆国の世相を批判した、ラップというジャンルの音楽ビデオです。この映像と歌詞で、今のアメリカの本当の姿がわかるでしょう。アメリカの普通の人たちの

生活はこれほどひどい物なのです。そして一部の白人たちが贅沢をして、自由を謳歌しているのです。あなたたちの多くはアメリカの真の姿を知りません。テレビが本当のアメリカ合衆国を教えようとしなからなのです。しっかりと自分から進んでアメリカ社会の勉強をしてください。

ところで今回の066)のテーマは別のところにあります。今回のテーマは、この映像を作成したのがヒロ・ムライさんです。この方はなんと、日本のJ-ポップやJ-ロックの神様と言われている、村井邦彦さんの子供さんなのです。「この親にしてこの子あり＝立派な親のもとで立派な子供が育つという意味」ということで、私はとても感動しています。そして初めてラップ・ミュージックという音楽ジャンルが最高楽曲賞をもらったことなどから、音楽の世界も流れが変わっていくかもしれません

このミュージック・ビデオはネットですぐに見ることができますので、私の塾では全クラスで授業時間にテレビ画面で見せました。アメリカの抱える深刻な「銃」の問題と「黒人差別と貧富の格差」を知ってもらうためです。

## 067) オリンピック選手への褒美はコマーシャルに出て小銭をもらうことなのか

オリンピック選手の努力と功績は、すべて本人への賛辞であるべきだ。つまりその努力や結果はその人だけのものであって、多くの普通の人たちは、その個人に対して忘れることのない敬意を持ち続けるべきであると思う。ところが、アマチュア選手が実際にもらっている褒美といえば、大きな会社のコマーシャルに出て、出演料をもらうだけのように思えて仕方がない。政治家の宣伝に利用され、企業の宣伝に利用され、そしてお金をめぐんでもらうだけという側面が多いようにしか見えない。国会議員になって票集めという客寄せパンダになっている選手も同じようなものである。

しかし他方では、各分野での指導者になっている人たちも多い。この人たちは恵まれたほうである。メディアでは、時にはスポーツ選手の個人の努力をたたえる番組が作られることがある。しかしこの場合もまれであるし、タレント性や話題がある選手しかメディアは取り上げない。

何かしら努力割にはあまり報われていないように感じて、哀れだと思えるのは私だけではないような気がする。また、このような褒美のために頑張っていると思うと、スポーツもお金にまみれた側面があるというか、金銭的な戦いでしかないことになるであろう。

何かしらスポーツマンを本当にたたえる方法がないものだろうか。

## 068) キラキラネームやドキュンネーム

最近、キラキラネームやドキュンネームなどと呼ばれるような変な名前を親から付けられて、子供が困ったり、おかしい名前のためにいじめられたりすることがとても多くなっています。もしあなたが、親がつけた名前が嫌いであつたり恥ずかしいと思つて「自分の名前を変えたい」と思つたら、正当な理由があれば変えることができます。安心しましたか。但し苗字は原則的には変えられません。そんな時にはどうしますか？ そうなのです「ペンネーム」を作つてそれを使えばよいのです。将来国会議員を目指して立候補し選挙活動をしませんが、手続きは本名でするようになっていますが、ペンネームでの投票も自分の表になりますよ。

ちなみに現在ネット上での、「読めないキラキラネームに順位を載せます」面白半分に。

- ① 男 (アダム) ② 心姫 (はあと) ③ 紅葉 (めいぷる) ④ 桃花 (ピンク) ⑤ 夢姫 (ぷりん・ゆらり)
- ⑥ 天音 (そぷら) ⑦ 奏夢 (りずむ) などです。

名前はわかりやすく読みやすくないと、本人だけでなく、周囲の人が迷惑するだけなのです。さらには就職試験の時に多くの不利益を受けます。親が稚拙 (ちせつ＝バカ) だから、子供も馬鹿に決まっていると判断されるということです。名前です「親のバカさ加減がわかる」と感じる人は多いと思います。繰り返しますが「名」=first name

は変えることができます。

## 069) 「みんなの声」などの新聞の読者による投書欄の実際の機能

新聞記者もある種のサラリーマンであり、会社の上司の命令には逆らえず、自分の思い通りの記事をかくことはなかなかできません。本当ですよ。会社の上司は自分の部下の仕事を監視して、会社のオーナーつまり所有者や株主を怒らせて、会社に不都合が生じないようにするために、いろいろな配慮をとるか遠慮をしているのです。ですから新聞には本当のことが載らないことが多いのです。そのため、真実を述べたい正直な記者は、自分の想いや願いを、「みんなの声」という投書欄を通じて吐露（とろ＝気持ちを外に出すこと）しているのです。意味が分かりますか？わからない人は質問してください。授業の合間に教えます。

「現在の安倍内閣ほど、恥知らずで、不道徳で、嘘つきで、生意気な内閣はなかった」という気持ちを毎日新聞の記者が新聞に書くことはできません。書いてしまうと会社を辞めさせられる可能性もあるのです。ですから「投書者の意見である」ということにして、つまり投書を利用して、「自分の書きたい記事を載せている」のです。わかりましたか？その意味でも新聞の「投書欄」はとっても大切なのです。

## 070) 南の島々で死んだ多くの日本兵の骸（むくろ＝死骸）はまだ放置されたまま

フィリピンやサイパン島やグアム島などの南の海の中にある美しい海辺やジャングルの中には、まだ113万人の日本人の兵士の骨がほったらかしになっているという記事が新聞に載っていました。なんとまあ悲しいことかと、考えただけで気分が悪くなるのがよくあります。そんなことから、私は海がとともきれいで人気観光スポットになっている「バリ島」など南の島の旧日本軍の敗北の地に観光旅行に行くことはありません。気弱な私はすぐに霊にとりつかれるからです。私の友達も、叔父が「インパール作戦」という、あまりにも愚かな日本国軍人の司令官の命令に従って行軍をさせられ、ほぼ全滅という形で無残にも命を落としたところに旅行に行き、叔父さんの魂にとりつかれてしまって、3月ほど入院をしたことがあるのです。心優しい人間なので、憑りつかれやすく、叔父さんの霊が、悔しさや恨みを伝えたいがために、彼に憑依したのだと思います。

## 071) 91回アカデミー賞とロックバンドのクイーン

今年の第91回アカデミー賞というアメリカ合衆国映画の最高賞の最高作品賞は、イギリスのスーパーロックバンドの「クイーン」メインボーカリストであるフレディ・マーキュリーの一生を描いた映画でした。そういうこともあって、最近の日本ではクイーンの曲がよく流れていますよね。実はこの映画は「性的少数者の権利を守ろう」というもので、とても難しい映画です。フレディは日本にコンサートに来た時には、左腕に彼女を、右腕に彼氏である彼女を？伴って日本の土を踏みました。つまりLGBTのB＝バイセクシャルに属する人物なのです。ですから、LGBTに対する偏見をなくす必要があるという理由からも、クイーンの曲が流れていることもあるのです。LGBTも個性の一つであるという寛容な時代になったことは、人類の進歩にとってはとても好ましいことであると思いますし、あなたたちもそう思うようになってください。キリスト教保守派＝ドナルド・トランプさんを応援する保守的な「福音派キリスト教徒」は、このようなことを認めようとはしませんが、すべての個人を平等に尊敬するという、基本的人権に対する素直な考えに従うと、福音派は非人間的であるという批判が可能であるといえるでしょう。これに対して、同じキリスト教徒でも（アナ）バプテスト派（再）洗礼派のキリスト教徒はとても穏健なキリスト教徒だといえると思います。キリスト教にな

じみがない仏教徒やイスラム教徒から見た場合のことですが。

そんなことよりもあなたたちは、クイーンの曲である We Will Rock You や We Are The Champions や名曲 Bohemian Rhapsody (ボヘミアンラプソディ)などを聞いて音楽を楽しみましょう。

実この映画のヒットに触発されて、今度はビートルズのLPの「アビー・ロード」の出来上がる過程が映画化されるようです。お楽しみに。

## 072) 老人受難の時代と福祉国家への道

あなた達小学生や中学生や高校生だけでなく、お年寄りの人たちも、体が自由に動かなくなったことやその他のいろいろな理由で「家に引きこもってしまう」ことがあります。小中高生に対しては、普通の場合は、親や親せきや先生や役所の人たちが面倒を見てくれる可能性が高いでしょう。しかし引きこもりの老人たちは、食べるものなくなり、病気になって、一人寂しく死んでいきます。その数は相当数に上っているのが今の時代なのです。恐ろしい時代です。昔のお年寄りも、老後の人生を、それまで頑張った人生のお休み時間として、子供や孫たちと一緒にのんびりと楽しく暮らしていました。しかし今の時代は年寄りになるとなおさら生きることが困難な時代になっています。今や生きる場所も友達も面倒を見てくれる家族もそしてお金もない老人がとても多くなっています。何かがおかしいと思いませんか？

ですから今の時代は、父母や祖父母や地域の老人たちと子供たちが一緒になって「いったい何がおかしいのか」、「どうしてこのようなひどいことが起こるのか」「このような社会問題をみんなでどのように解決していくのが良いのか」などと皆で議論をする必要がある時代になっているのです。そうしないと、今の時代は「生まれることそのものが悲劇」になってしまうからです。

このような視点から、北歐三国やイギリスの「ゆりかごから墓場まで」という言葉に代表されるような「福祉国家」=アメリカ民主党の大統領候補であった「バーニー・サンダースさんが唱える社会主義国家」を目指すのが今の時代の好ましい姿であると言えるのではないのでしょうか。

## 073) 無責任な大人たち

大人たちは偉そうなことを言っている割には、とっってもいい加減で無責任なところがあります。最近では小中学校の先生たちの間でも、高校や大学生の部活でも、そして会社でもいじめが蔓延し、困っている人たちをほったらかしにするような出来事が毎日のように起こっています。

これが社会の芯の姿なのですから、これから本格的な「人生」が始めるあなた達も、大人たちに任せないで、早めに「自分を守る方法」それも「自分の夢や考え方を大切にしながら自分を守る方法」を考える必要があるのではないのでしょうか。

実に情けない時代になったものです。ですから館長は毎日嘆きながら(笑)「幸せになるための思考方法」や「ASSETS」を作成しているのです。(泣)。その作成の目的はただ一つです。それは「あなた達が強い人間になることを願って」いるのです。「真実を知る方法」「このホームページ」「幸せになるための思考方法」「ASSETS」などすべての色々な手段の目的は一つなのです。

加えて、こんな時代になってしまったのは、多くの人たちが雑誌やテレビやネット情報を信じ、自分から何かを求めて行動しないからなのです。しっかりと「自分を守ってくれる真実」を探すのです。本当に信頼できる人物や情報を求めるのです。とても困難なことだと思いますが、最も信頼するに足る情報源は「書物」だと思います。そ個から得た「知識」は決してあなたたちを裏切りません。良書を懸命に伝え続けている志成館を信じて、実りの多い人生を実現してください

## 074) 両親の離婚という信じられない出来事と同氏同籍復氏復籍の問題点

子供たちにとって、お父さんやお母さんが離婚するなどということは、理解不可能な許せない行いに思えます。そしてそのような時に、お父さんやお母さんの苗字が変わってしまうことにも、信じられないことのように思うはずで

まずもって離婚の問題に関しての一つの見解を示します。それは血がつながってようがいが、親であろうが子供であろうが、男であれ女であれ、お金があろうとなかろうと、勉強ができようが出来まいが、すべての「人間」は同じ価値を有する、平等で、自由な、あくまでも別個の個人であるということ、遠慮ない言葉で表現するなら「他人である」ということなのです。わかっていただけますか？ 例えばあなた達が親に反抗するのは、実はあなたと両親には血のつながりがあるといっても、基本的には「別の人格」だということです。もちろん親子や兄弟は仲が良いに越したことはありませんが、仲が悪くても別におかしくもなんともないのです。みんながそれぞれ同じように尊重されるべきだからです。(このような考えを「すべての個人を平等に尊敬する真の意味の人権感覚」といいます。西洋文明に起源を発する考えであり、まだ子供たちには早すぎるということはわかっていますので、このような意見は無視してもかまいません。)

しかしもし「すべての人間が同じように自由と人権を有する」ということの本当の意味が分かるようになったら、「男も女も、親も子供も別の人格なのだから、離婚も結婚も自由であり、苗字についても好きな苗字を使ってよい」という考えが普通の事として理解できるようになるでしょう。

実は40年前に法律の勉強をしていた森の憲法や民法のどの法律書にも「夫婦別姓を認めるべきである」と書いてありました。つまり同氏同籍、復氏復籍(結婚すれば同じ苗字を使わねばならず、離婚すると元の苗字に一方だけが戻すという今の民法の規定)には、人権の尊重という面からおおいに問題があるのです。

夫婦別姓がまだ実現していないのですから、学問の世界での常識と、現実の世界の常識とは大きなずれがあることがわかります。このことが今回で知ってほしいことなのです。

これから先、あなた達も、大学というより進んだ学問の場で、一層深い勉強をして、より人権感覚がわかる大人になって、すべての人に対して、自分の考えを押し付けることがない、真に思いやりがある人間になってください。

## 075) 福島県近海の放射能による海水の汚染という事実は世界の常識

厳しい現実なのですが、「韓国が日本の東北地方で撮れた魚の輸入を、放射能が含まれていることを理由に、輸入を禁止することは禁止することは許される」という結論を、オランダのハーグにある国際連合の下部組織である「国際司法裁判所」が判決で認めました。

この判決の表現をわかりやすく説明すると次のようになります。日本国政府は外国に対して、日本で撮れた魚を輸入して食べなさいと言っているが、「日本近海、とりわけ太平洋沿岸の東北地方では、まだ海水が放射能に汚染されており、従って魚にも放射能が付着しており、そのことを理由に、韓国の国民を守るために、日本からの魚の輸入を禁止することは、国際法的に、許される」ということになります。この判決を裏返しに言えば、「日本政府は日本の魚が安全であるという嘘をついて、国民にまだ被曝している魚を食べさせている」ということになります。こんなことを言うとひどい人間であると批判されるかもしれませんが、館長である森は「教え子であるあなたたちが、将来甲状腺がんなどの癌に罹らないように、少しでも放射能による被曝を受けないように、このWTO(世界貿易機関)の判断を尊重すべきだ」と考えているのです。

私は「東北の漁業の人たちが困らないように、地震の発生地の近くでとれた魚を食べてあげようという、思いやりがある優しい子供たちが大好きで尊敬もしています。だからこそなおさらこのような素敵な子供たちを被ばくさせてはならないと思って、厳しい判断をしているのです。

## 076) 中学生の制服の選択制

福岡県粕屋郡の中学に就いて、福岡市でも中学生の制服が選択制に変わります。私からすれば「ようやく決まったか」と言えるくらいにあまりにも遅い出来事になります。というのも、現在の日本の男子用の詰襟の制服は、日本帝国軍人の「陸軍の軍服」がお手本であり、他方で女性用のセーラー服は、その名前のとおり、「アメリカ合衆国軍人の水兵の軍服」がお手本で、どちらも「軍国主義の時代の象徴」なのです。平和憲法をもつ日本にはふさわしくないだけでなく、セーラー服は着にくいし、脱ぎにくいし、詰襟は首に傷がつくほど窮屈なのです。いつも下を向いて本を読んでいた私のような勉強人間には、あまりにも不都合な制服でした。平和な時代にはどちらも平和国家にはふさわしくない制服なのです。もちろん利便さや男女を平等に尊重するという視点からも好ましくない服装だとも言えるでしょう。ただし、詰襟を着ていると、下着が隠れますので、冬の寒い時には、パジャマの上に制服を着ていてもばれません。私も一度試したことがあります(笑)。福岡高校の時の同級生は、いつもパジャマを制服の下に着ていました。京都大学を目指していた秀才でした。

ちなみに「セーラー服」を日本で初めて着用したのは福岡市にある「福岡女学院高校」であるということは、雑学として知っておいてください。私の昔の彼女の一人は、福岡女学院大学の学生でした(笑)。だから知っているのです。

## 077) 記念日

今日5月15日は歴史上何の日か覚えていますか?そうです、1932年に5・15事件が起こった日です。当時の犬養毅(いぬかいつよし)首相が右翼軍国主義者の若者達によって暗殺された日なのです。この出来事によって大正デモクラシーの時代から続く戦前の「政党政治」が終わりました。そして、日本の軍人による軍事独裁政権は1936年の2・26事件によって加速していきます。

これに先立つ1931年には満州事変、そして2・26事件の翌年1937年から始まる日中戦争と続きます。そして1941年12月8日に真珠湾攻撃をすると同時に太平洋戦争(第二次世界大戦の中のアジア戦線)が始まります。半年後1942年6月5日のミッドウェー海戦での大敗北をはじめとして以降、連戦連敗を重ね、1942年4月になると日本中の諸都市が焼夷弾による爆撃受けはじめ、1945年3月10日の東京大空襲を含めて2040万発もの焼夷弾が投下されこれによる死者は30万人を超え、3月26日以降3か月続いた沖縄戦(6月23日に終了)8月6日の広島への原子爆弾投下、8月9日の長崎への原子爆弾投下、そして8月14日のポツダム宣言の受諾へと悲惨な事件が続いていきます。

日本国内だけではなく、アジアの各地の戦線で戦死したり負傷した兵士たちや一般人、そこでは日本人だけでなく、日本から攻撃を受けて死んでいたり負傷した他国の人たちを弔うという意味で、私たちすべての日本人は、加害者としてまた被害者として、上掲の「悲しい記念日」は日本国民の義務として、いつも心の中に秘めておく責任があると思います。

ポツダム宣言の受諾で独立を失った日本は、戦後の1951年の「サンフランシスコ平和条約」でGHQに支配された日本が独立を取り戻します。この時同時に「日米安全保障条約」を結ばされ、西側の軍事グループの一員として、発展を続けていきます。この間1956年の「日ソ共同宣言」により国際連合の一員となり、高度経済成長を迎えるのです。1965年には「日韓基本条約」が結ばれて、形の上では日本と韓国の第二次世界大戦の戦後補償は終わりをつげ、世界の政治の流れの中でアメリカ合衆国の植民地であった沖縄(県)は1972年の「日中共同宣言」の後の5月15日に独立を取り戻すこととなります。日本と中国の戦後処理は1978年の「日中平和友好条約」によっておわることとなります。

この過程の中で、勤勉な日本人は働き続け、富を蓄積していくのですが、世界の国がアメリカより豊かにな

ること、そして民主主義国家になることを「絶対に」許さない世界の支配者であるアメリカは、まさしく戦前のような経済制裁を日本に加え続けます。「日本 AS NO1 (世界一の国日本)」は1985年以降のアメリカによる(アメリカの国家全体の組織的な政策なのですが)プラザ合意をはじめとした一連の経済政策や、雨に家の新自由主義による洗脳を受けた高級官僚や政治家やメディアによる「民営化」により多くの富を失い始め、先進国の割には「豊かさ」や「ゆとり」がない、今の2020年を迎えているのです。(この部分につきましては、チョムスキー博士などの、アメリカの第二次世界大戦以降の政策にかかわる書籍で確認してください。)

## 078) 旅行をしていて貧しい国と感じたところ

これまでいくつかの場所を旅行してきました。日本は47のすべての都道府県を回っていますが、世界はほんの少しだけ言っていない。時間もないしお金もありません。その少ない経験で感じたことなのですが、私はツアーガイドにとっては困った旅行者なのです。ガイドさんの指示にもかかわらず、少しでも時間があれば、走ってでも、そのコースから外れてわざと普通の区他紙をしている人たちがいるところに行き、観光ではない、本当のその地域の人の生活を見ようとするからです。もちろん危険な目にあったこともあります。しかし逆に本当の人たちの生活が見えて、そしてどこの国の人たちも思いやりにあふれ優しいことを知って、いつも満足して旅から帰ってきています。以下はその上での見解です。

沖縄県は今も日本で最も貧しい県です。貧しいばかりではなく「仕事をするような産業自体がない」のです。それもこれもアメリカ軍の基地があるからなのですが、このような悲劇的な状況にもかかわらず、日本政府はまともなことをしないでだけでなく、更に基地を増やそうとしているのですからあきれ果てます。皆さんはどのように思いますか沖縄の人と同じ日本国民なのです。

キング牧師ではありませんが、「私には夢があります」。それは沖縄の島々が、基地が一つもない平和な島になり、日本人、中国人、ヨーロッパ人、ロシア人、東南アジアの人たち、インド人、中東のイスラムの人たち、アフリカそして最後にアメリカ人たちが自由に行きかう平和な島であること、そしてサンゴ礁と済んだ海でみんなが遊べる世界屈指の観光島になる」というものです。このホームページを見ている方がおられましたら、どなたか近い将来に私の夢を実現していただきますようお願いいたします。

韓国は楽しいところで、何度行っても飽きることはないように思えます。いつも韓国に行く計画を立てているのですが、安倍総理の韓国を馬鹿にしたような政策(これもアメリカに強制されている部分があるのですが)の結果、とても行きづらくなっています。韓国は今でもとっても貧しい国です。食べ物もおいしいのですが、よく考えてみると食材がまずいのです。服などの雑貨も品質の面で日本のものとは大きく劣っています。それでも私が韓国に行きたくなるのは、50年ほど前の日本の福岡市の猥雑な雰囲気を感じることができるからです。同じように大阪市の十三地区は今でも50年前の福岡市の雰囲気を残していますので大好きな街です。「猥雑さの中にこそ人間の本当の温かい心が見えるから」です。澄ました都会人には、庶民の生活の素晴らしさが理解できないのでしょう。

中国は最近繁栄を誇っているように見えます。「爆買い」に多くの人たちが日本を訪れるからそのように見えるのでしょう。しかしその人たちが何を飼っているかを調べてみれば、現在の中国はまだとても貧しいことは、容易にわからずです。一部の、アメリカや日本よりも強欲な(笑)資本家が、人口が多いことを利用して、ある意味では稚拙なないしは詐欺的な商売をして、大金持ちになっているケースも少なくはないのです。その人たちは多くの貧しい中国国民から搾取(さくしゅ=企業家が労働者の労働で得た対価すなわち賃金の一部をかすめ取ることを意味する言葉です。これはマルクスの資本論の核心部分なのですが、これを防いですべての労働者に働いた分にふさわしい賃金を与えること、これこそ中華人民共和国が達成しようとする国家目的なのですが)をして莫大な利益を得ているわけですので、一般の人たちはまだとても貧しいのです。観光名所から



少し外れて中国の普通の人たちの姿が見えるような旅行をしませんか。貧しいごく普通の人たちが、私たち豊かな日本人観光者姿を見るとき目の鋭さに気が付くでしょう。とはいっても、ファーウェイを筆頭とする中国の先端の大企業は、優秀な若い人材を世界中から集めて、必死に技術革新を遂げ、アメリカや日本に追いつけ追い越せという努力をしていますので、そう遠くない日に、ごく普通の中国の人たちが、私たち日本人に劣らない生活になっていくでしょう。欧・米・日にいじめられ続けて150年、私は中国が経済的に発展すること、そしてより民主主義的（といっても欧米流の皆さんが考える今の民主主義ではなく、**社会主義的な国家として望ましい形での民主主義**、それは200年ほど前にフランス人がイメージしたものなのですが、）そのような国家ができる日を待ち望んでいます。（もちろんアメリカ合衆国は中国が発展することに対してはあらゆる妨害をし続けるでしょう）私のこのところの文章内容は、多くの日本人には理解できないと思います。しかし習近平指導部は私の考えが理解できるはずで、この部分は**矢吹晋**さんの「**習近平の夢**」を読んでください。

## 079) 国会議員の質の低下は国民の質の低下に比例する

国会議員の失言や非行が止まりません。今回は大阪維新の会の議員が「ロシアと戦争するしかない」という発言をしました。今の時代では戦争イコール人類の消滅ということさえ理解できていないのですから驚きです。大半の失敗議員は自民党などの現在の政権を担当している人たちであり、人間は権力を握るとこんなに傲慢（ごうまん）になるのだという悪いお手本を示しています。しかし悪いのは彼ら国会議員だけではなく、このような無知で無責任な人間に票を入れて国会議員に当選させた国民にも責任があることを忘れないでください。「政治のことは中学生には早すぎる」という大人たちも同じく傲慢な人間であり、無責任な人たちだと判断してください。なぜだかわかりますか？ そうなのです、あなたたちの未来を決めているのは今の国会議員であること、そして中学3年生はもうあと3年で選挙権を獲得し、自分の意思で日本の政治にかかわっていかなくてはならないのですから。グレッタさんが叫んでいるように、大人たちを信じていては、あなたたちの未来は守れないのです。

## 080) 日本のメディアは崩壊した

**安倍総理大臣は、日本国憲法の平和主義を無視して、こっそりと海外に自衛隊員を派遣しています。**館長の私が「安倍総理がひどい独裁者で、憲法を蹂躪することを何とも思っていない指導者である」と言う理由がわかっただけなら有り難いです。**この記事は今週のNEWSWEEKからの記事なのです。**それにも関わらず、日本のテレビも新聞もこのような記事は載せないし、放送もしないのです。**第二次世界大戦前の日本の姿と同じであることを早く理解してください。家族みんなで話し合っ**て。「**権力を監視し批判すること**」が使命である新聞やテレビメディアが、**権力の横暴を応援しているのですから呆（あき）れ果ててしまいます。**このようなことが続けばどうなるかは歴史の教科書に載っている通りです。再び日本は破滅を迎えるでしょう。歴史の真実を学び、現在を正しく読み取ってください。

## 081) アイドルはお金儲けのプロダクションの操り人形でしかない

**ビジュアル系の男子グループの一つである「嵐」**が近いうちに解散します。現在「**関ジャニ**」のすばる君も関ジャニを脱退してアメリカでの音楽の学習を目指しているそうです。そうなのです、アイドルグループやタレントは意外と中身がない人生なのです。応援している人たちも移り気で、本当に生活を支えてくれているわけではないのです。「**芸能人**」という商売は、厳しく寂しい商売なのです、見た目の華やかさと違ってね。

他方で、ごく普通の生活をしながら受験勉強で頑張っている人たちは、40歳くらい以上になって、多くの企業では、会社での地位も上がり、月給も増え、会社の大きな力や財産を使っているいろいろな冒険や大仕事が出来、理想が実現できる年齢となります。つまり、実業の世界では、40歳からが本当に楽しい人生が始まるのです。他方でスポーツマンや芸能人はこのころから落ち目になるのです。ひどい表現で申し訳ないのですが、これが真実なのです。さて君たちは長い将来の設計をどのようにしますか？

若い時に勉強を怠けて楽しむか、長い人生を見通して今を頑張るのか？

## 082) 止まらない地球環境破壊

世界中の「海」も「川」も「土」も「空気」もめちゃくちゃに汚染されています。館長の世代は、汚染される前の、**きれいな海**（・・・例えば和臼中の近くの海はとっても美しかったし博多湾にはエビや貝や海苔がたくさんいました）**きれいな川**（・・・例えば古賀東中の大根川の上流ではきれいな淡水の川で泳ぐこともできました）**優しい土**（・・・館長は現在家がたくさん立っている志成館の近くの田んぼで泥まみれになってはだして遊んだり、田んぼに植えてあるれんげ畑で学校の帰りに友達と相撲をして遊んでいました）**きれいな空**（九州大学があった箱崎地区では美しい空は見えませんでした。新宮町三代の自宅に帰ってバスから降りると、空には光り輝く星空が見えました・・・花粉症やPM2.5等考えられない時代でした）に満ち溢れていました。今でもいつも当時を思い出します。地球を汚したのは館長たちの世代であり、責任は館長たちの世代にあります。大変申し訳ないといつも感じています。館長が**タケノコ**を配り、**干し柿**をつるし、**みかん**を食べてもらうように頑張っているのは、実はあなたたちに対するお詫びが本当の理由であり、同時に自然のすばらしさをわかってもらうためなのです。あなた達の世代はこの汚れてしまった地球をもとに戻さなければなりません。大変厳しい戦いになるでしょうが、頑張ってください。世界中の友達と協力し合って。

## 083) 無責任さを具現化したような愚かな言葉を使わないように

「ほほほほそうだと思います」「～だそうですね、**知らんけど**～」などという言葉が使われることがよくあります。特に若い世代に多いです。やはり言葉なのでいずれはなくなるでしょうが、この類（たぐい＝種類の事）の言葉は、自分が言ったことの責任を逃れるための、巧妙で、きわめて無責任な言葉になります。ですからあなたがこのような言葉を使うということは、自分から進んで「自分は無責任な人間なので、信用しないほうがいいですよ」と宣伝していることになるのです。もっときちんとした言葉を使うことによって、他の人から信用される人間になってください。これは「毎日新聞」からのメッセージ記事です。

## 084) 危険が膨らむ2019年夏そして2020年現在の世界情勢

2019年6月の現在、世界中が混沌（こんとん：混乱した様子）とした状況になっています。ドナルド・トランプ大統領の登場により、世界経済は混乱を極め、見通しが立たなくなっています。加えてアメリカによる反中国の政策が中国とロシアの結束を強めており、再び旧ソ連が崩壊する前の**新冷戦時代**を感じさせる時代になっています。**2020年の8月の時点**では、**(1)** アメリカによる封じ込めで苦しむロシアと、イラクやシリアをめぐるアメリカの占領政策と経済政策で苦しむイラン、そしてあからさまな経済攻撃をする中華人民共和国の3カ国を軸として、アフリカなどアメリカに破壊されている国々の連携によるグループと、アメリカや日本やEUの一部の国というグループとの対立が緊迫しており、第3次世界大戦＝人類の破滅が近づいていることが懸念されます。**(2)** 他方では、北極やグリーンランドや南極の氷山の融解、シベリアの根雪の融解、そ

して空気の汚染や地球温暖化、加えて世界中の人々の生活を支えるプラスチックのごみ（＝主にペットボトルやビニールの買い物した時にもらう袋など）が人類に多大な悪影響をもたらすことが、ようやく（まじめな科学者はずっと昔からプラスチックごみは人体にとっても危険であると言っていたのです）世界中で公表され始めており、このことが現在のあなた達の生活の在り方を一変させる可能性が生じています。

このような時代をどう生き抜くか。それはあなた達次第です。館長が希望を持って授業中に話しているように、**実は世界中のあなたたち若い世代が「人類を守る」ために声を上げ始めているのです。**今回の情報は、**TIME**と**毎日新聞**の記事に基づくものです。あなた達もこのような知識を手に入れて、世界の若い世代と連帯して、共に協力し合うことによって、平和と環境、つまり「あなたたちの未来」を、「自分たちの力」によって守っていかなければならないのです。

## 085) ギネスに載った「通りもん」

博多の銘菓である名月堂の「通りもん」がギネスに載りました。たまたまこれより少し前に、**名月堂の社長の秋丸真一さん**の講話を聞く機会がありました。名月堂の商売はなかなかうまくいかず、自分は東京のコンピューター会社に勤めていたのだが、3年ほどかけて開発した「通りもん」の人气がよさそうなので、「博多の自宅に帰ってきて、あとを継がないか」とお父さんに進められて父の仕事を手伝っていたのであるが、信じられないほどの販売実績を上げ続け、ギネスブックに載るまでの、毎日数十万個の大量の販売実績を誇るお菓子の会社になったそうです。

秋丸社長の話では①和でもあり、洋でもある、全く新しいタイプのお菓子の開発ができたこと②日本中のどこでも販売しないで、博多の銘菓として、福岡市内でのみ販売することで、ブランドの価値を高めていったということでした。将来パン屋さんやケーキ屋さんをしようと思っている人は参考にしてください。(笑)。

昨年にお父さんがなくなられて、今は真一さんが社長さんであり最高責任者なので、最近ではテレビなどで見かけることも多いと思います。ただ、まだ会社の経営者というよりは、コンピューターの技師みたいな外見が見受けられるところが、ある意味では彼の苦勞を物語っているようだと思個人的には考えています。いずれはもっと太って、堂々とした社長さんの体形と表情になると思うのですが。(笑)。

## 086) 「ハラール」と「ハラーム」

ある民間の奉仕団体に20年間以上も所属し続けている館長は、当番が回ってきて(笑) **エジプトから日本の九州大学工学部の大学院に留学されている、女性のお世話をすることになりました。**エジプトの人の多くはイスラム教徒であり、主な言葉はアラビア語です。エジプトの言葉は、イギリスの植民地時代が長いので公用語は英語だと思っていましたが、普通の人を使う言葉は「アラビア語」が多いそうです。アラビア語はとても難しいので、学ぼうという気持ちは起きませんでしたので、困ったときには「ポケトーク」などでごまかそうと思っています。食事も**ハラール(生き物を苦しめて食卓に並んでいるものは食べないというイスラム教の戒律)**なので気を遣うこともありますが、福岡のそれなりの大きなホテルではどこでも「ハラール」の対応をしていますので、心配はありません(笑)。ちなみに、食べることが禁止されているのは「ハラーム」なのですが、これは、「肉など一切が禁じられるわけではなく、生き物を苦しめて殺した食材を使って料理し、食べることは許されない」という考えに根差しています。イスラム教については、コーランの和訳を読んだり、政治経済の歴史の学習を通じて私はとても詳しく学び、歴史についてはイスラム諸国などを公平な目で見ることができると思っているのですが、その私の知識どおり、イスラム教の人たちはとても優しく、まじめで、ある意味では日本人と似たところが多いように思えます。(参考までにおすすめの本は「**イスラムの怒り**」にしておきます)

実は5年以上前にも、九大の理学部の大学院で学ばれていた**バングラデシュ**の男の人の面倒も見たことがあ

るのですが、なにをとっても日本人の若者のほうが負けているように感じました（泣）。

ソラリアホテルでのパーティの時の、日本人用の食事のメニューと、ハラルの食事のメニューを、このホームページのどこかに張り付けておきますので、参考になさってください。

## 087) 新聞を読むことの効用

館長はいつも毎日新聞と西日本新聞に目を通しているのですが、いつものように「わずか1日の新聞の記事だけでも、あなた達にとって貴重な記事や面白い記事が、こんなにたくさんあるのですよ!!」ということ懸命に伝える活動をしているのです。

最近の人たちは新聞を読まなくなりました、大人も子供も。ネットで必要な情報が手に入ることと、購読費用も高いことなどが大きな原因で、どこの新聞配達の経営者もとても嘆いておられます。新聞を読むことの効用を二つ指摘しますので、生涯忘れないでください。

**01)** 一つ目は、人間は、自分が興味を持てに事や自分が全く知らないことに接しないと、成長はしないということです。人物が大きくなるのは、それまでの自分になかったことを身に付けることなのです。授業中も、自分が必要ないと判断した授業は聞かないで、勝手な学習をしている人たちがしばしば見受けられますが、そのような人たちが本当の学力が身につかないということと同じことになります。

**02)** 二つ目には、スマートフォンやテレビなどのネットやメディアの情報は、必ずしも信用することが出来ないが、新聞はまだまだ信じられることが多いということです。館長がよく言うように、新聞も信じられないような嘘を書きます。しかしあなた達はとりあえず、新聞や書籍に代表される「紙＝活字」メディアを信じるしかないのです。その前提として、まずは日本語が読めて、ある程度の難解なカタカナ文字の意味が分かるようになるために、まずは日本語の教科書をしっかりと学び、英語の学習でしっかりと英単語の意味を学ぶことです。中学校の教科書はあなた達が大好きであなた達を尊敬しておられる優秀な高校の先生を中心にして作られています。高校の教科書や参考書は、優秀な大学の先生たちが討論を重ねて作られています。ですから、まず教科書をしっかりと読んで語学や常識に属する知識を固め、その次に新聞等の信頼できる紙＝活字のメディアを読み、そして大学以降は、お金儲けよりも、人類すべての繁栄と存続のために尽力されている、真の学者の「著作物」を読み、「真実を見つける目」を身に付けるのです。そうすれば、あなたが身に付けた知識が、一生を通じて、あなたを守ってくれるのです。

各所で記述していますように、志成館のこのホームページやASSETSはすべてこのような「紙＝活字メディアを通じて真実を知ろう」という目的に奉仕するためのものなのです。

## 088) アメリカ合衆国と中国の世界を巻き込んだ経済戦争

アメリカ合衆国と中華人民共和国が「経済戦争」の状態となっています。（詳しく知りたい人は、館長が2019年3月に作成した文書がありますので、希望者には差し上げます。あなた達にはとても難解ですが、よくできた文章です(笑)。後日、ホームページのどこかに、2020年の秋までには再校正を済ませて、アップしようと思っていますのでおたのしみに。）以下、わかりやすくそして手短かに要点だけをします。

第二次世界大戦以降の「資本主義経済システム」の中で、軍事量や資金力や技術力を誇り、国家間競争で優位に立ち続けたアメリカ国家（そのものそしてアメリカ合衆国を支配する企業群）は、あまりにもお金儲けに執着したために、いつの間にか中国（の企業）に技術を盗まれ、今後の世界での経済競争に負けそうになったので、中国に対して「盗んだ技術を返せ」と脅しているということが米中の争いの本質なのです。

実際のところ中国企業であるファーウェイの特許件数はとても多く、例えば今後の世界を支配するコンピューター・システムである「5G」に関しては、アメリカ合衆国は完全に後れを取っており、慌てふためいたド

ナルド・トランプさんが中国を脅しているのです。このことについてはNEWSWEEKにわかりやすい表が掲載されていますので、実体はそれらで把握してください。中国だけではなく、お隣の韓国のサムスンの技術力を加えると、今後の社会は中国や韓国が中心になるとも考えられるのです。

このような状況の中で、これまで世界を支配し、今後も世界を支配し続けようとするアメリカ合衆国は、軍事や政治そして経済的な同盟国である日本やEU諸国（いわゆるアメリカの同盟国という名前のアメリカの属国）を脅して、中国や韓国のサムスンが自由に活動できないように、「禁輸措置」をさせて、アメリカ合衆国に協力させようとしているのが現在の日中や日韓関係の本質的部分になります。

現在の日本をめぐる喫緊の問題として、あなた達に教えないということは許されないと思い、いくつかの記事をASSETSなどに張り付けておきますが、あなた達にとって、これらの問題は複雑で、世界の軍事や経済の歴史をしっかりと勉強していないと、誤った意見を持つことになり、結果として日本の将来の平和や経済が不安定になることに協力する事態になりますので、時間をかけて勉強を重ねて、真実を理解してください。

## 089) イスラム教徒をテロリストと呼ぶのならアメリカは極悪国家である

イスラム教徒は危険であるという人たちが世界中にたくさんいます。しかしこれはアメリカという国家が世界中に流している「デマ」「嘘」「でっち上げ」であり、イスラム教は素晴らしい宗教であり、イスラム教徒も素晴らしい民（たみ）であることを、イスラム国家も立派な国家です。志成館の館長の森は確信をもって宣言します。

コーランをはじめ、イスラムと西アジアについての森の苦労を重ねた長い間の学習で身に付けた結論です。実は世界の知識人はみんなそのことがわかっています。その証拠として、最近のNEWSWEEKに掲載された写真をASSETSで紹介しました。フランスのノートルダム寺院(キリスト教の教会)の火災を目(ま)の当たりにして、キリスト教会とフランスのキリスト教徒の安全を祈る、イスラム教徒の写真です。イスラム教徒はノートルダム寺院の再建に最大限の協力をすると宣言しているのです。

また、人類史で最も大切である「ルネサンス」運動が起こったのは、アラビア諸国家の寛大さが、ギリシャやローマの知的そして美的な遺産を守り続けてきたからなのです。

2020年9月に以下を追加します。今の中東の紛争地を鳥瞰してみてください、そのほとんどが、旧オスマントルコ帝国に属しているということがわかります。つまり、いろいろな問題があったにせよ、「オスマントルコ帝国」内では、現在のような悲惨な紛争は発生してはいなかったということ、第1次世界大戦を通じてオスマントルコが崩壊して、強欲なカルバン派のプロテスタント国家である、フランスとイギリスが「サイクス・ピコ協定」や「バルフォア宣言」などで中東にかかわるようになってから100年、この地域での紛争がなくなることはなかった、という事実をしっかりと確認してください。私はすでにいくつもの本でこの事情を理解していました。皆さんには是非、現在放送されている2020年のテレビの「放送大学（これは何度も再放送されます）」の中で、中東問題の専門家の高橋和夫先生がわかりやすく講義をされていますので、是非ともそれをご覧になって、真実を議理解なさってください。

アメリカの指導者やキリスト教徒がイスラム教を嫌う理由には大きく二つあると思います。

- ① 一つは、真のイスラム教徒は優しすぎて、たとえ自分が貧しくても、目の前に困っている人がいたら助けるべきであるという、貧しい人たちは助け合うものであるという考えが根底にあり、ある意味では私有財産制度を乗り越えようとする共産主義的な互助の精神を持っているから富裕層には危険思想に思えるからです。アメリカは自由の国であると偉そうに威張って宣言していますが、実体は強欲な資本主義国であり、ブルジョワ民主主義国家であり、アメリカで言うところの「自由」の意味は「お金持ち」が気ままにふるまい、贅沢をするのを許す、プロテスタントのうちのカルバン派が建国した国らしい、あまりにも非人間的な自由なのであり、その結果として、貧しい人たちと富や財産を分かち合おうという共存共栄の考えが許せないのです。

- ② もう一つは、イスラム教の聖典である「コーラン」は、旧約聖書を通じてキリスト教の聖典と根っこは同じなのですが、イエス・キリストさんよりも、ムハンマドさんの方が偉い（というか心が大きな指導者である）という核心部分があるために、イエス・キリストを尊重しないで生意気なことを信じているイスラム教徒は許せないみたいなのです。

## 090) アフリカや西アジアの難民の問題

北アフリカや西アジアから多くの難民がヨーロッパ＝EU諸国に流れ込んでいます。このような状況下で、各国政府は一定限度の難民しか受け入れていません。地中海でおぼれ死んでいく難民を、いたたまれずに助けそしてその人たちが生き延びるために行動する人々を、国家に対する「犯罪者」として罰金を課したり刑務所に入れたりしています。そのような流れの中で、南フランスの農民の1人が「フランス政府の難民を痛めつけるような政策は許せない」「フランス国旗の3色は、自由と平等と友愛を示すものであり、国家としての誇りや信念を否定するような政策はフランス憲法違反である」という考えをもとに、一方では国家＝司法＝裁判所と戦い、他方では自分ではできる限りの難民を受け入れる努力をしている、とても立派な人物がいるという記事が毎日新聞に掲載されていました。

いかがですか、このような人物がこの地球上にまだたくさんいるのです。多くの普通の人間たちは、ふつうは自分の利益だけを考えて行動します。しかしまだ地球上にはこのような誇り高い人間がいるのです。そして彼の主張は、1789年当時の、誇り高く、情熱にあふれ、他者への思いやりに満ちた「愛ある国民の国」であるはずのフランスが、このような難民たちをほごしないだけでなく、他国へ追い出そうなどということは、断じて許されない」というものです。まさしくフランス革命当時のフランス人の気持ちを取り戻すようにと、国家を相手に戦っておられるのです。

館長はこのような人たちこそが「真に誇り高い自由の国フランス」の国民であると尊敬しています。まさしくトリコロール（フランスの三色旗）にふさわしい行動であると思うのです。あなた達もこのような、勇敢で大胆なことをなさいななどとは言いませんが、せめてこの人の本当に優しい思いやりの心と勇気だけは理解してあげてください。フランス革命当時には国民は主権者ではありませんでした。そのために暴力革命が必要でした。その当時の殺伐とした状況や、フランス国民の強い情熱は、「フランス国歌」の歌詞を見ればすぐにわかります。日本とは異なり、多くの国の国歌は、「革命の歌」なのです。しかし今は先進国のどこでも、「国民が主権者」であり、国民が望むのならどのような指導者も選べるのです。中3で習う「公民」をしっかり勉強をして、投票を通じて、誇りある立派な指導者を選んでください。

## 091) 芸能プロダクションや日本全体にはびこる徒弟制度的なもの

最近、吉本興業という、関西の娯楽提供会社と、その配下にある個々の芸人との間のトラブルがテレビや週刊誌取り合出られています。また、芸能プロダクションであるジャニーズ事務所も、同じように、経営者側と個々のタレントたちとの間のトラブルも報じられています。後者については、スマップという人気グループが、経営者側と待遇問題などで仲間割れして、解散することになったことはご存知だと思います。

週刊誌を読んだり、芸能記事に興味を持ったりしていると、「先生のくせに」とか、「館長も俗っぽいね」と批判されることはわかっていますが、あなた達はこのようなことをきっかけに、社会の厳しさや危険さを知り始めるのもよいだろうと思って文章にしました。

芸能界は、日本の昔からの仕組みであるとともに今も続く「徒弟制度（とていせいど）」つまり「親分子分」の関係があって、たとえ不満があっても子分は親分の要求には絶対服従しなめればならない「そうしない限り「技術を教えたり、ダンスや歌の指導鵜をしたり、テレビに出させたり、よい給料を出すことはない」という古い

社会なのです。やくざ社会がその典型であるのですが、このことは大学の指導教授と弟子たちの関係、自民党の長老と若い政治家の関係、同族会社や非民主的なボスが経営する会社と従業員の関係、さらには最近問題となっている体育会系の指導者と個々のスポーツ選手もやくざ社会とあまり変わらないところが多いのです(泣)。このような仕組みは、「儒教」の影響によるところが多いので、日本や中国のような儒教国家は、このような儒教思想の、「個々の個人の尊厳を認めようとしない発想」を乗り越えなければなりません。私個人は早くからそのことに気が付いており、できるだけ儒教的な発想をしないように生きてきましたが、個々人の問題としてではなく、国家や社会全体の風潮を、近代の「個人尊重主義的」に変えるには、まだこの国には、相当の時間とエネルギーが要求されると思います。

いずれにしても、「自分を守るため」に、この文書の語る内容については、できるだけ早くから知っておいてください。純粋なやさしさと夢を持った若者たちが、このような世間の不条理の中でつぶされていくのは見るのはとってもつらいことなのです。あなたたちには自覚がないかもしれませんが、小中高生のあなたたちの世代はものすごく純粋で、思いやりに溢れるやさしい時代なのです。(ということは、人間は大人になるにつれて心が汚れていったり、無責任無関心を装って自分だけを守ろうとする欲深い愚かな人間になっていく傾向があるということです(泣))なぜあなたたちの多くが純粋であるかという、それは、あなたたちはまだ自分で生活費を稼いでおらず、お金の心配をしないで、自由な人間らしい発想ができていた世代だからなのです。

いつも言っているように、「社会の現実をしっかりと把握する」のです、そのうえで「そのような社会では自分はどういう立ち位置で人生を送るかをいつも考えなければならない」のです。そしてそのうえで、自分の夢と理想に向かって、一生戦い続けなければならないのです。

<同じ問題についての別の文章がありましたので貼り付けます>

最近テレビで「吉本興業」と「ジャニーズ事務所」の経営体質というかタレントや芸人に対する人権無視のひどいじめが長年続いていることがテレビや新聞や週刊誌を賑わせていることを知っていますか。この芸能界は、およそ「法治国家＝法の支配」という、近代国家の仕組みや基本的人権の尊重などの大前提が守られていない無法地帯なのです。「このような世界に決してあこがれないように」といつも話す気持ちを理解してください。「あなた達は今、コツコツ勉強し、自分自身の中に知識という力を蓄えて、自分の力で生きていけるように、人生の基礎固めをするとき」なのです。「他人に操られるような、奴隷制度のような芸能界さらには悪質な企業や組織に入ってはけませんよ」というメッセージを送っているのです。館長たちはずっと昔からこのような芸人やタレントいじめがあることは知っていました。だからこんなことも言っていたでしょう「大人たちには子供たちにいじめをするなど言う資格がある人間はたくさんはいない」と。

<同じ問題についてさらに別の文章がありましたので、これも貼り付けます>

実はある福岡の自民党幹部の方から教えてもらったことなのですが、自民党の世界も、この吉本興業と同じくらいひどいものだそうです。だから自民党には麻生さんのような傍若無人な政治家や豊田真由子さんや石崎徹さんのようなヤクザまがいの国会議員が次々に現れるのだと思います。(泣)。

## 092) 軽蔑されがちな大衆向けの週刊誌のほうがまともなメディアといえる

世界中で読まれている財界誌**フォーブス**の元アジア太平洋支局長の**ベンジャミン・フルフォード**さんは「表現の自由がない日本のメディアで信じられるのは大衆向けの週刊誌だけである」と述べられており、随分前に彼の書物に出会って以来、わたしは彼のいろいろな書物をホームページで紹介しています。

実際にも**週刊文春**などは「文春砲」と呼ばれるほど、確実な下調べをしてとても驚くような記事を載せており、これまでもいろいろな形で日本の政治に影響を与えてきているのです。このように良い面もありますがもちろん悪い面もありますが(笑)。

### 093) 平和な日本の批判的な精神を持たない凡人たち】

現在の日本人の多くは、環境問題や核戦争の問題や移民の問題などの世界の大切な情報に無関心であるだけでなく、自国のこともテレビや新聞任せで、本当のことを知ろうと努力したり考えようともしません。ある意味ではそれは「日本がとても平和である」ということの裏返しであり、悪いことではないともいえるでしょう。しかし現在はイランとアメリカの軍事的な危機が存在し、中国とアメリカは経済戦争を始めており、それがもとになって、日本と韓国の関係は大変なこととなっています。このようなことを知ろうとしない態度はあまりにも無責任ではないかと思いますがいかがでしょうか。

最近での大事件であるイラン沿岸のホルムズ湾でのタンカー攻撃の日にも、新聞記事には「大谷さんのホームラン」が中心を占めており、世界中のまじめなメディアから、「**一体日本はどうしてこのような愚かな国家になったのか**」という批判もなされているのです。もしアメリカがイランを攻撃すれば、一時はアメリカが圧勝するでしょう。しかしその後、キリスト教徒とイスラム教徒は更なる長い戦いの時代に突入し、人類は破滅を迎えるかもしれないと私は本気で考えています。

このホームページの各所に書いていたように、イスラム国家は危険な国家ではありません。アメリカやイギリスやフランスなどが150年以上もいじめるから貧困が続き、テロを起こす若者たちが生まれるのです。このことは中華人民共和国についても言えることなのです。イギリスをはじめとしてアメリカや日本に虐められてきたのが中華人民共和国であり、その間中華人民共和国はどこを攻撃したこともないのです。イランや中国を危険国家でありテロ国家であり敵性国家であると叫んでいるのは、アメリカだけなのです。EU諸国は中華人民共和国やイランなどの国歌の個々の政策についての批判はしていますが、アメリカのように国家そのものが危険であるとはみなしていないのです。他方で日本は何でも無法国家アメリカに言いなりで、あなたたち無意識のうちに洗脳されています。その洗脳状態を乗り越えることができるようになるまで、先入観を捨てて学ばなければなりません。それは大変なことです。

### 094) 戦争の親玉：MASTER OF WAR

「戦争の親玉」というのは、50年ほど前に、ノーベル文学賞を最近受賞、世界で一番有名で最大のシンガー&ソングライターの**ボブ・ディラン**の曲の名前です。当時はベトナム戦争真っ最中で、フォークソングを歌っていた私も、楽譜に載っていたので歌っていました。このような活動の部分こそがディランが**ノーベル文学賞**をもらった理由なのです。

それはさておいて、いったい誰が好んで戦争などを起こしているのでしょうか？ 答えは簡単です。それは戦争が起きること得をする人たちや企業なのです。このことに関して、「**アメリカのCIAが、これまで多くの国の政府の転覆を企画し、アメリカ合衆国の言いなりになる国家の形成を図ってきた事、そのためにどのような手段をとってきたかを説明する本が出ています。**」という書籍紹介が、NEWSWEEKに載っていました。

実は私はずっと前からこのような事実があることは知っていましたが、それをアメリカ人が公開し、なおかつそのことを世界中に読者がいるアメリカの週刊誌であるNEWSWEEKが記事にしていることにとっても驚いています。日本と異なり、やはりアメリカ合衆国はまだ「**表現の自由**」が確保されている限りにおいて**自由の国**なのかなあと感心しています。

実際のところアメリカ政府の極秘文書が公開されるようになった今日では、過去のアメリカの悪行の隠蔽（いんべい＝隠すこと）はもうできないこと、それならいっそ「**外国政府を転覆させるノウハウを公表して儲けてやろう**」という**アメリカの元CIAのスパイ局員がすべてを公表した**ということでしょう。

この記事から、現在の「**イランの危機**」をつくっているのが**アメリカのCIAを中心とする国家的な組織**であることが簡単にわかるかと思えます。「イランが日本のタンカーを攻撃した」これをもとに戦争を起こしてアメリカの



軍事企業が大儲けをする政策をはじめようとしているのでしょう。自分の国のお金儲けのためなら、西アジアの人たちの命への思いやりなど全くない国なのです。トランプさんやその支持者な「白人至上主義者」の醜い言葉や憎むべきテロを見れば、あなた達でも簡単に、アメリカ合衆国と言う国の強欲さがわかるはず。ちなみに現在の「ベネズエラの民主化という騒動」も「ウクライナの民主化という騒動」も「アフリカの春という北アフリカの民主化の騒動」も、更には「旧ソ連の解体」もすべてがアメリカのスパイ組織CIAがたくらんだのです。これらの国家は「民主化」というアメリカ主導の言葉に踊らされて、今では一層貧困な国家になり、シリアでは内戦が終息する様子が見えず、北アフリカでは「アフリカの春」とは程遠く、今日もテロが絶えないではありませんか。他方ではアメリカは湾岸戦争後に多くのイラクの石油の利権を手に入れ、北アフリカではリビアなどの石油の利権を手に入れており、ウクライナをロシア攻撃の基地にしているではありませんか。

※ 上記の私の記事は、いくつもの本に書かれていることをまとめたものです。決して私の独断ではありません。参考書籍は志成館のホームページの中の「館長の社会論」に列挙しています。とりあえずは2016年刊行のノーム・チョムスキー博士の「誰が世界を支配しているのか」を読んでください。これだけですべてが理解できるでしょう。

## 095) アメリカ合衆国への感謝の気持ちを持ち続ける私

私は、この志成館のホームページの各所で、何度もアメリカに対する批判を繰り返しています。しかし私はアメリカへの感謝を忘れたことはありません。私がこのような豊かな人生が送れたのはほかでもなく、アメリカが戦後の日本を導いてくれたからです。いうまでもなく、旧ソ連が日本を支配していたら、事情は大幅に変わっていただろうということは誰にでもわかることです。そのこともあって私は、多くの日本人がポンコツと認めている「アメ車」に20年以上乗っていますし、(ヒトラーのスポンサーであったベンツなどには乗らないという強い決意とあとは経済的な理由(笑)もあるのですが) 中学時代のパット・ブーンそして高校生の時のディランやジョニ・ミッチェルから、スプリングスティーンやビリー・ジョエル、ニール・ヤング、ボブ・シーガーなどアメリカで活躍する多くシンガーとの曲とともに人生を過ごしており、服も2020年には倒産してしまった「ブルックス・ブラザーズ」を愛用していたくらいなのです。

しかしそうであればこそ、つまりアメリカのおかげで自由に学習ができて、それなりに世界の真実の把握ができた以上、日本の存続はもちろんのこと、世界平和というアメリカの存続そのもののかかわることのために、つまり、アメリカへの恩返しのために、アメリカへの批判を繰り返し、アメリカが立ち直ることを願ってアメリカ合衆国批判を繰り返しているのです。俗っぽく言えば愛の鞭だということなのですが、私はアメリカという国家への敬意と、アメリカへの愛国心が自分の心の中にあると思っています。

## 096) Natural disaster (ナチュラル・ディザスター)

**Natural disaster (ナチュラル・ディザスター)** という英単語を覚えてください。「自然が引き起こす大災害」という意味です。Catastrophe (カタストロフィ) という言葉もありますが、これは修復できないほどの破壊を指しますのであまり使いたくない言葉です。現在世界中で多種多様な大災害が起っています。貧困や格差や戦争という世界的な問題と同じように、「世界」や「TIME」や「NEWSWEEK」のような世界を見つめる週刊誌ではいつも写真や記事が載っている、今の時代の喫緊(きっきん=とても時間がない事柄)の課題です。

いくつかの大災害は地球の持っている本質なので避けられないものがあります。噴火や地震などです。しかし地球温暖化などによる災害は、そもそもこれまでの地球上にはなかった災害なので、**man-made disaster (マン・メイド・ディザスター=人災)** といった方が正確な大災害と言うべきでしょう。大干ばつや大水害や大型ハリケーンなどは人災と呼ぶ方が妥当なのかもしれません。動植物の絶滅や大気汚染やプラスチックごみや海水汚染は明らかに人災です。地球上のディザスターを知りながら、人災は避けるような行動を続けてください。一人一人の行動が大きな結果をもたらすのです。

## 097) 学校に対する信頼の崩壊の連鎖

学校が機能不全に陥っているように見えます。最大の理由は先生たち、とりわけ管理職である教頭や校長が生徒の味方にならないで、教育委員会や文部省の言いなりになって、生徒やその家族を守ることも、国や都道府県の体裁ないし権威ないし見栄ばかりを優先して、本来果たすべき役割を果たしていないことが原因であると言えるでしょう。

安倍内閣の権威優先の国民無視の姿勢、官僚に無理難題を押し付け、自分の言いなりにならない官僚を次々に首にしていく恐るべき強権的な＝独裁的な政治姿勢が教育の場にも及んでいると言えるでしょう。大阪における政治団体「大阪維新の会」も大阪で全く同様な政治をしており、今の日本の政治は、「国民が主役である」という視点を失った、ひどい政治が続いていると思います。

私は塾の講師にすぎず、何の権威もない自由な一市民なので、このような厳しい発言が許されるというか、そういうことをしたからと言って誰からもとがめられることはないのですが、学校の先生がもしこのようなことを言ったら、校長先生や教育委員会から呼び出しを受けて怒られます。それほどこの国には「自由」がないのです。教育界に自由がないことがいじめ問題を含め、あなた達にずっしりと重荷を背負わせているのです。

若いときから「真実」のこだわる私が「塾の先生でよかった」と言っている意味が分かりましたか。私は何よりも「自由と個人の尊厳を大切に作る人間」だからです。

## 098) 大学からが本当の学問である

人間は人によっては、生まれてからしばらくしてからの幼い時または若い時から結婚するまでの間に、各方面での多くの成果や実績をあげて、「生まれた時らか使っている名前」で評価を積み重ねている人がいます。ですからその個人としての実績を守るためには、名前を変えない必要があることは誰にでもわかるかと思えます。

そうすると、夫婦別姓を認めないことは、個人の尊厳を認めないことと同じことになります。世界ではほとんどの国が夫婦別姓を認めています。日本人は江戸時代の古い「家」制度をいまだに意識して、夫婦は同じ苗字＝家の名前を守るべきだと、とくに保守的な主に自民党の多くの国会議員たちは考えているのです。少し言い過ぎの面がありますが、**学ぶことよりも同じ政党の仲間だからとか師弟の関係だからという枠の中で行動している人たちには、なかなか外の世界ないしは学問の成果が見えないのです。**

40年以上前に法律を学んでいたころから、学問の世界では「夫婦別姓」が常識でした。学問の世界での理想が、実際の社会の中で実現されることがいかに困難かを示す好例だと言えると思います。大学で真面目に学べば、このような人間科学の分野についても大学の学習はとでも進んでいることがわかります。私が「大学からが本当の学習である」ということの意味が分かってもらえましたか。

## 099) 私の恩師の伊藤真先生

私が東京の司法試験予備校で法律の学習をしていた頃の先生です。間違いなく「日本一の受験指導の天才」といえます。彼は数万人の資格を持った裁判官や弁護士や検察官を育て、そしてその何十倍もの、法律家にはなれなかった私のような「教え子」を育ててくれたのです。

学習指導のプロ中のプロだから、高校入試や大学入試にも当然ながら有効な指導ができるので、志成館には伊藤真先生の本がたくさんあるのです。

ところでその彼は自分の事を「**日本国憲法の使徒である**」と話されており、それ程に日本国憲法を愛し尊敬

しておられるのです。その伊藤真先生も志成館の森も「日本国憲法が壊されつつあること」に大きな不安を抱えています。もちろん、軍国主義者である安倍総理の一連の政治姿勢への懸念です。第1次堺大戦後のドイツワイマール体制がヒトラーによって破壊されたように、国民はよほどしっかりとした人権感覚を持たないと、一気に破滅への道を転がり落ちるといふことの典型であり、伊藤先生も私も同じ心配をしているのです。このような日本国民になってしまったのは、テレビ番組による「国民右傾化政策」という「洗脳番組」が効果を上げたからなのです。具体的にはどこの番組がそのようなことをしたのか、どのような政党が、ということは自民党だけに責任があるわけではないということなのですが、しっかりした本を読んで自分で調べてみてください。

今は、学習塾その他なんでも「わかりやすい方法」で「習おう」とする国民性になってしまっていることにも、真実が見えなくなっていることへの大きな原因があるのです。何事にも「真実を知る」ためには、自分から進んで学ぶことが要求されるのです。

中学3年生は「公民」で憲法を詳しく学びます。そして18歳になると「有権者」として、日本の政治にかかわれます。彼のような素晴らしい人物が書かれた本をこれからたくさん読まれるように願ってやみませ

実は伊藤真先生は森よりもかなり年下です。ですから本当のことは、私が憲法の勉強を学生時代に始めたころ使っていた教科書の著者の先生と、東京大学の法学部で伊藤先生が現実に習っていた教授が同じなのです。

九州大学の先生は九州大学および京都大学の出身が多いですが、東京大学の先生もおられます。東京大学に進学するということは、良し悪しはともかく（と言ったら失礼になるのですが）ゆうめいなせんせいとであえますよ。

## 100) e-スポーツはスポーツなのか

「e-スポーツ」という言葉があります。e-スポーツの大会もあり、オリンピックの競技種目にしようという人たちもいます。・・・こんなバカな話があつてよいと思いませんか（怒）。

国際連合の下部組織であるWHO（国際保健機関）の立場から見解では、e-スポーツは、精神病患者を増やすだけのゲームであるということになっているのです。スポーツは体全体の筋肉を使って動かすことによって健康な心身を育むものはずです。それにもかかわらずこのような体の局所だけを使うゲーム、病気を増やす結果をもたらすだけであつて、そのゲームを、スポーツとしてとらえるなど、ごく普通の健全な精神を持った人間から見れば「狂気の沙汰である」といふべきでしょう。今の営利企業が世界を支配する社会では、スマートフォンの業界や、ネットの世界で大金を得ている大企業であるGAF Aなどは、あなた達小中高生の未来の幸せなど全く考えないで、自社のお金儲けに狂奔しているのです。早くそのことに気付いて、自分の将来を守ってください。それにしてもひどい時代になったものです。少し強すぎる表現ですが、あなた達はそのことに気が付かないように、いつの間にか各種のメディアで「洗脳」されているのです。

## 101) パトリック・ハーランさん

最近よくテレビで見かけるようになった、おなじみのパッケンことパトリック・ハーランさんの政治に関する「世界の指導者の評価一覧表」がNEWSWEEKに載っていました。さすがにアメリカ合衆国のハーバード大学出身者らしく、その分析は的確であり、特定の国や指導者の利益に偏った意見を述べることがない、公平で公正なコラムになっていると私は感じました。彼は現在2週間に1回の割合で、雑誌NEWSWEEKのコラムニストとして記事を書いておられます。いつも楽しみにしてNEWSWEEKのページをめくっています。

そのハーランさんは元NHKの英会話の講師で、ずっと昔の放送の中で「英語は文法がわからないと身に

付かない」という、きわめてまともな話をされているのを見て以来、私は彼をとっても信頼し続けています。たいていの英会話の先生は「習うより慣れよ」という指導をしますが、私も彼も、英語を身につけるにはそれだけでは無理であるという考え方で共通しています。いいですか、学校でも塾でもその他のいろいろな教育機関でも、「お金儲けをする」ために、本当のことを言わなかったり、教えなかったり、わざと時間がかかり、お金もかかる指導をしているところがとっても多いのです。病院や医院の医師や歯科医師のなかにもそのような人は多いのです。志成館はその意味ではとても馬鹿正直な塾なのです。商売人ではない「百姓」の森が、単純なないし純情な百姓の力強さと正直さと誇りをもとにして運営しているからです。

ところで、ハーランさんは「お笑い芸人」ということになっていますが、本体は世界一有名なハーバード大学卒業の秀才であることは上に述べましたが、彼はとても賢い人間だと思います。というのは、政治や経済についてのまじめな評論家なのですが「お笑い芸人」ということになっておかないとテレビに出ることはできないということを熟知したうえで、ある種の仮面をかぶって、あまり政治や経済の事をまじめに考えようとしないうる日本国民に対して、それとなくアドバイスを与えてくれているのです。彼のことをどう思いますか？彼の話を聞いてみませんか？少し以上にレベルが高い話なのでついていくのは今のあなたたちにはすこし大変かもしれません。「美男子であるお笑い芸人の話」と思って聞いていけばわかると思うのですが。(笑)。

## 102) グレタ・トゥーンベリさん

2019年の夏季の喫緊（きっきん＝とても急を要している事）の課題としての「地球環境の保全」についての、スウェーデンの16歳の少女であるグレタ・トゥーンベリさん（英語発音ではサンバークになります。トゥンベルクと言うのが実音に近いと思います。）の短い演説を聞いてもらいました。下はその日本語訳です。あなた達はこれから、自分未来そして自分や家族や友人を守るために、グレタさんのような、熱心な世界中のおなじ世代の人たちと共に戦わなければなりません。学校や塾で習う勉強をしっかりと「真実」がわかる人間に成長してください。それと同時に「人生を全う（まっとう）できる地球の維持」を常に念頭に置いて生きていかなければならなりません。それくらい現在の地球環境は大変な状況になっているのです。グレタさんや館長を、おおげさで心配性の臆病な人間とみなさないでくれることを願っています。

私はグレタ・トゥーンベリといます。15歳です。スウェーデンから来ました。

「クライメート・ジャスティス・ナウ」の代表として演説しています。

スウェーデンは小国なので、私たちが何をしようか問題にはならないと言う人がたくさんいます。

でも私は、どんなに小さくても変化をもたらすことができると学びました。

もし、たった数人の子どもが学校へ行かなかただけで世界中の注目を集めることができるのなら、私たちが真に望めば力を合わせて何ができるかを想像してみてください。

**しかしそのためには、それがどんなに不快なことであっても、はっきりと発言しなければなりません。**

あなた方大人たちは人気低落を恐れるあまり、環境に優しい恒久的な経済成長のことしか語りません。

非常ブレーキをかけることだけが唯一の理にかなった対策なのに、あなた方は私たちがこの混乱に陥れた、あの悪いアイデアを推進することしか口にしません。

それは大人気のない発言です。

**その重荷をも、あなた方は私たち子どもに負わせているのです。**

でも私は人気取りのことは考えません。

私は気候の正義と生きている惑星のことを考えます。

私たちの文明は犠牲にされています。

ごく少数の人たちが莫大なお金を稼ぎ続ける機会のために。

私たちの生物圏は犠牲にされています。

私の国のようにお金持ちの国の人たちがぜいたくな生活をするために。

その苦しみは、少数の人のぜいたくのために、多くの人たちが払う代償なのです。

2078年に、私は75歳の誕生日を迎えます。もし私に子どもがいたら、一緒に過ごしているでしょう。

子どもたちは私にあなたの方のことを尋ねるかもしれません。

まだ行動できる時間があるうちに、なぜあなた方は何もしなかったのかと。

あなた方は、自分の子どもたちを何よりも愛していると言いながら、その目の前で、子どもたちの未来を奪っています。

政治的に何が可能かではなく、何をやる必要があるのかに目を向けようとしない限り、希望はありません。

危機を危機として扱わなければ、解決することはできません。

化石燃料は地中にとどめ、公正さに目を向けなければなりません。

この制度（資本主義制度）の中で解決することがそれほど難しいのであれば、制度そのものを変えるべきなのかもしれません。

私たちは、世界の指導者たちに相手にしてほしいと懇願するためここへ来たものではありません。

あなた方はこれまでも私たちを無視してきました。

そしてこれからも無視するでしょう。

私たちは言い訳を使い果たし、時間も使い果たそうとしています。

私たちは、あなた方が望もうと望むまいと、変化は訪れると告げるためにやって来ました。

真の力は人々のものなのです。

ありがとうございました。

### 103) 東大話法という本で国民を啓蒙したいと考える安富歩先生

安倍総理大臣には、平気でうそをつき、自分の不誠実さを平気でごまかすための技術があります。政治家や企業家その他のエリートたちは、保身のなめに、つまり自分の地位や権威や富を守るために、本質的に、伝統的に、技術的に、独特の論理で、事態を切り抜ける技術を身につけていることがあります。その結果、多くの普通の人間は、不正やごまかしがあるとわかっているにもかかわらずいつの間にか煙に巻かれてしまって、その責任を追及し、場合によっては必要なペナルティを課すことさえも出来なくなってしまいます。そこには権力者ならではの独特の論理があると同時に、場合によってはその権威の周囲にある従属的な権威者が、普通の人たちにわからないように、自分と共通の利害関係がある周囲の人たちに援をさせていることが多々あります。いわゆる忖度に類する事からです。「言葉によるごまかし」と「力によるごまかし」のいずれかの方法をとっているということです。

安倍総理の場合は、大企業優遇の経済政策の企業からのお返しとしての経済援助や圧力、同じ自民党の国会議員へは選挙の際の公認の拒否という脅し、そしてメディアに対してはそのメディアの支配者を通じての番組内容や出演者への干渉の脅しを繰り返すことにより自分の不正をごまかしており、彼のやり方は暴力的強圧的であり、極めて悪質なものでした。つまり言葉だけは美辞麗句を並べ、裏でやっていることは暴力団よりも悪質な行為であったということです。彼のやり方こそが「力によるごまかし」であるといえるでしょう。（だからメディアは崩壊したのです・・・別掲）尤も、過去の歴史を見ると、さらに現在の世界中の政治の姿を見ると、権力者のやってきたことや、やっていることは、古今東西変わらないのかもしれませんが、安倍さんを責めるのもかわいそうだといえ言えないこともないでしょう。しかし「歴史を学ばない愚かな指導者である」という評価は変わることはありません。

人々の幸せを願って、誠実に真理を見極め、主権者である自分や自分の家族や隣人、そして日本国民や世界中の人々の利益や幸せを、正しい手続きによって議論するような時代が来るのはずっと先のこともかもしれません。参考までに、中岡成文さんのハーバーマスという著作を紹介しておきます。私は昨年の夏からこの本に取り組んでいるのですが、書いてある内容がとってもおもしろく、中身がとっても豊かで濃く、文庫本で持ち歩きやすいので、一年中これを持ち歩いています。それほど素晴らしい本であり難解な本です。しかし現在の私が本を薦めるとしたら、この本が一番になるでしょう。

話がそれてしまいましたが、この102)で安富さんの本を通じて紹介するのは「言葉によるごまかし」です。一見もつとだど納得してしまうような、エリートたちの言葉上の技術的な戦略のことに辟易されている、東京大学教授の安富歩さんが「エリート官僚や政治家がよく使う戦術である、真実をごまかし、国民を煙に巻く方法」を「東大話法」という皮肉たっぷりの名前の書物を出版されています。この本は、福島第一原子力発電所のメルトダウンの時に、東京電力の幹部のエリートたちが、国民を馬鹿にして、原子力発電所の事故の責任を逃れようとしたことに腹を立てて書かれた本です。目次だけでも読んでみませんか？とても面白いですよ。

そしてあなたたちも、将来エリートになった時に責任逃れをしたかったら、この本に書いてある手法を利用してください、というのはきつい冗談ですが(笑)。

※ 尚、余談ですが、令和新撰組の山本太郎さんがたくさんの得票を参議院議員選挙で獲得されたのは、この安富歩さんという誠実なそして著名なそしてとっても面白いキャラクターを演じられております、東京大学教授が応援されたからなのです。知らなかったでしょう？東京の人たちの知的水準はその他の地域の人たちの知的水準よりも高いことは認めなければならないでしょう。明治維新以降、多くの学際的な環境が整っているからです。従って、人口が多いために、少数派、例えば日本共産党や例話新選組やNHKから国民を守る党などにたくさんの表が集まり、そのような少数派の意見が見えるようになっているのです。

## 104) 内田樹(たつる)という誠実な学者

最近、新聞でも出版の広告が出て、多くの人たちが彼の名前を知るようになってきていると感じているのですが、今回は内田樹(たつる)先生(専門はフランス現代思想や教育学)からのメッセージを張り付けました。

私とほぼ同じ年齢の内田教授は、1970前後の、自由で闊達だった時代の日本で大学時代を過ごしており、物事の考え方もよく似ています。「生きづらさについて考える」という本には、私たちのような自由でのみの身として、なおかつ思いやりにあふれていたころの日本人の一人としての立場から、あなた達やあなた達のお母さんお父さん世代に対しての適切なおかつ暖かいアドバイスが書いてありますので、一度は手に取ってみてください。

彼は私と同じように、今の時代の生きづらさは、資本主義という社会構造、これは多くの日本人いや多くの世界中の人たちが、当然のことであると無批判に受け入れている社会構造なのですが、この社会構造自体に欠陥があるのではないだろうかというものの考え方をされています。そのために彼は「若者よ、マルクスを読もう(I)(II)(III)」を書かれており、教育者としての立場からも、いろいろな書物を書かれています。ぜひ読んでください。

## 105) TIMEによる地球環境破壊特集

TIMEの「SPECIAL CLIMATE ISSUE(気候問題特別版)」から、いくつかの現在の世界の気候変動問題を文章のところだけコピーして貼り付けました。以下の内容は、すべてチェックしておいてください。今後のあなた達が人生を全うするためのテーマだからです。これらの諸問題を、自分の将来の、切実な問題として、常に意識しておいてください

※TIMEが各州別に列挙している環境問題を項目別にそのまま載せます。森が英文を日本語に訳していますので、誤訳があるかもしれませんがご了承ください。

※このTIMEには、「地球を破滅から守る方法や地球を守るために闘っている世界の指導者の写真」がいくつも載っています。将来を明るくするアイデアも載っています。

※この文章のもととなっている記事と写真は、志成館のホームページのASSETSの中のどこかにあります。

**【あと30年後の2050年までに地球環境は破壊されつくして、人類は破滅に向かいます。みんなで地球を守るために闘いましょう】** TIMEからのメッセージ

#### 【アジア州】

- ①世界で最も暑い所の一つである、チグリス・ユーフラテス川流域にはなかなか雨が降りません。この地は宗教的な対立と移民問題でも最悪の状況にあります。
- ②台風の被害が多いフィリピン
- ③海面よりも低い土地に400万人もいる、インドネシアの首都ジャカルタ（ここは首都移転が決まっています）
- ④世界一深度があるロシアのバイカル湖で、貴重な生物が次々に絶滅しています。
- ⑤インドのガンジス川流域は、世界でも最悪の海面上昇に陥っています。
- ⑥世界最高温度を記録したパキスタンです。

#### 【アフリカ州】

- ①インド洋のサイクロンで、恐るべき被害が出たところです。
- ②ヘミングウェイの「キリマンジャロの雪」=氷河はもうすぐ消滅します
- ③「サヘル」地帯では、資源（と宗教に）が原因の戦いが止みません
- ④ナイジェリアと象牙海岸とガーナの漁獲高が、海水温上昇で減少。
- ⑤「象の鼻」と呼ばれるソマリアがある東アフリカでは、致命的な食糧危機に陥っています
- ⑥かつての奴隷の積出港があった西アフリカも海面上昇でひどい状況に

#### 【ヨーロッパ州】

- ①ドイツやフランスやベルギーで最高温度の新記録が続出
- ②フランスワインで有名なボルドー地方では、ブドウの木が次々に枯死。
- ③ロシアの西シベリアでは、ツンドラの地中の根雪が解けています
- ④北海ではプランクトンを中心とする海中の食物連鎖が破壊されています
- ⑤河川が道代わりになってきたライン川では、水不足で船が通れません。
- ⑥バルト海沿岸のクロアチアでは、農作物の大凶作が続いています。

#### 【北アメリカ州】

- ①ミシシッピ川のデルタ地域では、巨大ハリケーンが毎年襲来しています。
- ②メキシコのメキシコシティでは渇水=雨が降らないので銀鉱山の上の地盤沈下も発生。
- ③アメリカ東海岸全体、特に人気があるバージニア・ビーチでも海面上昇が原因でひどい水害が発生しています。
- ④アメリカのアラスカ州北アラスカでも、夏の高温が原因で、多くの氷河が解け始めています。
- ⑤カリフォルニア州では、山林火災が原因で、食糧供給が危機を迎えています。
- ⑥世界の食糧庫であるアメリカ中西部でも暑い夏の繰り返しと頻繁に来る風水害で、伝統的な農業が壊滅的な被害を受けています。

#### 【南アメリカ州】

- ①アンデス山脈のペルーではここ50年間に半分の氷河が解けてしまいました。
- ②ホンジュラス、エルサドバドル、グアテマラ、ニカラグアでは生活ができないために多くの人たちがメキシコやアメリカに移住。

※スターバックスやモンサントが、そして世界をまたぐ各国の「商事会社」及び「金融機関」が、世界中の貧しい国々をモノカルチャー国家に変えてしまったために、貧しい国の自給自足経済は破壊されてしまったので、自分の国では生きていけなくなったのです。実に恐ろしい弱肉強食の国家経済破壊社会なのです。まだあなた達にわかってもらえるとは思いませんが、これが世界経済の真実なのです。（森）

- ③多くの人が海岸に住むガイアナでは、海面上昇に丹生より、国内総生産が60%も低下しています。
- ④熱帯雨林破壊が続くブラジルでは、森林火災などにより、アメリカ合衆国と中国に次ぐ二酸化炭素排出国になっています。
- ⑤南アメリカ北西部では、洪水や地滑りで毎年多くの人々がなくなっています。
- ⑥チリとアルゼンチンの国境のパタゴニア高原でも、氷河が大量に溶けています。

#### 【オセアニア州】

- ①気候変動による温暖化や酸性雨が、グレート・バリア・リーフを破壊し、自然の姿や漁業や観光産業までも破壊しています。
- ②キリバスやツバルなどの島国（かつてここは日本軍の基地があったところなのですが）海面上昇により、太平

洋の海の中に沈んでしまいます。

③ 2018年の乾燥と熱波が原因で、オーストラリアのクイーンズランドでは、警官したことがない山火が発生しています。

④ オーストラリアのワイン農家も、ヨーロッパ州と同じように生産力が極端に落ちています。

#### 【南極大陸】

#### Keep Antarctica on Ice

(南極大陸の上には、氷を残しましょう!!)

① 南極大陸の半島の突端部ではアメリカ合衆国のロードアイランド州の大きさの氷の棚（氷床）が解けています。

② 同じく地図の上の別の場所でも、巨大な氷床が解けています。

③ 南極大陸の東側はまだ溶けているところが少なかったのですが、今やここも解け始めています。

④ 寒い所に住んでいた、鯨のエサとなる生き物が大幅に減少しています。

## 106) 地球温暖化と日本の姿勢

地球温暖化と戦う運動は、まず、ヨーロッパの中学生の行動から始まりました。その効果が多方面で良い方向に出ています。しかし他方ではこれに対する国々もたくさんあり、経済を発展させて、より豊かにするべきであり、地球温暖化などの問題に構ってはおれないという、主に発展途上国からの反感もとても根強いのです。先進諸国が、「先進諸国に住む自分たちだけが豊かになるために地球を壊しておきながら、これから頑張ろうという発展途上国に対して、化石燃料を使うな、などと言えるはずがなかろう」という意見なのですが、間違った主張ではないでしょう。この問題はかなりむずかしいのです。

これからもたびたびグレタ・トゥーンベリさんのことを載せるのは、例えば、2019年秋に日本の中部地方から東北地方を襲った巨大台風19号が「地球温暖化で海水温度が上昇した結果であること」を説明するテレビ放送がほとんどないことに危機を感じたからです。日本のメディアが、強いものだけ応援して、一般国民の幸せなど願っていないので、グレタさんという世界でも認められた、ある意味では偉大な少女の名前を利用させてもらっているのです。

現在の安倍政権は「地球温暖化」を認めていないのです。だから地球温暖化のために頑張っている人たちは、新聞にも出ないし、テレビにも出ないというか、出してもらえないのです。

しかし考えてみてください、地球温暖化の被害に遭うのはあなた達の世代です。いずれそう長くは地球上に居ることなく死んでゆく館長のような大人たちにはあまり関係ないのです。だから、自分たちだけよければいいということを考えている無責任な政治や企業家が日本やアメリカにはとても多いのです。実に悲しいことだと思いませんか。

さらに日本人としてとても恥ずかしいことなのですが、ニューヨークの国際連合での会議の席で小泉環境大臣は「地球温暖化の問題はセクシーな問題である」と発言して、多方面から非難され馬鹿にされたのです。安倍政権の方針が地球温暖化に対して反対していないので仕方がないとしても、世界中に恥をさらした小泉環境大臣には呆れてしまいます。2019年の10月の今度の台風は政府への警告に思いませんか？こののち持った大きな台風が日本を次々に襲うでしょう。愚かな日本人も自分が被害にあったならことの重大さに気が付くでしょうし、環境問題を他人事のように扱う現在の安倍政権が、いかに無責任で愚かな政権であったかに気が付くでしょう。もっと早く気が付くようにグレタさんが訴えているのに、学校のような教育現場での取り組みもとても遅れていると思います。

## 107) 長野のリンゴ園や愛媛のミカン農家の被害を見て思うこと

台風や集中豪雨による洪水や強風で荒れ果てた長野のリンゴ園の姿を見て、そしてこれまでも愛媛県のミカン園や八女の茶畑や福岡県甘木地方の荒れ果てたナシ園や柿園の畑を見て、同業者であるミカン農家の私には、その苦しみが痛いほどわかります。リンゴも蜜柑も夏期も梨も、土地を整備して果実が植えられるようになり、仕事用の取り付け道路をつくるのに6~8年くらいかかります。この作業と同時に果実の苗を植え付けて成長し出荷してお金になるまでにもやはり6~8年ほどかかります。この間幼木によるわずかの収入の中で、農薬の散布と草刈は年に何度もし続けなければなりません。



このような苦勞に比べると、収穫時のきつい労働は喜びでしかないと言えるでしょう。収穫時の重労働を支えようと、ボランティアで手伝いに来てくれることはとってもありがたいことですし、館長のうちでも子供の時から比較的高賃金で人を雇い続けて手伝ってもらっていました。あくまでも収穫した果実の価格に比して高負担だったという話ですが。

多くの都会の人たちが、果実などは自分の力で成長すると思っている人が多いのにはあきれ果ててしまいます。目に見えない労働がいくつもあるのはどんな仕事でも同じことなのですが、農民としての私が、ボランティアの人たちをお願いしたいのは、夏の草刈のボランティアに来てほしいというのが本音です。これに比べると、被災にあったところで、再び美味しい野菜畑ができるまでには、それなりの基礎作業と時間がかかりますが、野菜は平地に育ちますし、収穫までには基本的には半年勝負なので、果実ほどで大変ではないとも言えるでしょう。ただ、野菜の収穫やたね撒きや苗植えは、腰をかがめて行いますので大変な重労働です。

しかも農業生産物は市場価格に支配されるので、1年間働き続けても収入がプラスマイナスゼロという年がしばしばやってきます。それでも自然の恵みに満たされる農民の喜びは、何ものにも代えがたいと感じています。「農作物は自然の恵みものである」という感覚がある私のような百姓（どちらかと言うと、百姓=ひゃくしょう=たくさん苗字という、語源は飛鳥~平安時代の「氏姓制度」時代にさかのぼる、農民を軽蔑した言葉として使われることが多いのですが、私はむしろ「百姓」という言葉に誇りを持って、意識的にこの言葉を使っています（笑）は、その農業収穫物を、押しつけがましくも（笑）、他者に分け与えたいとします。しかしそれは自然が恵んでくれたからという気持ちがあるからなのです。もらった人の多くは迷惑がっていると思うのですが、ミカンやタケノコやサクランボなどを私が生徒や都会の人たちに分けたがり、とても安価にミカンを販売しているのは、気持ちが百姓だからです。気持ちとしては、自分の労働はさておいて、「土や水や太陽の恵があってこそ農作物は育つものである」という感覚が抜けないのです。

現代社会はすべて投下資金という原価と、売上等の収入という売価の差額でビジネスが成り立っているのですが、古くからの農民は、常に自然を意識し、自然と共存しているので、厳密な収支計算はしないことが多いのでしょうか。仕事の性格上、お金の計算も、自分の気持ちの持ち方も大雑把（おおざっぱ）でないといけないのが第一次産業に従事する人間の共通した意識なのかもしれません。何度も述べておりますように、農民や漁民はいつでもタダ働きがあり、労働の対価がゼロであることを覚悟しないとできない仕事なのです。

**（ここからがポイント①）** このような自然を愛し、自然に感謝する百姓の、ある意味では無私の心が「日本の美しい里山を守ってきた」のではないだろうかと考えてほしいのです。何よりも利便性に優れ、効果的であることを求めようとする若い都会の人たちには、農民の苦勞と自然への貢献が全く分かっていないようにしか思えません。日本の農民の姿を知り守ってください。たとえ土や雨に影響を受けない仕事をしていたとしても。このままだと日本の美しい里山は荒れ果て、日本の伝統美も失われ、日本人の思いやりの心も薄れ、かくして「美しい国日本」の国は滅びてゆき、そして非農業従事者の人たちも生きてゆけなくなるのですから。

**（ここからがポイント②）** これほど国土が荒れ果てているにもかかわらず、オリンピックなどに熱を上げる都会人や企業の心裡が、農民の私には理解できません。道路や河川の整備やこれまでのダムを中心とした、自然を人間の力でねじ伏せようとする、土木建設業企業の更なる儲けを意図したオリンピックの開催よりも、防災の方向に目を向けて、早く手を打つ必要があるのではないのでしょうか。日本中のすべての県を車で走ってきた森は、日本中の里山や道路が荒れ果てていることに心が痛んでいます。その中で今度の巨大台風の襲来です。森は今年の夏の授業中に、「今後は日本に930ヘクトパスカルよりも大きな台風が次々に来るから、7月に塾の建物を守るために台風保険をかけた」と話していましたが、早くもそのような巨大台風19号がやってきました。今後はもっと大きな超巨大=メガ台風が来てもおかしくはないでしょう。早急に国を挙げての対策が必要であると思います。「自然は猛威を振るうものである」という発想をもとにして、山を

崩れ、川も氾濫し、家も流れてしまい、人の命も奪われるのが自然の姿であるということを受け入れたうえで、なおかつ人間は森林も川も畑も家も、そして子孫も再生できるものであると信じて、自然の摂理を重んじた災害の対策をしてもらいたいと願うのは、農民である私だけではないでしょう。

(ここからがポイント③) 今回のテレビでの台19号などの放送では、原因が「地球温暖化による」というコメントがほとんどなされなかったことに気が付いた人がどれほどいましたか。現在の日本政府とアメリカ政府は「地球温暖化など存在しない」という前提ですべての政策を講じています。ですから政府がテレビに干渉をして、わざと「地球温暖化」という言葉を使わせていないのです。理解できなくてもかまいませんが、いま世界中は、地球温暖化を認めるか否かでの大激論の時代になっているのです。地球温暖化を認めないのが日本とアメリカとロシアと中国そしてブラジルなどの貧しい発展途上国です。他方では、昨日10月22日には、「地球温暖化を体を張っても防止する」と主張されたカナダ自由党のトリュドー首相は選挙で勝利することができました。グレタ・トゥーンベリさんたちの活躍を応援する、COP24のような自然環境を守ろうとする組織も多いのですが、彼女を批判する国や指導者も多く、今後の世界政治がどのようになるかはわかりません。このついでですが、「グレタ・トゥーンベリさんがノーベル平和賞をもらえなかったのは、アメリカ合衆国が妨害したからだ」という人もたくさんいます。

(結論) 恐ろしいことを言って申し訳ありませんが、今回の巨大台風が襲来して以来、地球温暖化と、日本における里山の荒廃を嘆く私には、「鉄とコンクリートとプラスチックでできた空間に住む都会の人たちが、利便さや快適さという欲得にまみれたがゆえに、自らが招き入れた業火(ごうか=地獄の炎の事で、自業自得で破滅することを意味する)によって焼き尽くされる姿」が臉に焼き付いて消えません。

これからは18歳で選挙権を獲得するあなたたち=次の時代の主役たちが、そんな日本や世界にならないように、しっかりと学習をして、美しい自然と心も体も壊れやすい人間を大切にする社会を作って欲しいと願っています。自然に満ち溢れた幸せな一生が送れた人間からの切実なメッセージです。

2019年10月23日(水)

## 108) 中学生でも政治を変えることができる

ドイツの国会議員の選挙が行われました。結果としては、地球環境を守ろうと主張してきた「緑の党」が大躍進をしました。もしかしたらドイツの次期首相は「緑の党」という小さな政党の党首であるハベックさんになるかもしれません。もしそうなったら、これもグレタさん効果です!! そうならなくてもグレタさん効果は世界中に表れているのです。

あなたたちが子供であって、選挙権を持たなくても、政治の方向は変えられるのです。

## 109) 言葉の自由の限界

以前、アメリカ合衆国のタレント兼デザイナー兼経営者が、自分の会社で制作したという体形矯正下着のブランドの名前「キモノ」と名付けたことに対して、そのような日本を侮辱する名前の利用は許せないという日本側からの反対運動があり、日本が主な市場であることも関係して、「キモノ」というブランド名前の使用は中止されました。私たち日本人はほっとしますよね。

しかしですよ、そんなことを言うのなら、モンゴルの英雄「ジンギスカン」を羊の料理の名前にする方がもっとひどいではないかという記事がNEWSWEEKに載っていました。全くその通りですよ(笑) 昔も、いかがわしいお風呂に「トルコ風呂」という名前を付けていたので、トルコ大使館からの抗議もあって、その名前は使わなくなりました。言葉というものは面白い物ですよ。実は、このようなことは日本人同士、日本の地域同士の間でもいくつも問題があり、争われているのです。自分で調べてみませんか。

## 110) 九州大学の会報と会員証

九州大学でも、卒業生には、学部ごとに卒業生への会報が送ってきます。それには、その年の卒業生の職先が載っています。同じ会社の先輩たちへのメッセージでもあるのでしょうか。後輩をかわいがって下さい（つまりひいきをして出世させてください）という（笑）。そして会報にはいつも、敬愛学部の同窓会に寄付をするようにという注文がついてきますが（笑）。わたしは、後輩たちの就職先を確認することによって、その時々日本の景気の良し悪しの判断をしています。志成館の子供たちには、「九州大学を卒業できれば、このような会社には就職できるから」という指導もしています。

ところで、九州大学卒業生でなくても、一定の寄付をすれば、誰でも「九州大学の会員証」が手に入ります。「免許証」のようなものなのです。大学が独立行政法人になったので、大学自体がお金を稼がなくなってきたから、このようなことつまり卒業生でないと手に入らなかった資格が、お金で手に入るようになったのです。ですから、九大の図書館を利用したいときや校内を見学したいときには役に立ちますよ。また、旅館や食堂の一部の施設の料金が安くなります。皆さんも一定の寄付をして、会員証を手に入れませんか。私はこのことを何も知りませんでした。少し前に九州大学の法学部を卒業されていた西鉄の社長をされていた方から教えていただいて加入をしました。寄付額は自由です。

### 1 1 1) TIMEが毎週求めている寄付活動

TIMEでは、毎週「国際的なボランティア活動」に関する寄付金募集について、きれいな写真付きで、ページを割いています。具体的な内容は、

- ①女性の地位向上及びLGBTへの理解のキャンペーン
- ②動物虐待を防ぎましょう
- ③自然の食べ物を尊重しましょう
- ④海の汚染から人類を守りましょう
- ⑤地球温暖化から氷山が解けるのを防ぎましょう などです。

### 1 1 2) ロータリー・インターナショナル

館長は20年ほど前から博多ロータリークラブという組織に入っています。実はこの組織は100年以上前にアメリカで設立され、その下部団体である日本のロータリークラブも今年で100周年を迎えます。このような名前や組織があることはほとんどの人は知りませんし、知っている人たちもせいぜい、お金持ちの人たちの、自画自賛的な、お手盛り組織であると認識されていると思います。実際にもロータリークラブには日本を代表する企業や地域で頑張る企業の社長さんや弁護士さんやお医者さんそして芸術家の人たちがたくさ会員になっています。つまりそれなりに豊かな人たちが加入しておりますので、裕福な人たちのお手盛り集団であるという批判は全く間違っているわけではないでしょう。

私が入会したきっかけは、大学時代の友人が大きな会社の支店長をしており、その友人からいろいろな人たちと接しておけば、志成館の子供たちにもいろいろなアドバイスができるし、偏狭な知識しかない（・・・これは私が付け加えたものです（笑））私自身が、もう少し賢くなるであろうという配慮によるもので、入会して以来、私も相当に賢くなりましたので、誘ってくれた友人にはとても感謝しています。

それにしても、そもそも自分は志成館の傾斜である以上に、貧しい肉体労働をする、独立自営農民という意識で生きているのに、一体どうしてそんな企業経営者が主体の組織に館長が所属し、すでに20年たち、ロータリークラブの会長も務めたくらい熱心だったかの理由がわかっていただけないと思います。偉そうなに、庶民の立場を変えないと言って、お金持ちや権力者にしっぽを振る大ばか者だと批判されても構わないとも思っています。

しかし私がロータリークラブに所属しているのにはいくつもの理由があります。そこで出会う人たちの人格

や知識や経験の豊かさ、気が置けない陽気で明るい人たちとの歓談、そしていろいろな貴重な情報をもらえ賢くなれることなど数え上げればきりが無いほどの良い経験ができます。しかしそれ以上の加盟していることの大きな理由は、国際連合が1945年にできたあとの最初の大仕事であり、中学の歴史や公民でも学ぶ、世界の平和にとってもとても重要な1948年の「世界人権宣言」の作成に、多くのロータリークラブの先人たちが貢献していたという歴史があるからです。そしてこの国際連合がつくりあげた「世界人権宣言」の内容は、現在の「日本国憲法」の考えととても近く、そのことは、GHQの連合軍最高司令官であるダグラス・マッカーサー元帥が連れてきたホイットニーやチャールズ・ケイディスさんたちは、この当時アメリカを主導していたロータリークラブの会員たちと考えが近く、同時にこの組織の素晴らしさを理解していたはずであるという、誇りと実績がある組織だったという認識があるからです。

今年2019年の国際ロータリークラブのマーク・マローニ会長の方針は、「1945年の国際連合設立時から国連憲章とかかわったころのロータリークラブの誇りを取り戻し世界の平和に貢献しよう」であり、このことは私が理解してきたロータリークラブの伝統に間違いがなかったことを証明してくれました。

少しの会費が必要なのですが、体力が続く限り、そして私の塾の生徒さんたちに少しでも役立つ情報を教えていただくために、まだロータリークラブに籍を置いておこうと考えています。

### 113) 安倍晋三という戦後での最も暗愚な総理大臣

安倍晋三総理大臣が、コロナ危機への対応ができないことや、財政破たんへの今後の対応の困難さに辟易し、自分の能力不足と評判の悪さにストレスを感じて、またもや責任を投げつけられました。「安倍政権の功罪」という形で毎日新聞に特集されていますが、「功」の側面はほとんどなく、「罪」の側面ばかりであったと言えるでしょう。私の個人的な評価は次の通りです。

①口先だけはきれいごとを言って国民をごまかし②傲慢であり平気で嘘をつき③気に入らない人たちに対しては平気で脅し④有能な官僚には出世を意識させて忖度をさせ⑤近隣諸国には敬意の念を持たず見下して国際貿易関係者に損害を及ぼし⑥平和憲法に違反した立法や海外派兵をしても何の憲法違反への自覚もなく⑦自由な国会答弁にはまともに野党の質問に答えようともせず逃げごまかすばかりであり⑧海外の首脳からはドナルド・トランプの番犬だと笑われてバカにされているのに何の恥も感ぜず⑨日銀に大量の株や国債を購入させて株価を吊り上げてお金持ちを豊かにして一般庶民には消費税を上げて貧しくするだけではなく⑩医療現場や介護現場その他の諸領域を新自由主義的な政策で破壊しつくし⑪テレビからはまともな評論家を締めだして自分をほめてくれる能無し学者や批評家に演出をさせ⑫道徳が大切であると言いながら自分は一番不道徳な人間であることさえ気がつかない・・・その他数え上げれば限りがないほどの悪行を働いた「暗愚」な総理大臣であり、その意味では「戦後の歴代の総理の中でも最悪の総理大臣であった」というものです。

しかし、このような私の意見に対して、私の知人は安倍政権の株価吊り上げ政策による株価の上昇で数千万円の儲けをしており、多くの企業は法人税の税率の切り下げにより過去最高の利益を実現しており、そのような人たちや企業が「安倍さんは最高の総理大臣である」とほめたたえても、それはそれで構わないと思います。各個人の「信念」の問題ですから。それに資本主義社会、そして自由主義社会は、法的にそれを正当な行為として認めている社会ですから。

ちなみにそのような、一部のお金持ちだけが得するような社会を許さないのが「社会主義」であり、現在の中国の指導者が考えている理念であり、そこではすべての人たちが同じように豊かな人生を送るべきであるという考えです。

格差が広がり、社会の公正さが失われ、弱い者いじめがまかり通るアメリカ合衆国では、自分は「社会主義者である」と主張されているバーニー・サンダースさんが、民主党の大統領候補になってもおかしくないほどの票を獲得されたので、アメリカ国民も、資本主義社会のおかしさやひどさに気が付き始めているように

思えます。今後のアメリカの動きが興味深いといえるでしょう。但し、サンダースさんの言う社会主義は、中国のような社会主義ではなく、北欧3国みたいな、社会福祉政策が大切にされる社会形態であり、その意味では彼は厳密な意味での企業の私有財産制を否定する「社会主義者」ではなく、「社会民主主義者」ないし「修正資本主義者」ととらえるべきでしょう。彼もそのことはわかっておられるのですが、アメリカでは「福祉国家政策」を主張しただけで、やれ「社会主義者だ」やれ「共産主義者だ」と批判されることから、それを逆手に取っておられるのです。戦後の、ロータリアンが活躍した直後に、東西冷戦の状況下で、アメリカは「赤狩り旋風」が吹き荒れ、ごく普通の資本主義肯定論者も、少しでも社会民主主義的なことを言うと、公職追放がなされた時代があり、この影響がまだ続いてきたのが、まともな時代に戻ろうとしているのです。

ちなみに、過去の「赤狩り旋風」の主役たちが、ニクソン大統領であり、レーガン大統領であり、その伝統を引き継いでいるのがトランプ大統領だといえると思います。この人たちは、強いアメリカ合衆国、お金持ちのアメリカ合衆国を守ろうとしているので、世界中に戦争を仕掛け、世界中の貧しい国々を平気でいじめ、さらに困ったことに、自分の国の貧しい人たちや思いやりがある人たちをいじめてアメリカ国家を分断しているのです。

この文章は2020年9月8日修正分です

## 114) 金融業批判

私は大学時代に「農民という意識をもって一生を過ごそう」という決意をしたうえで今日まで生きてきました。その意味は、林業や漁業などの農業以外の第1次産業や鉱工業などの第2次産業そして食品業や旅行関係などの第3次産業に対する批判的な気持ちが根底にあるのではなく、広く「金融業に対する批判や嫌悪感」が根底にあったのだらうと、今になって考えています。

その深層心理には、人は他者の労働の成果を奪い取る権利はないという、マルクスの資本論に影響を受けた意識が沈んでいたものではなかったらうかと解されます。つまり他者の労働の「搾取」は許されないという意識です私には、金融業とは、他者の労働の対価の上前を撥ねる（うわまえをはねる＝かすめとる）ような仕事であるように見えたのでしょ。その当時も、金融業には決して従事しないという、農民らしい純粋な意識があったのだと思います。もちろん経済学部それも経営学科ですので、金融業の重要さはわかっていたのですが。

このような思考をするようになったのは、おそらくゼミの合宿で、レーニンの「帝国主義論」を教材として使っており、その影響があったのだと思います。当時の私は恐ろしく単純な性格であり、偉い人の学説はそのまま信用して、それを自分の理論として受け入れていましたので（笑）。ただ、もし興味がおありでしたら、レーニンの「帝国主義論」という本を、2020年の今読んでみませんか。これが100年余りに書かれた本とはとても思えません。ごく最近書かれたかのような印象をうけますよ。やはりそれほどレーニンは偉大だったのでしょ。

ちなみに九州大学のこの時の九重の「九大山の家」での経済理論を学ぶ合宿が、私の人生で最も楽しいときでした。50年たった今でも、しょっちゅう夢の中に出てきます。この時の仲間の一人が、上記の私をロータリークラブに誘ってくれた人物です。（笑）。私の教え子たちには、私の学生時代の、このような素晴らしい時間を過ごせるように、しっかりと勉強しなさいと指導をしています。わかってくれる人がいるとは思いますが（泣）（笑）。

2020年の今日、世界中は金融業に支配され、そこには実体経済も伴わず、労働への敬意もなく、人間性への配慮さえもない殺伐とした世界が広がっています。そこでは金融業関係の人たち、それが会社であれ個人であれ、そのような人たちが世界のお金の流れを追い求めながら、けた外れの利益を得ており、それに対する課税制度もなにもなされていないとも言える状況である。挙句の果てには、小学生に金融の仕事を教えようという人たちも、ずいぶん前からたくさんいるのであり、社会の退化にあきれ果ててします。このような世界に姿を見るにつけて、自分の学生時代からの「農業を大切にしよう」という意識を持った人生がいかに正しかったかが実感され、日々満足しながらの生活を送っています。

2020年8月31日(月)

## 115) 永続敗戦論

毎日新聞の書籍紹介の欄に白井聡さんの「永続敗戦論」という書籍の紹介がなされていました。田中角栄、小沢一郎、鳩山由紀夫などの、日本を守ろうとした指導者はいつもアメリカの国策やそれを実行するCIAにつぶされてきました。戦後の稲作農家の破壊も小麦の輸入政策によってつぶされ、1970ころの私たちミカン農家の破壊もカリフォルニアの果樹農家を守るためにつぶされ、1985年以降の労働者たちの頑張りによって実現した日本の高度成長の繁栄もプラザ合意などによって、アメリカの企業の利益を守るという目的のために破壊されました。その後に至っては、アメリカの富裕層や大企業に奉仕するだけの「国鉄やNTTの民営化」そして「郵政の民営化」さらには安倍のたくらむ「水の民営化」や「種苗の民営化」など、中曽根から小泉から安倍晋三に至る、アメリカへの奴隸的な追従政策をし続け、日本の互助の精神にあふれていた国家の仕組みの破壊など、一連のアメリカによる対日経済侵略攻撃などを見ると、生後以降今日までもずっと、すべてがアメリカに支配されているという見解は、全くその通りであると考えざるを得なくなります。「文明の衝突」のサミュエル・ハンチントンが述べたことは今の世界でそのまま実現していますし、私が敬愛するノーム・チョムスキー氏のいくつもの書籍も同じような指摘をなっています。この本は多くの日本人が読むべきでしょう。

2020年8月31日(月)

## 116) ユニテリアン

私はずっと前から、アメリカ合衆国の、リンカーン大統領が登場するすこし前の偉大な思想家である、ラルフ・ウォルドー・エマソンに惹かれて、彼の諸著作や、H・D・ソローなどの彼につながるいくつかの人物の著作に出会いました。彼は「神秘主義者」といわれており、キリスト教徒のはずなのだがとつても非聖書的な発想をするからそのように呼ばれていたのでしょうか。私から見れば、科学が未発達時代の「科学を信じるとても合理的な人間」に見えていました。そんな中で最近の副島隆彦氏の著作「本当は怖いアメリカ合衆国の思想と歴史」に出会いました。「目から鱗がとれる」とはこのことで、この著作によって、エマソンがどのような人間出るのが氷解しました。彼こそが真のアメリカ合衆国を作ったユニテリアンの一人であるというものです。

著者の副島さんは「アメリカを建国した独立戦争の闘志たちは、マックス・ウエーバーが主張するようなカルバン派のクリスチャンないしプロテスタントではなく、もっと誇り高く、人間を信じ、個々人は自分の心の中でキリストとの会話を通じて、彼イエスの気持ちを押し測ろうとするユニテリアンたちである」という主張をされています。他方で、アメリカに渡ったイギリスのカルバン派のクリスチャンであるピューリタンは、すなわちプロテスタントは、そもそもが強欲な商人たちであり、彼らは独立戦争の時にアメリカとイギリスの双方に保険をかけ、双方に武器を販売し、アメリカが独立戦争に勝とうが勝つまいが関係なしに、結局は得をする立場の商人であるにすぎなかったという説です。

私は副島氏のこの本で私が長い間理解できなかったことが理解できるようになりました。というのは、「強欲で無礼で他者への思いやりをかけ、非白人である先住民やアフリカ出身の人間そしてアジア人を家畜のようにしか考えていない無知無教養なアメリカ人」と、「誠実で、質素で、優しく、寛容なアメリカ人」とのアメリカという国内での共存が、それは国家としてばかりではなく個人の内面の問題としてでも、ありえないように思えて、長い間不思議で仕方がなかったからです。

わかりやすく言えば、善良なアメリカ人の系譜は、ユニテリアンに属するのであり、強欲なアメリカ人は、プロテスタントに属するというものです。そして、プロテスタントにも、どんなことでも神を信じ聖書を信じ科学を信じない福音派と、聖書をドキュメントと考える洗礼派および再洗礼派などがあり、ユニテリアン的な発想は、このうちの再洗礼派を中心に存在するというものです。

宗派で分けるというこのような記述は学問的でもないし、正確性にも欠けるのですが、アメリカのキリスト教徒である、25%のローマ・カトリック教徒、プロテスタントのうち聖書を盲目的に信じる25%の福音派、プロテスタントのうち聖書をドキュメントと考える洗礼派（バプテスト）および再洗礼派（アナ・バプテスト）が25%であると大雑把に分けたうえで、そもそもが、宗教ないしキリスト教徒としては認められていない生粋のユニテリアン、そして主に再洗礼派ないし洗礼派として教会に通っているユニテリアンの心を持っているユニテリアン系のキリスト教徒こそが「アメリカの良心」と「誇り」を守り続けている人たちであるという認識で2020年夏の、自分に理解できている、「アメリカの一部の国民の立派さ」の構成員であるというとらえ方をしておきたい。

今後どなたかにもっとわかりやすく「アメリカの良心」について教えてほしいが、20年以上前に購入している「アメリカンマインドの終焉」をもう一度読み直したい。尚、最初の女性解放論者であるメアリ・ウルストンクラフトは、ユニテリアンの教会の神父さんの指導を受けており、エマソンやメアリなどの関係もあって、今はユニテリアンに大きな関心を持っている自分がある。ナイチンゲールやニュートンやディケンズやフランク・ロイド・ライトやピート・シーガーなど若かりし森が出会って今でも好きな人たちにユニテリアンが多いようにも思っている今日この頃である。1995年設立の「国際ユニテリアン・ユニバーサリスト教会に多くのユニテリアンが属している。国際ロータリークラブとの関連も調べてみたい。

## 117) アメリカン・ハングマンと「法の支配」

アメリカン・ハングマンというドナルド・サザーランド主演の映画があります。よくあるストーリーで、公的機関であるアメリカ警察が、無実の人間を真犯人であると判断して追い詰める中、無実である主役が奮闘をして、真犯人を見つけ出し、正義が保たれるというストーリーです。このようなストーリーはどこの国にもあり、みんな好きだと思います。特に不正義を働いたのが個人ではなく、国家であるときには一層ファンは多くなる。それほど国家はこれまでに不正をしてきたということなのでしょう。しかしこのようなストーリーは、まだ中国では許されないでしょう（泣（笑））。

ただこの文脈の中で問題が生じます。アメリカでは「自警団（ヴィナレイジマン）」というものが伝統的にあり、自分の力で国家を築いたという伝統と誇りがあるアメリカでは、自分のことは自分で守る、自分たちの領域は自分たちで守るという意識が強く、結果として不当な個人による場合によっては地域住民による、虐殺や制裁が、正義に照らされてみると不当である行為が数限りなく起こってきたという事実が存在しているということです。映画「ミシSSIPPI・バーニング」に描かれているKKK（クー・クラックス・クラン）や2020年現在におけるBLACK・LIVES・MATTER運動の中での白人至上主義者による、アフリカ系アメリカ人に対する攻撃も同ような流れに属します。

大切なことは「法の支配」を守ることです。これができてはじめて「自由」という言葉が成り立ちます。自由主義国家では当然の前提なのですが、アメリカなどでは超富豪がアメリカ社会全体を支配しており、富による法の支配（お金持ちたちが、国会議員を使って、自分たちが得するような法律を作ること）がなされており、この伝統的な「法の支配」も揺らいでいるのかもしれませんが。しかしWSJ（アメリカの経済紙であるウォール・ストリート・ジャーナル）も認めるように、バーニー・サンダースさんの唱える「社会主義」の理想がアメリカ全体に広まっており、このことから法による支配の伝統的なきわめて自由主義的な意味から、より公共性を伴った「社会民主主義的な法の支配」に移行することも考えられるアメリカの今の政治状況ですので、やはり「法の支配」が大切であることは否定できないでしょう。

以上 2020年9月12日まで